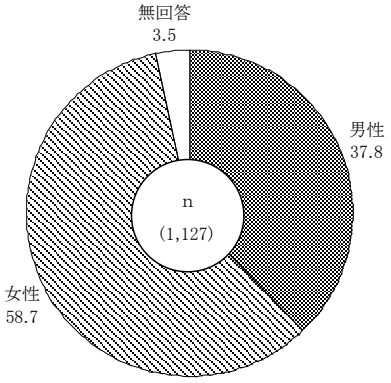
第２章　調査結果の詳細

基本属性

（１）性別

	基数	構成比
全体	1,127	100.0%
男性	426	37.8
女性	662	58.7
無回答	39	3.5



（２）年齢

	全体		男性		女性		性別不明
	基数	構成比	基数	構成比	基数	構成比	
全体	1,127	100.0%	426	100.0%	662	100.0%	39
20歳未満	25	2.2	11	2.6	14	2.1	0
20～24歳	50	4.4	21	4.9	29	4.4	0
25～29歳	56	5.0	16	3.8	40	6.0	0
30～34歳	75	6.7	26	6.1	49	7.4	0
35～39歳	103	9.1	30	7.0	73	11.0	0
40～44歳	127	11.3	45	10.6	82	12.4	0
45～49歳	128	11.4	46	10.8	82	12.4	0
50～54歳	119	10.6	47	11.0	72	10.9	0
55～59歳	93	8.3	36	8.5	57	8.6	0
60～64歳	167	14.8	73	17.1	93	14.0	1
65歳以上	148	13.1	75	17.6	71	10.7	2
無回答	36	3.2	0	0.0	0	0.0	36

（３）結婚の有無

	全体		男性		女性		性別不明
	基数	構成比	基数	構成比	基数	構成比	
全体	1,127	100.0%	426	100.0%	662	100.0%	39
している(事実婚を含む)	816	72.4	312	73.2	485	73.3	19
していない	229	20.3	99	23.2	130	19.6	0
離婚または死別	62	5.5	15	3.5	46	6.9	1
無回答	20	1.8	0	0.0	1	0.2	19

（４）配偶者の就労状況と雇用状態

就労状況

	全体		男性		女性		性別不明
	基数	構成比	基数	構成比	基数	構成比	
全体	816	100.0%	312	100.0%	485	100.0%	19
働いている	537	65.8	129	41.3	397	81.9	11
働いていない	268	32.8	178	57.1	82	16.9	8
無回答	11	1.3	5	1.6	6	1.2	0

雇用状態

	全体		男性		女性		性別不明
	基数	構成比	基数	構成比	基数	構成比	
全体	537	100.0%	129	100.0%	397	100.0%	11
正規雇用	355	66.1	43	33.3	308	77.6	4
非正規雇用	119	22.2	75	58.1	38	9.6	6
自営業	61	11.4	9	7.0	51	12.8	1
無回答	2	0.4	2	1.6	0	0.0	0

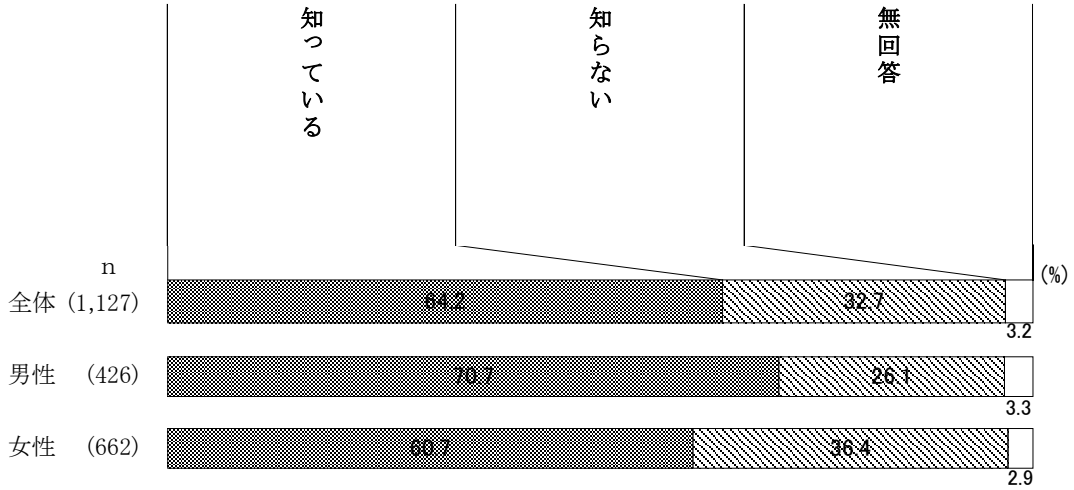
（５）同居の家族構成

	全体		男性		女性		性別不明
	基数	構成比	基数	構成比	基数	構成比	
全体	1,127	100.0%	426	100.0%	662	100.0%	39
ひとり暮らし	100	8.9	45	10.6	47	7.1	8
夫婦のみ（事実婚含む）	241	21.4	99	23.2	137	20.7	5
親と子ども（核家族世帯）	601	53.3	223	52.3	373	56.3	5
親と子ども夫婦（二世代世帯）	49	4.3	23	5.4	25	3.8	1
親と子ども夫婦と孫（三世代世帯）	63	5.6	20	4.7	41	6.2	2
その他	37	3.3	11	2.6	25	3.8	1
無回答	36	3.2	5	1.2	14	2.1	17

Ａ　男女の平等について

（１）男女共同参画（社会）という言葉の認知状況

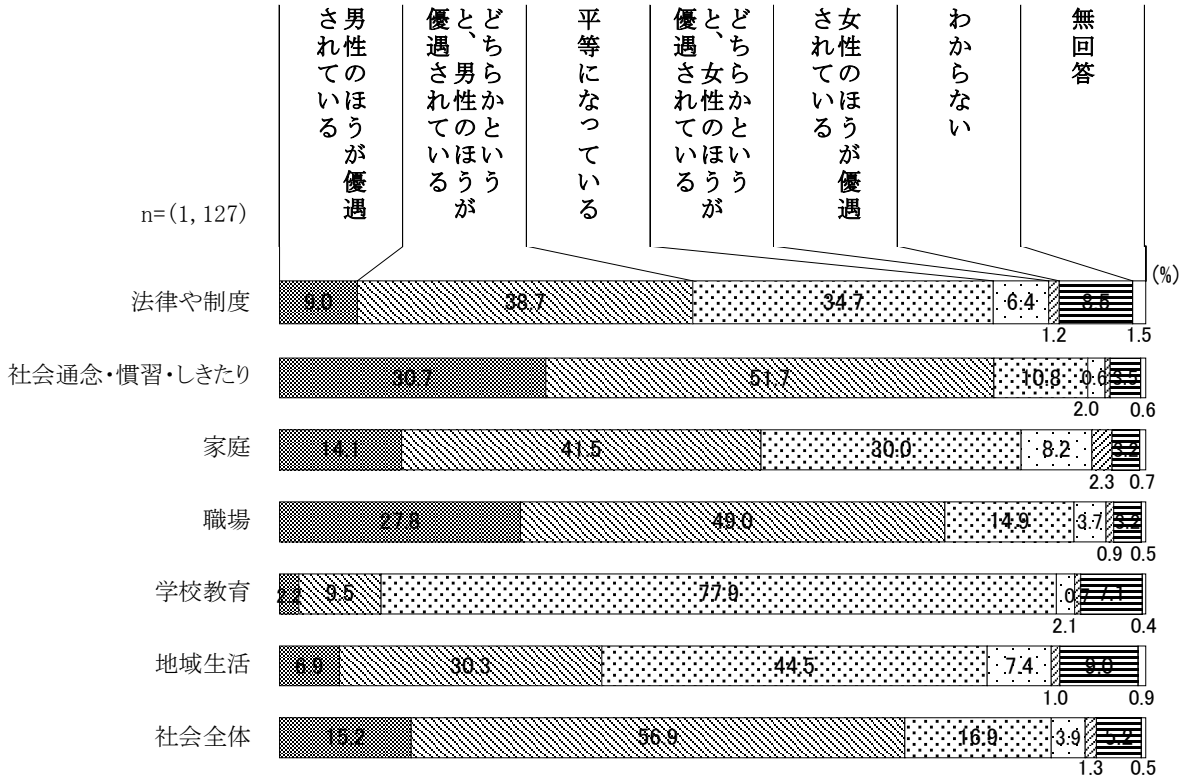
Ｑ１　あなたは、男女共同参画（社会）という言葉を知っていますか。



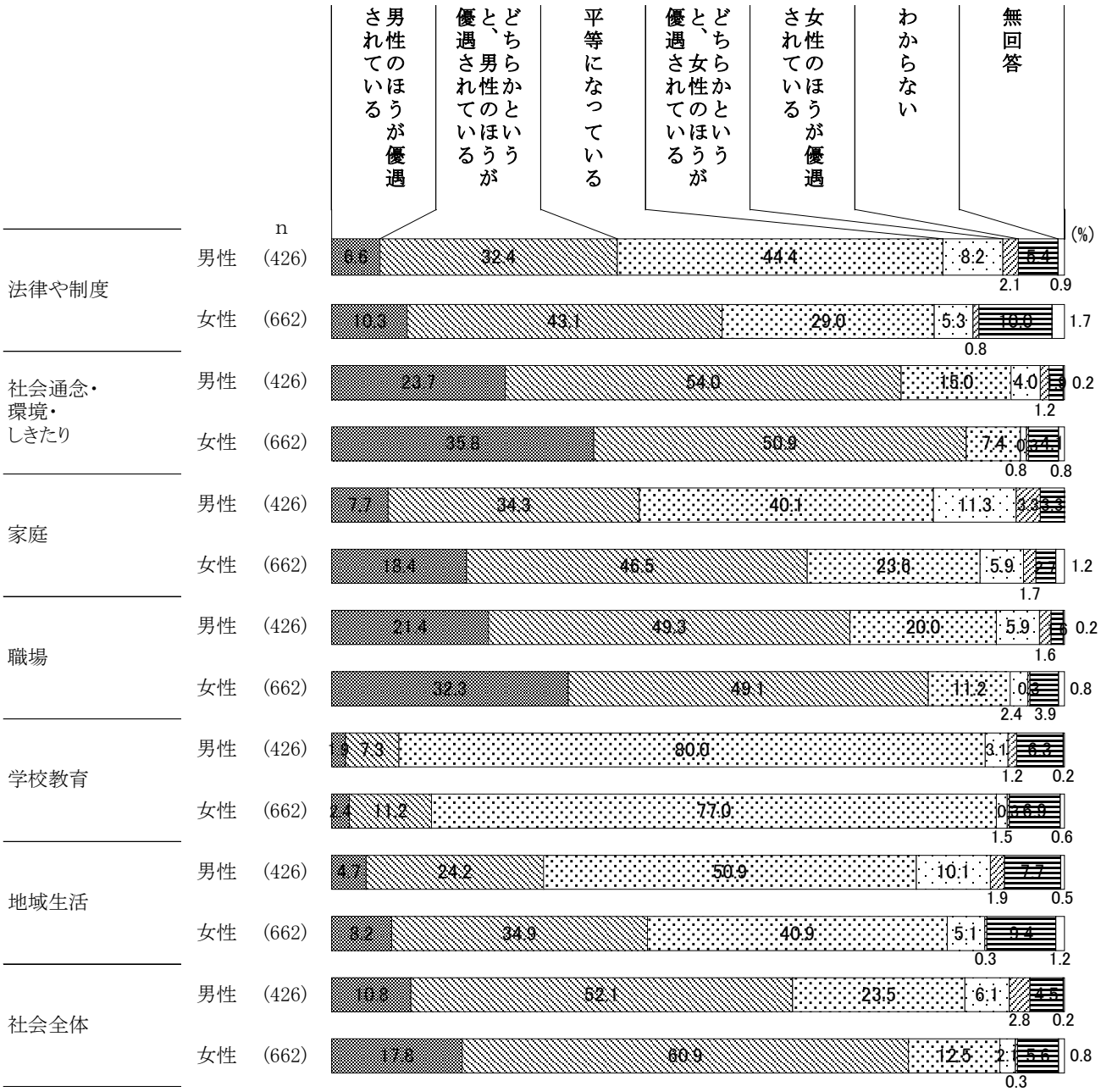
男女共同参画（社会）という言葉について、全体では「知っている」64.2%、「知らない」32.7%で「知っている」が31.5ポイント高い。性別では、「知っている」は男性70.7%、女性60.7%で男性が10.0ポイント高い。

（２）各分野における男女の地位の平等感

Ｑ２　あなたは、次の各分野において、男女の地位はどのようになっていると思いますか。
⑴～⑺の各項目につき１つずつ選び、○をお付けください。



各分野における男女の地位の平等感を全体でみると、「平等になっている」は『学校教育』が77.9％で最も高く、『地域生活』44.5％、『法律や制度』34.7％、『家庭』30.0％で続いている。「男性のほうが優遇されている」「どちらかというと、男性のほうが優遇されている」を合わせると『社会通念・慣習・しきたり』82.4％、『職場』76.8％、『社会全体』72.1％と高くなっている。

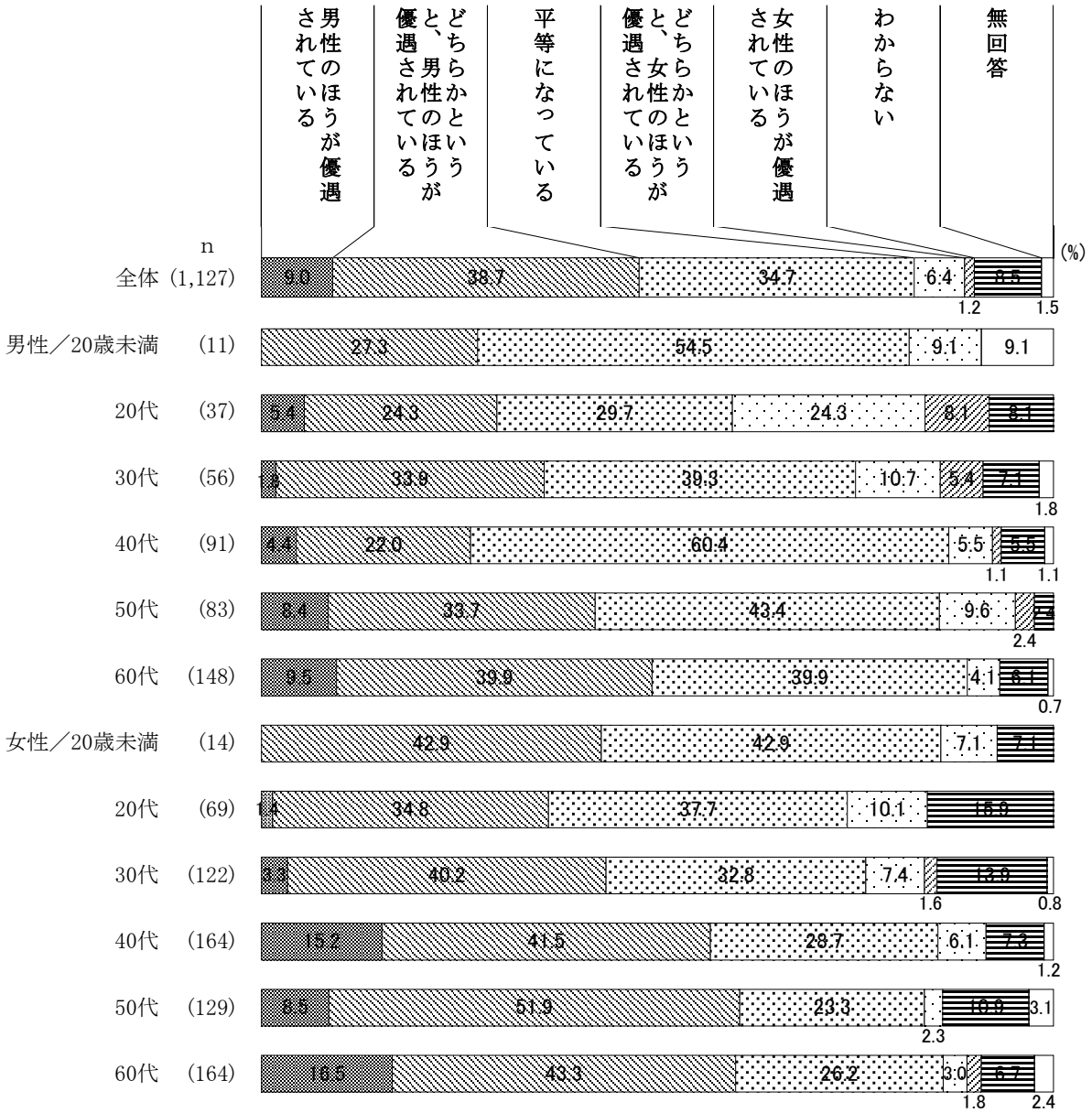


性別では、「男性のほうが優遇されている」「どちらかというと、男性のほうが優遇されている」は、『社会通念・環境・しきたり』女性86.7％、男性77.7％、「職場」女性81.4％、男性70.7％、「社会全体」女性78.7％、男性62.9％で、何れも男性の方が優遇されていると回答している女性の割合が高い。

「平等になっている」は、男女とも『学校教育』が男性80.0％、女性77.0％と高い。『家庭』では、男性が40.1％に対して女性は23.6％と16.5ポイント低く、『家庭』における平等感に男女で開きがある。

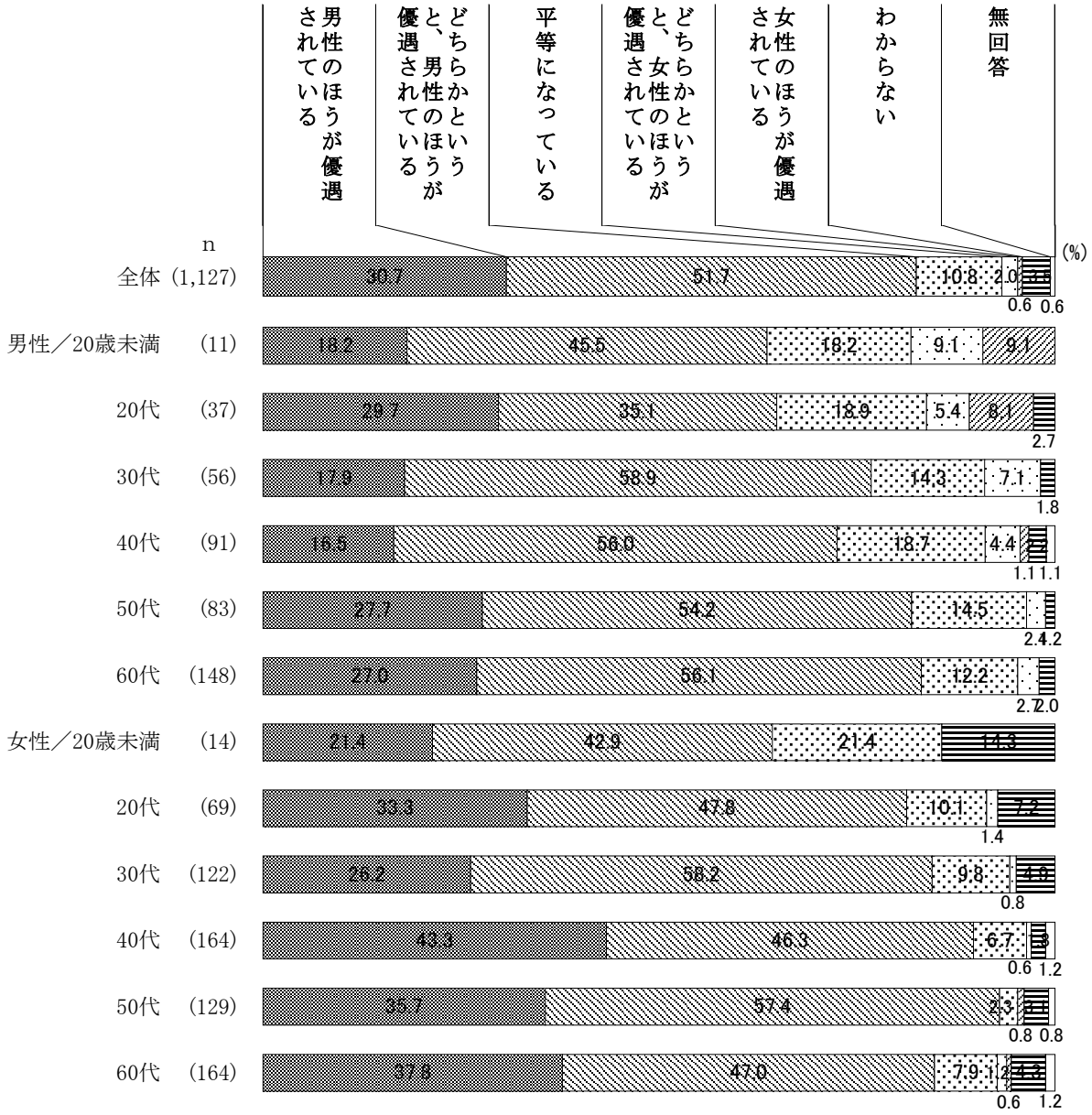
性年代別

法律や制度



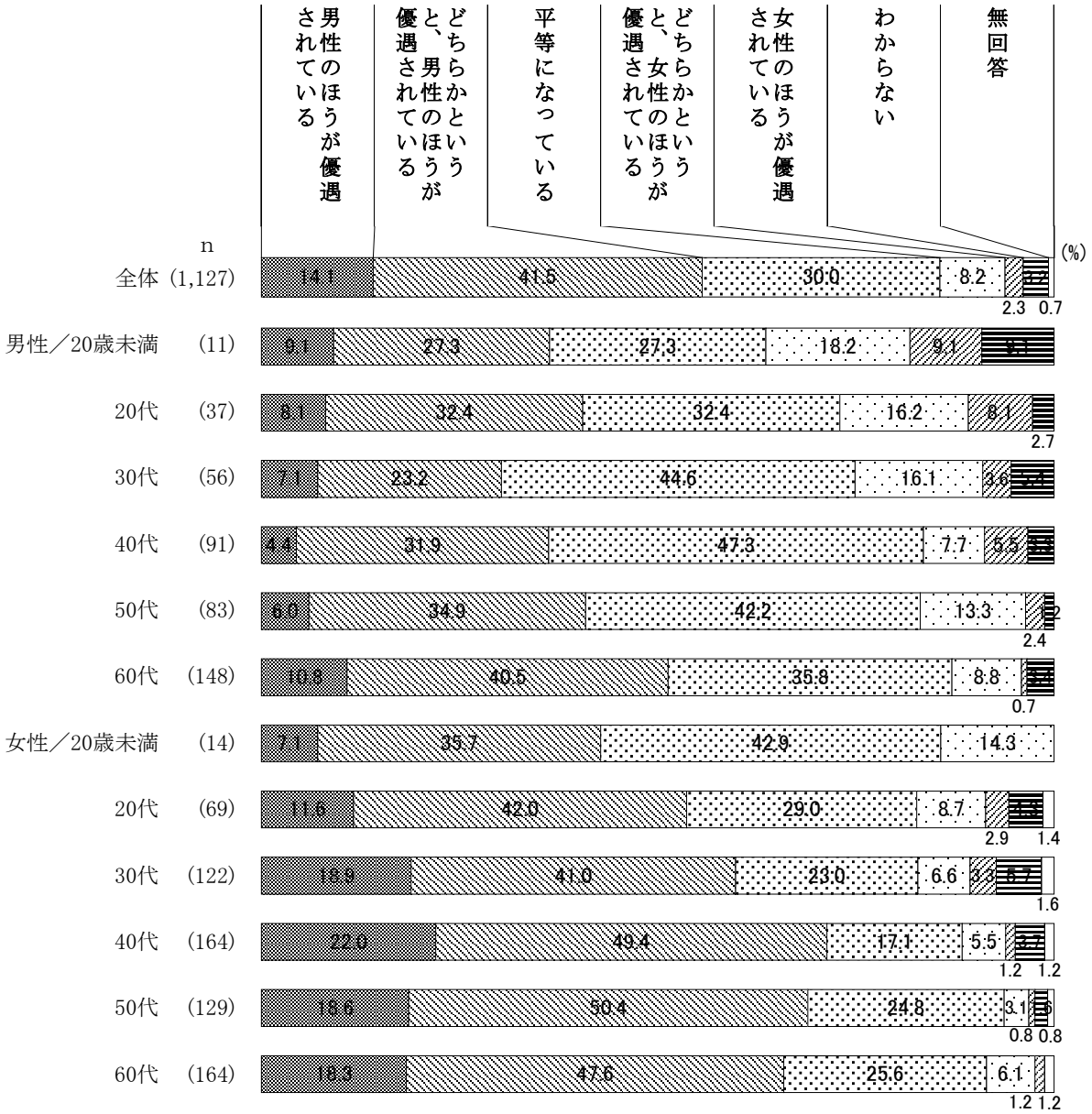
『法律や制度』について性年代別でみると、「男性のほうが優遇されている」「どちらかというと、男性のほうが優遇されている」は男女とも年齢があがるにしたがって割合が高くなり、女性40代以上で５割を超え、女性50代では60.4％、男性は60代で49.4％と最も高い。「平等になっている」は男性40代で60.4％と最も高く、女性では20代の37.7％が高い。

社会通念・慣習・しきたり



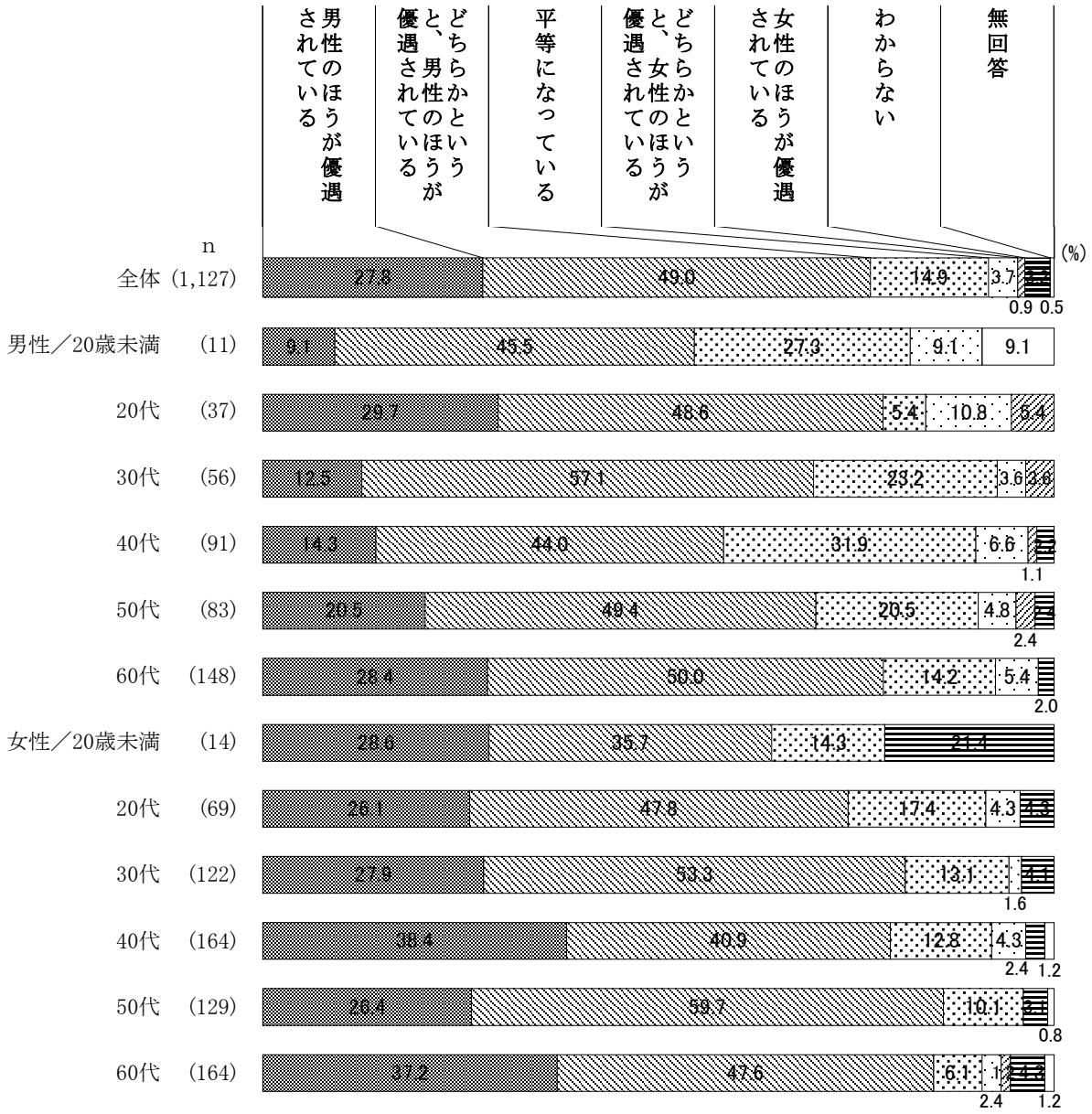
『社会通念・慣習・しきたり』について性年代別でみると、「男性のほうが優遇されている」「どちらかというと、男性のほうが優遇されている」は性別を問わず全ての年代で高い割合となっており、男性50代以上、女性20代以上で８割を超えている。特に女性50代では93.1％で９割台前半と最も高くなっている。

家庭



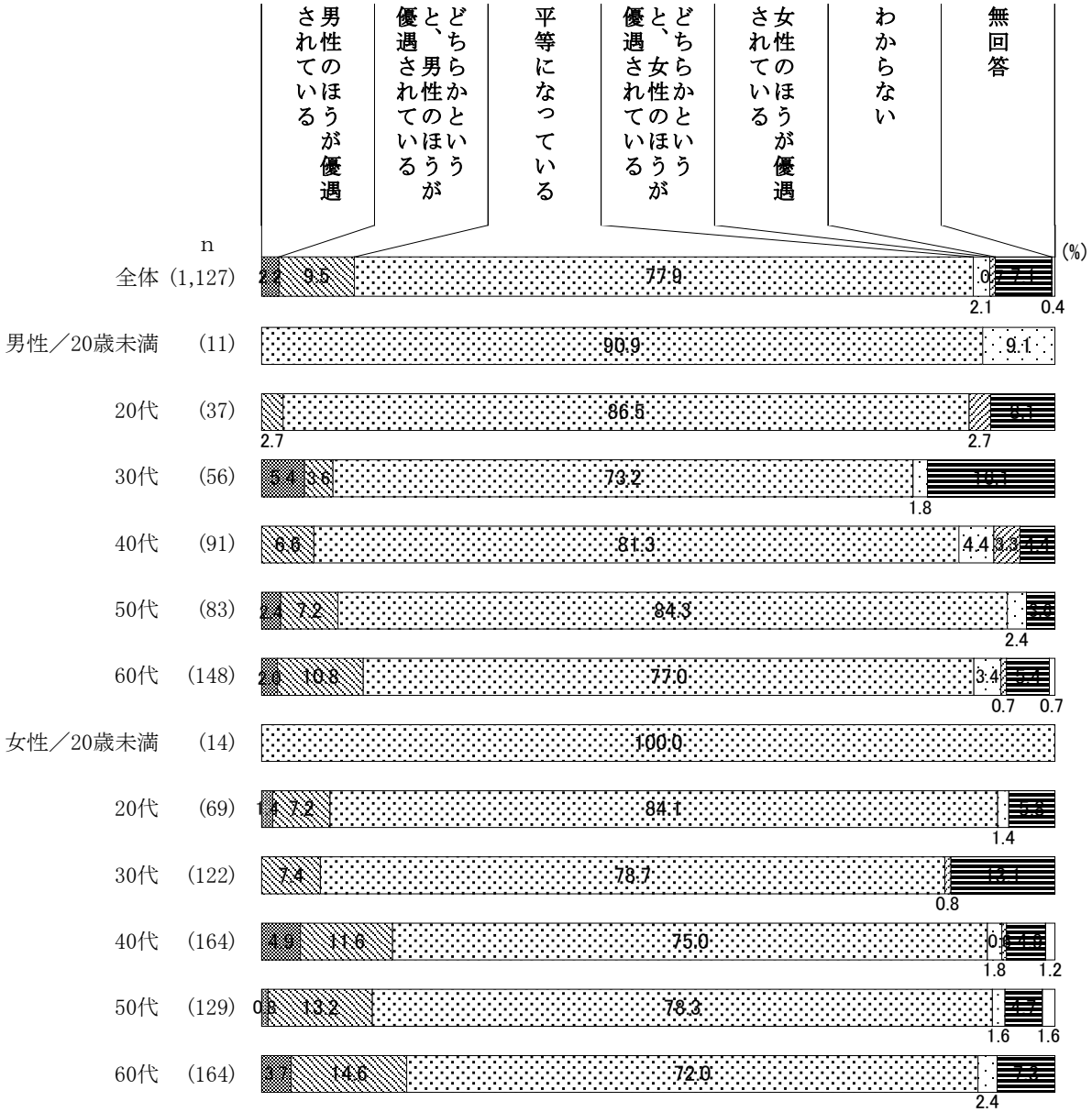
『家庭』について性年代別でみると、「平等になっている」は男性40代47.3％、30代44.6％、50代42.2％で４割を超えている。一方、「男性のほうが優遇されている」「どちらかというと、男性のほうが優遇されている」は女性20代以上で５割を超えて高く、30代59.9％、60代65.9％、50代69.0％、40代は71.4％、７割を超えて最も高くなっている。

職場



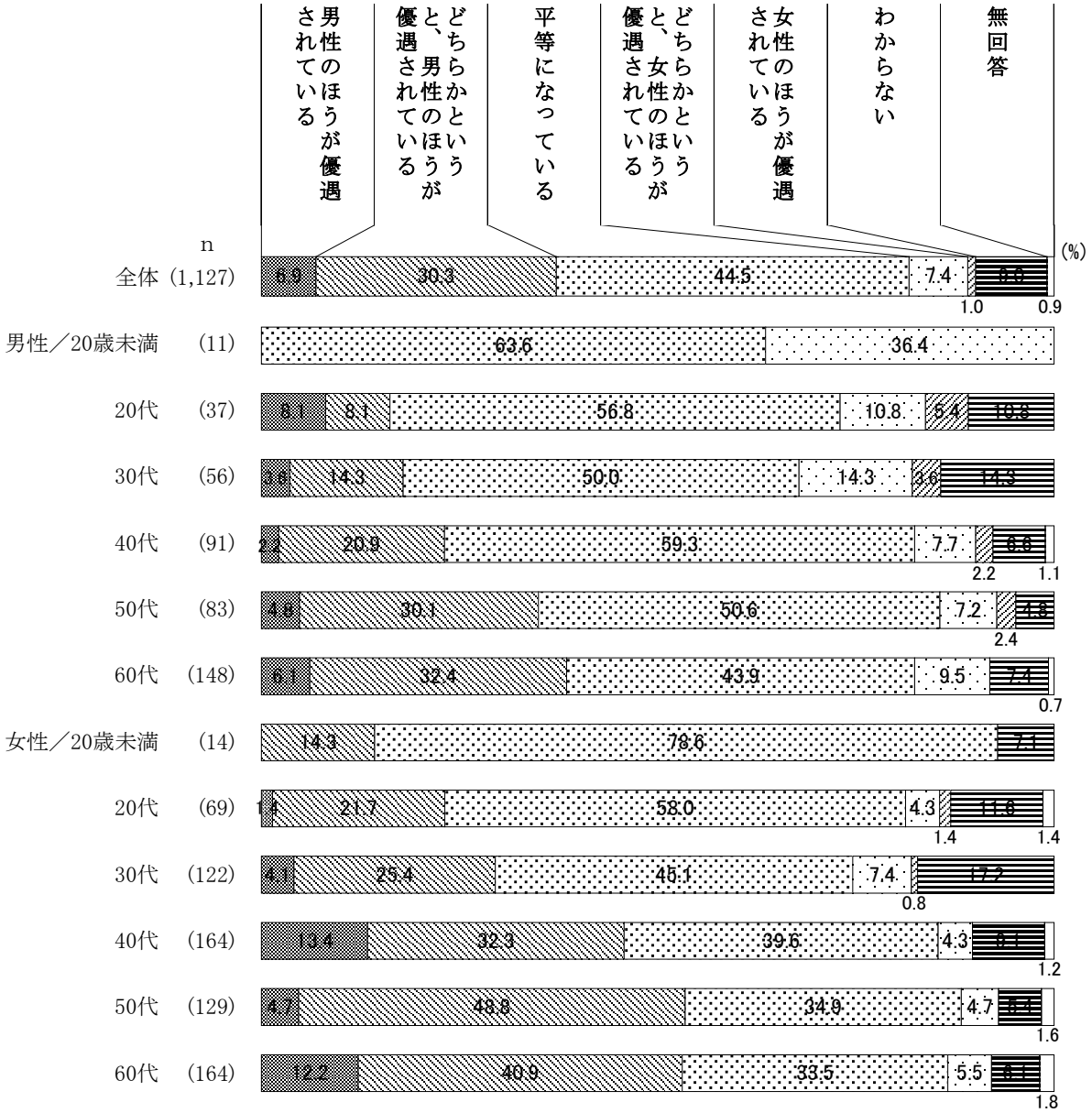
『職場』について性年代別でみると、「男性のほうが優遇されている」「どちらかというと、男性のほうが優遇されている」は性別を問わず全ての年代で高い割合となっており、男性では40代が58.3％で５割台後半であるが、30代、50代が約７割、20代、60代では７割台後半と高くなっている。女性は20代で７割を台前半、30代以上で８割を超えている。特に50代では86.1％で最も高くなっている。「平等になっている」は男性40代が31.9％で、他の年代、女性と比較して高くなっている。

学校教育



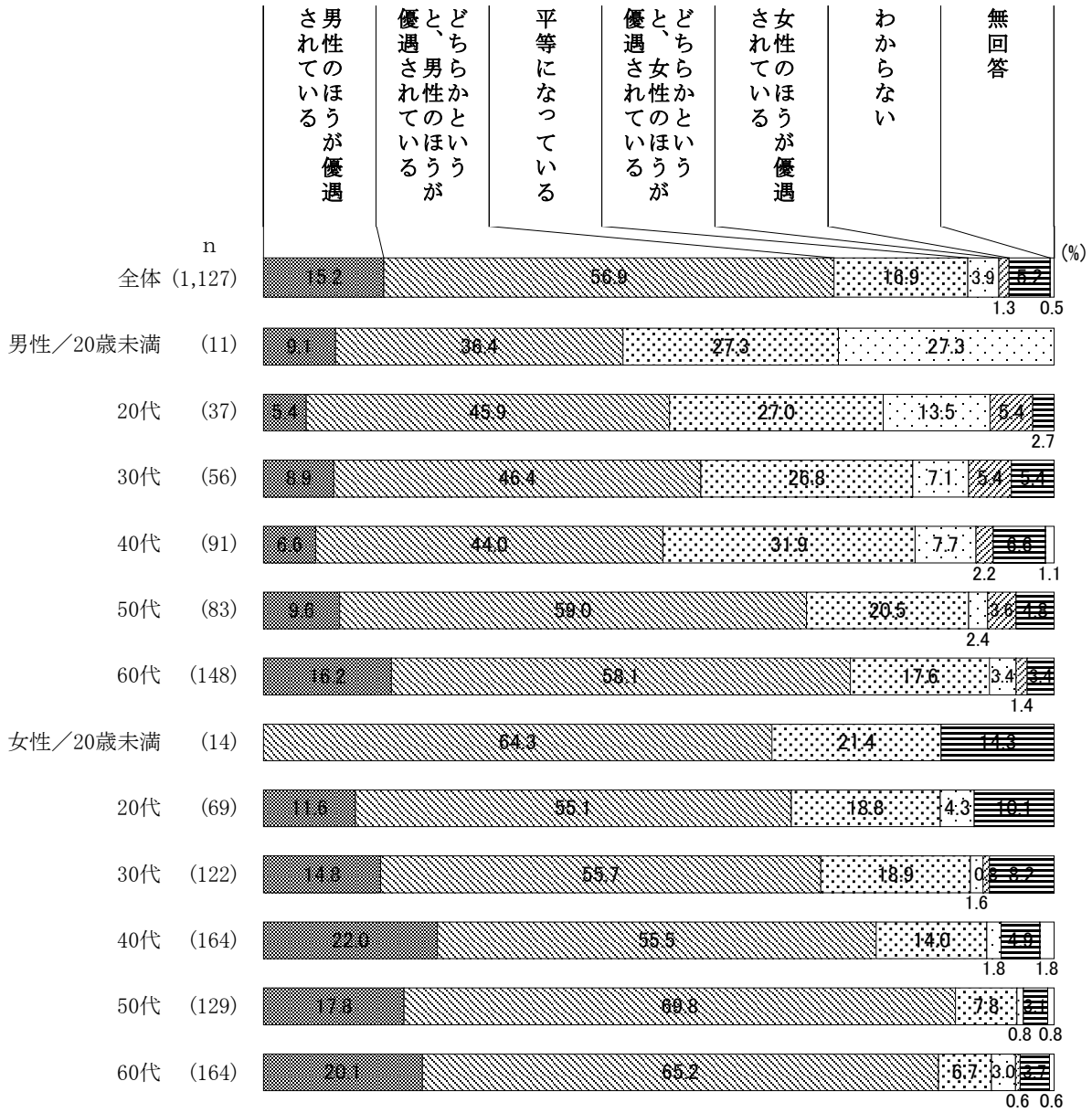
『学校教育』について性年代別でみると、「平等になっている」は性別を問わず全ての年代で７割以上と高い割合となっており、男性では20代86.5％、女性20代84.1％で男女とも20代が最も高くなっている。

地域生活



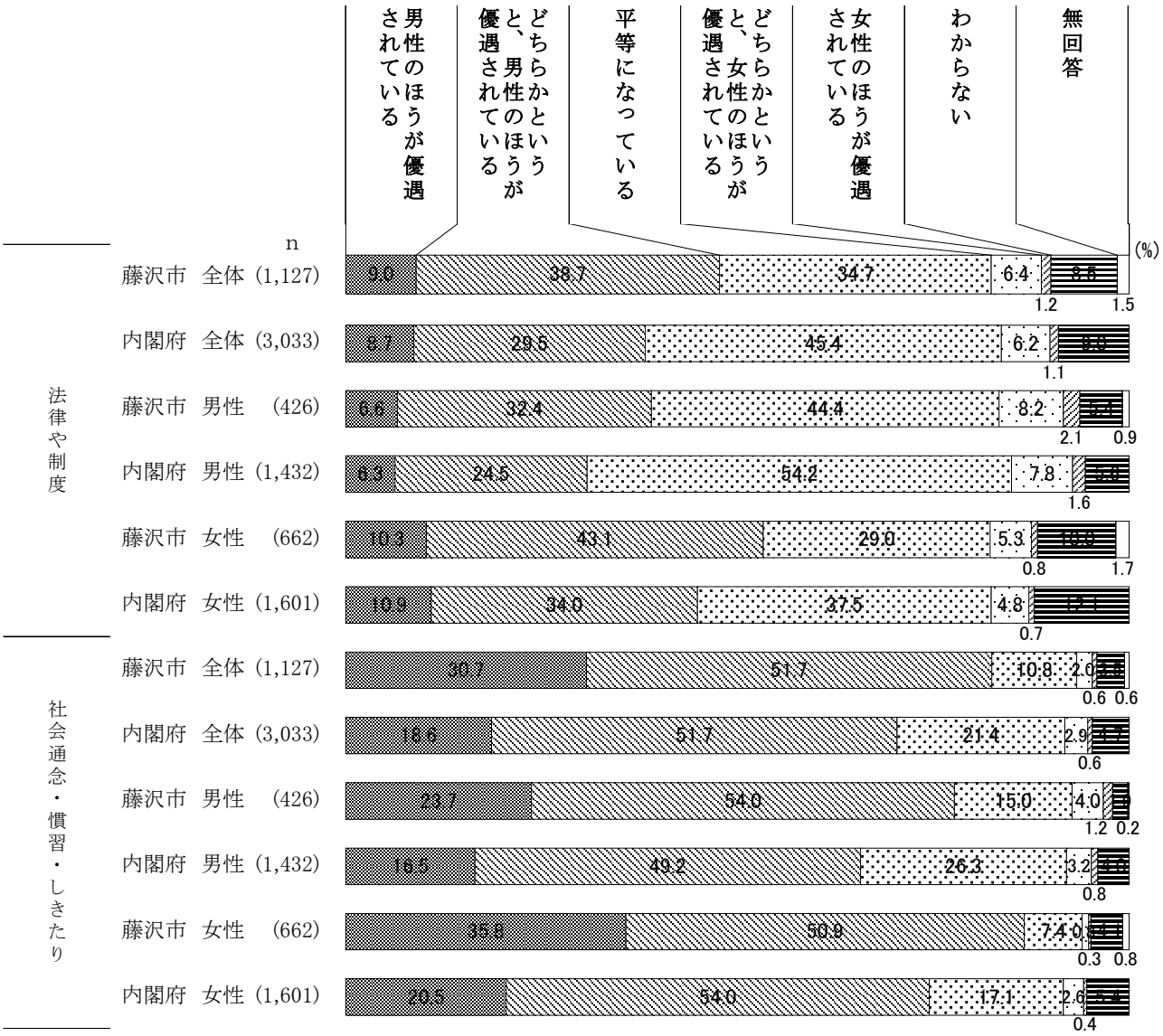
『地域生活』について性年代別でみると、「平等になっている」は男性の20代～50代、女性20代で５割以上と高く、男性40代59.3％、女性20代58.0％と最も高くなっている。「男性のほうが優遇されている」「どちらかというと、男性のほうが優遇されている」は年代があがるにしたがい割合が高くなり、女性40代45.7％、50代53.5％、60代53.1％で４割台半ばから５割台前半で、『地域活動』における平等感には男女で開きが見られる。

社会全体



『社会全体』について性年代別でみると、「男性のほうが優遇されている」「どちらかというと、男性のほうが優遇されている」は性別を問わず全ての年代で高い割合となっており、さらに男性より女性の割合が高くなっている。女性は年代があがるにしたがい高くなり、30代70.5％、40代77.5％、50代87.6％、60代85.3％で50代より2.3ポイント減少しているが、50代、60代ともに８割台後半となっている。男性では50代68.6％、60代74.3％で高い。「平等になっている」は男性の回答が高く、男性40代31.9％が最も高い。

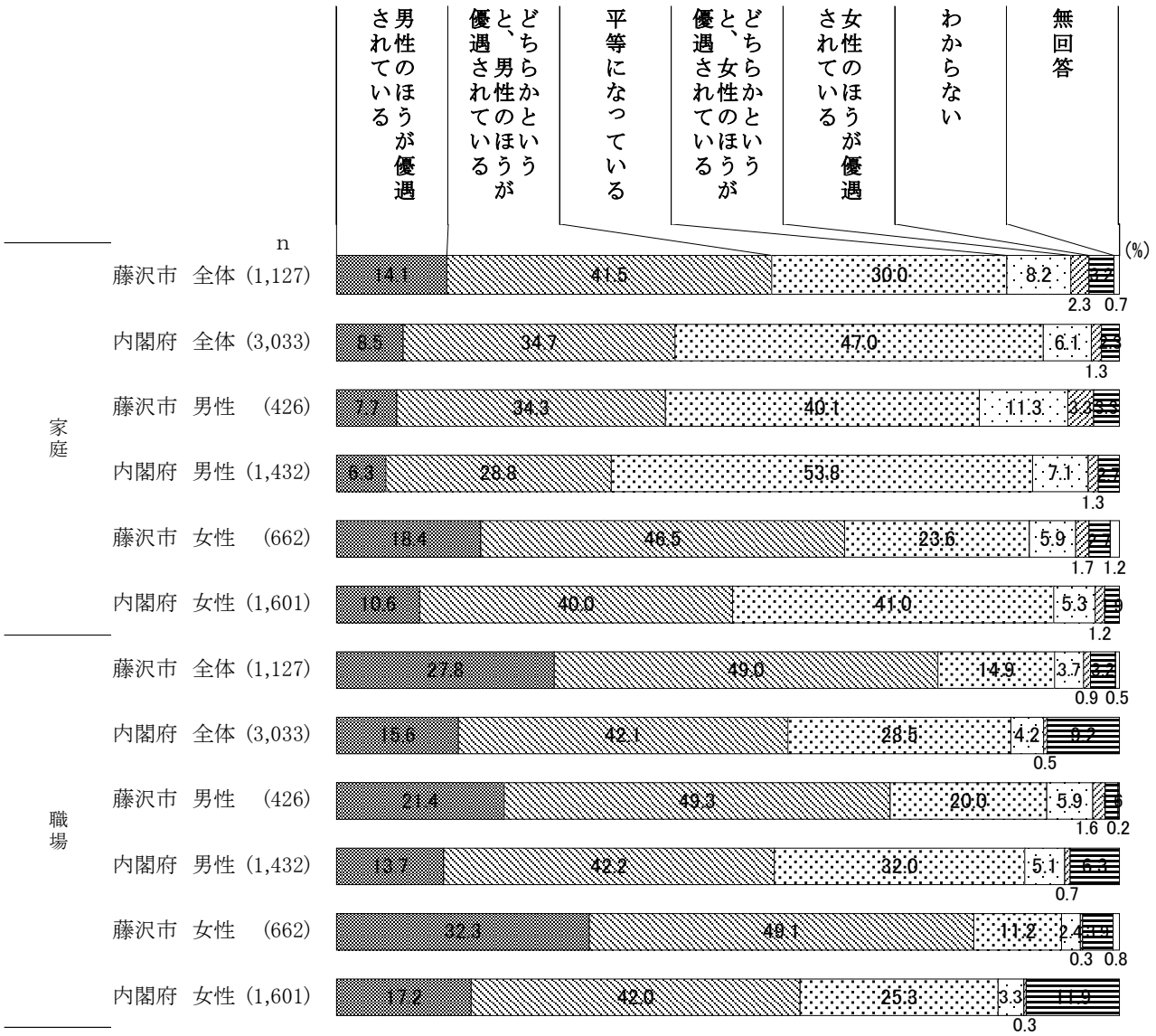
国との比較



『法律や制度』について国の調査と比較すると、「平等になっている」は藤沢市が10.7ポイント低く、「男性のほうが優遇されている」「どちらかというと、男性のほうが優遇されている」は藤沢市が9.5ポイント高く、『法律や制度』の平等感は国の調査の割合が高くなっている。

性別でも同様の傾向があり、男性は「平等になっている」は藤沢市が9.8ポイント低く、「男性のほうが優遇されている」「どちらかというと、男性のほうが優遇されている」は藤沢市が7.9ポイント高い。女性は「平等になっている」は藤沢市が8.5ポイント低く、「男性のほうが優遇されている」「どちらかというと、男性のほうが優遇されている」は藤沢市が9.1ポイント高い結果となっている。

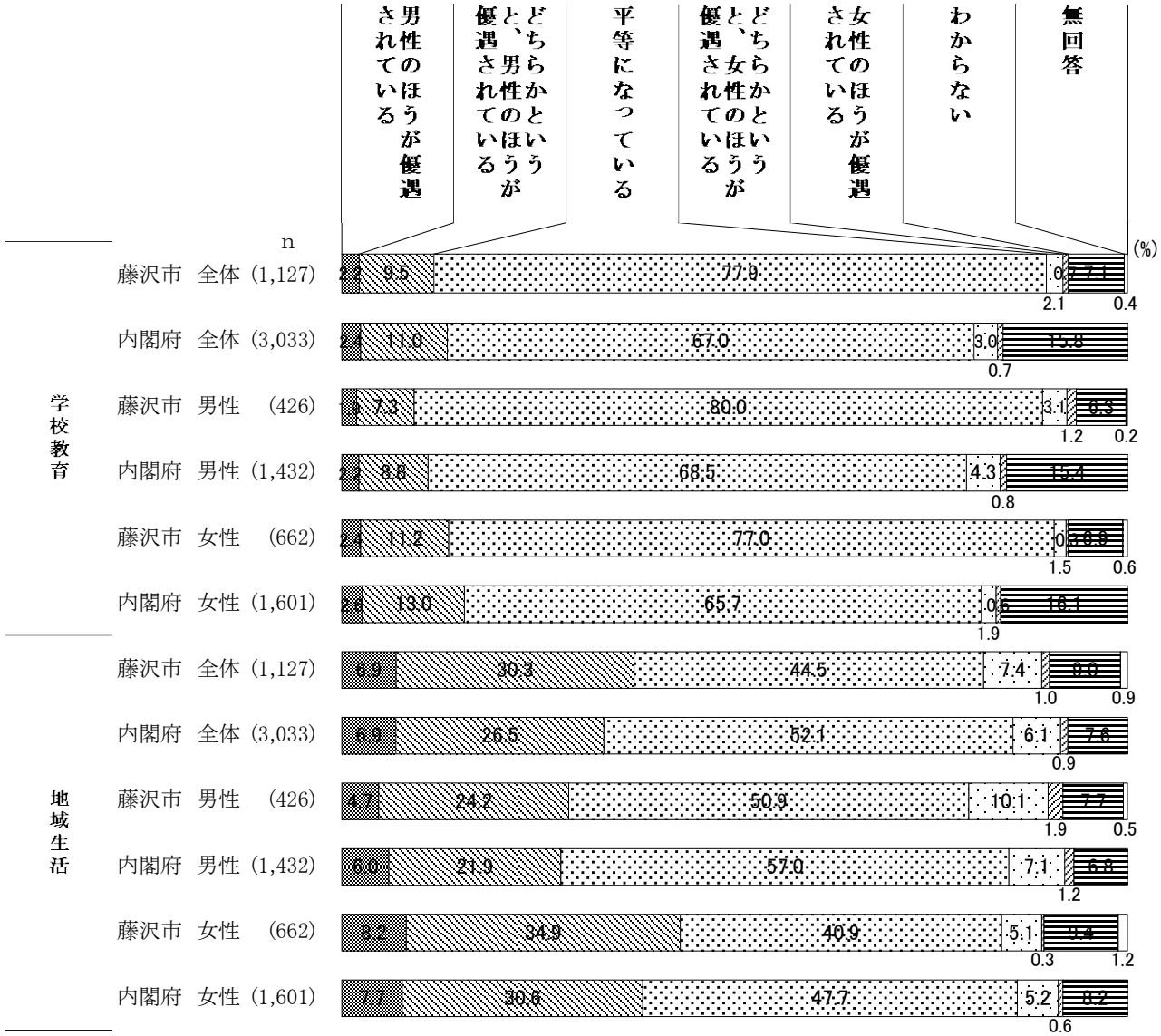
『社会通念・慣習・しきたり』については、「男性のほうが優遇されている」「どちらかというと、男性のほうが優遇されている」は藤沢市が12.1ポイント高く、性別でも男性は12.0ポイント、女性は12.2ポイントともに藤沢市の割合が高くなっている。



『家庭』については、国の調査では「平等になっている」が47.0％で、藤沢市は17.0ポイント低い。「男性のほうが優遇されている」「どちらかというと、男性のほうが優遇されている」は藤沢市が12.4ポイント高くなっている。

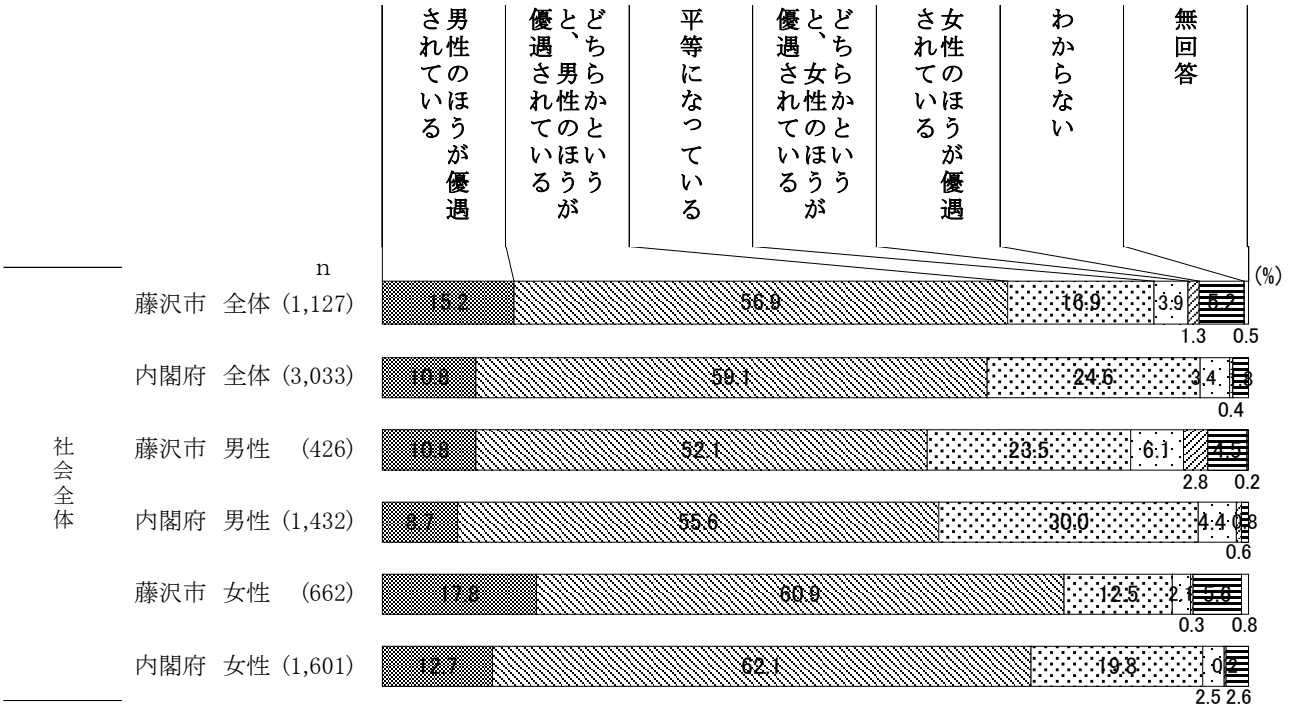
性別では「平等になっている」は国の調査の男性53.8％に対し藤沢市40.1％で13.7ポイント低く、女性は国41.0％に対し、藤沢市は17.4ポイント低い23.6％となっている。「男性のほうが優遇されている」「どちらかというと、男性のほうが優遇されている」は男女とも藤沢市が高く、女性は14.3ポイント高くなっている。

『職場』については、国の調査、藤沢市調査とも「男性のほうが優遇されている」「どちらかというと、男性のほうが優遇されている」割合が高いが、藤沢市は全体で19.1ポイント、男性で14.8ポイント、女性では22.2ポイント国の調査より高くなっている。



『学校教育』については、国の調査、藤沢市調査とも「平等になっている」が全体、性別とも６割以上で高い割合となっており、藤沢市が全体で10.9ポイント、男性11.5ポイン、女性11.3ポイント高い。

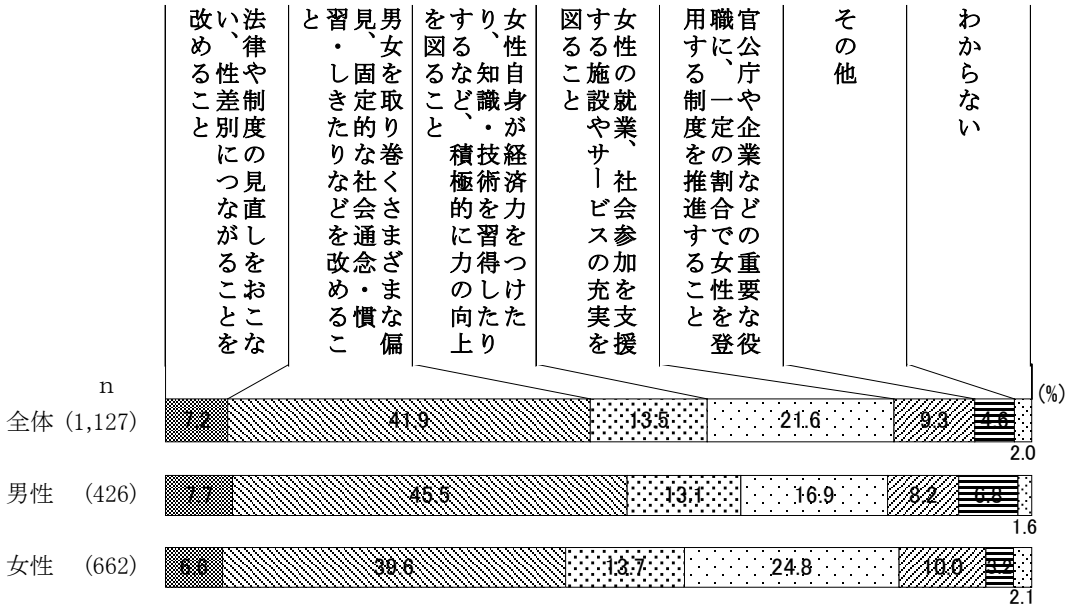
『地域生活』については、国の調査、藤沢市調査とも「平等になっている」が全体、性別とも４割台から５割台後半となっている。全体、性別とも藤沢市が全体7.6ポイント、男性6.1ポイント、女性6.8ポイント、それぞれ低くなっている。「男性のほうが優遇されている」「どちらかというと、男性のほうが優遇されている」は藤沢市が、全体3.8ポイント、男性1.0ポイント、女性4.8ポイント高くなっている。



『社会全体』については、国の調査、藤沢市調査とも「男性のほうが優遇されている」「どちらかというと、男性のほうが優遇されている」が全体、性別ともに５割台前半から６割台前半と高く、国と藤沢市の差は数ポイントで大きな差はない。

（３）男女が平等になるためにもっとも重要と思うこと

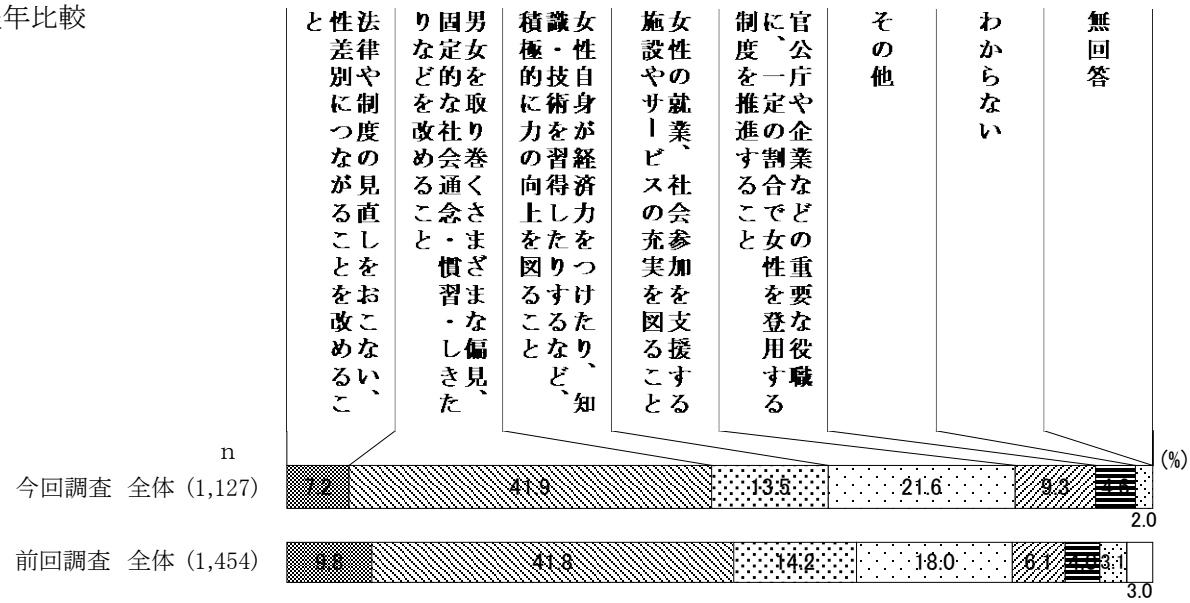
Ｑ３　あなたが、今後男女があらゆる分野でより平等になるために、もっとも重要と思うことは何でしょうか。１つだけお選びください。



今後男女があらゆる分野でより平等になるために最も重要と思うことは、全体では、「男女を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念・慣習・しきたりなどを改めること」が41.9％で最も高く、次いで「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」21.6％、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得したりするなど、積極的に力の向上を図ること」13.5％となっている。

性別では、ともに「男女を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念・慣習・しきたりなどを改めること」が最も高く、男性45.5％、女性39.6％となっている。次いで「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」が男性16.9％、女性24.8％で女性が7.9ポイント高い。

経年比較

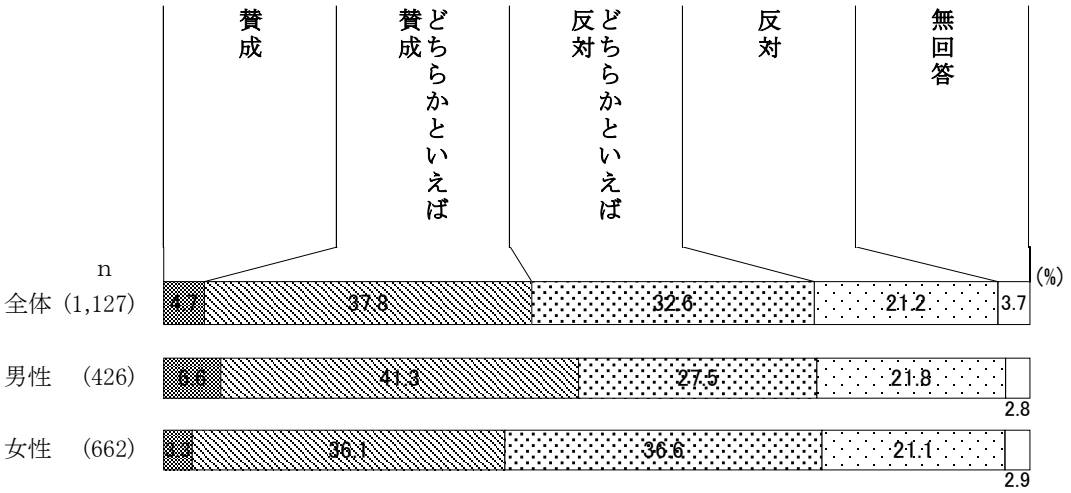


前回調査と比較すると、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」が3.6ポイント増加している。

Ｂ　結婚・家庭生活について

（１）「男は仕事、女は家庭」という考え方について

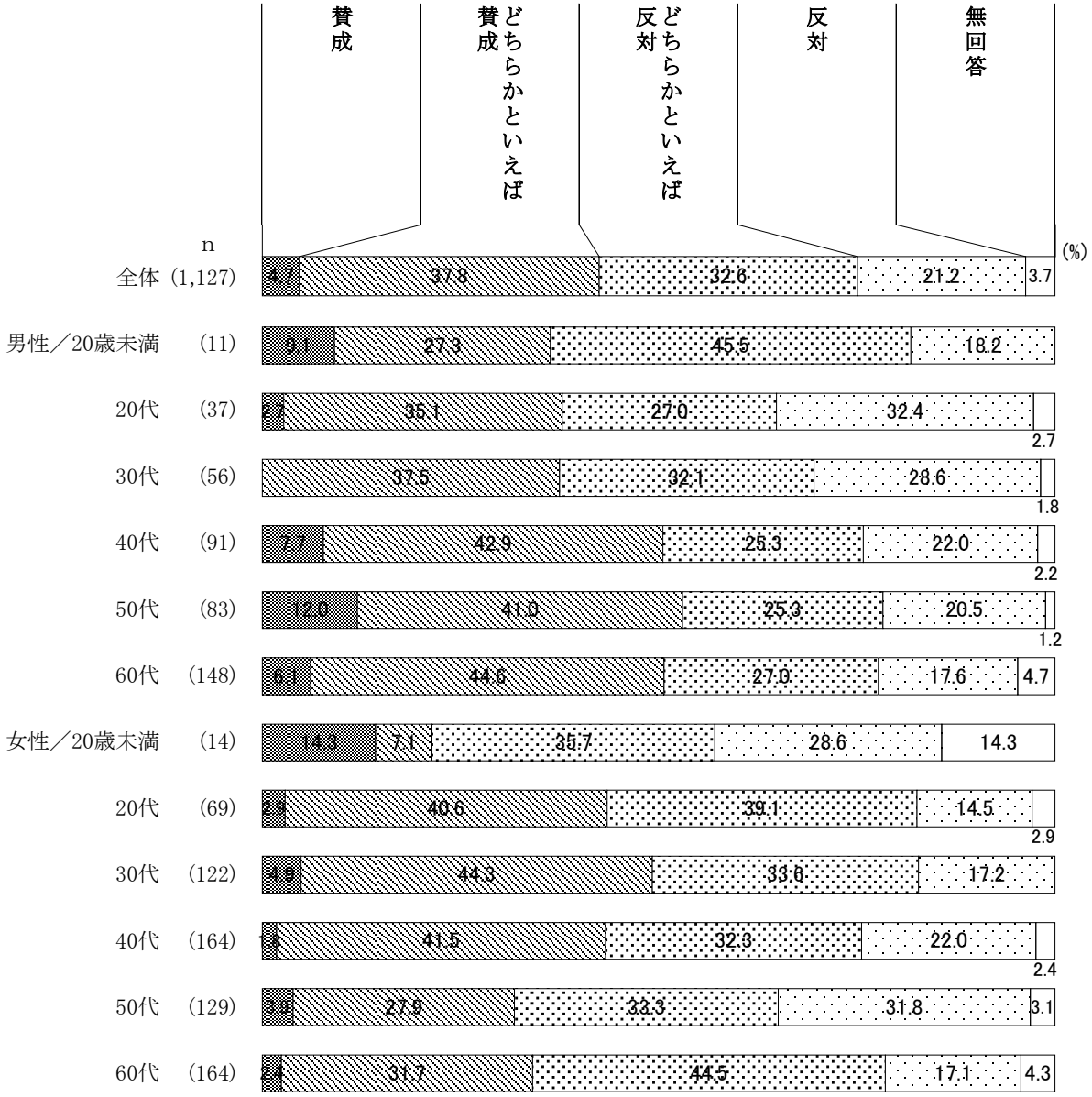
Ｑ４　「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、これについてあなたはどのようにお考えになりますか。１つだけお選びください。



「男は仕事、女は家庭」という考え方については、全体では、「反対」「どちらかと言えば反対」が53.8％、「賛成」「どちらかといえば賛成」が42.5％で反対が11.3ポイント高い。

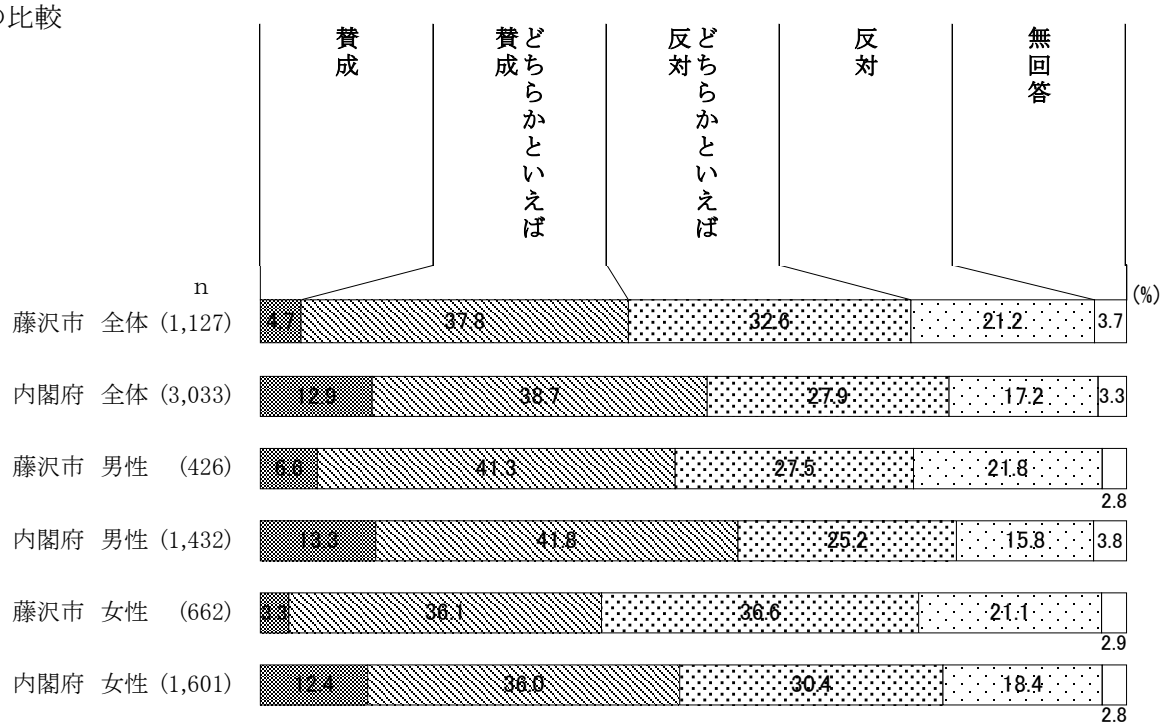
性別では、女性は「反対」「どちらかと言えば反対」57.7％、「賛成」「どちらかといえば賛成」39.4％で反対が18.3ポイント高いが、男性は反対、賛成に大きな差はない。

性年代別



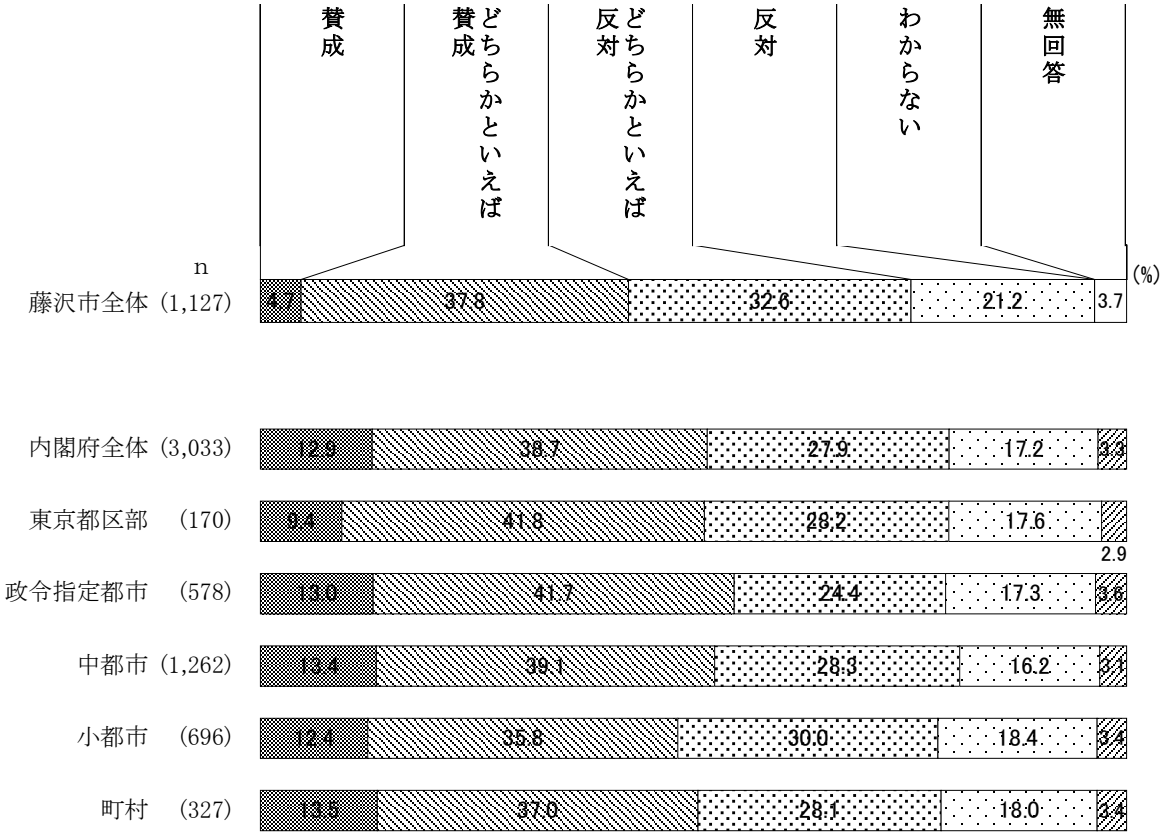
性年代別では、「賛成」「どちらかといえば賛成」は男性40代以上で５割を超え、50代で53.0％と高い。女性では20代～40代で４割を超えており、30代が49.2％と高い。一方、「反対」「どちらかと言えば反対」は女性50代、60代が６割を超えて高く、男性20代、30代が約６割と他の年代に比較して高い。

国との比較



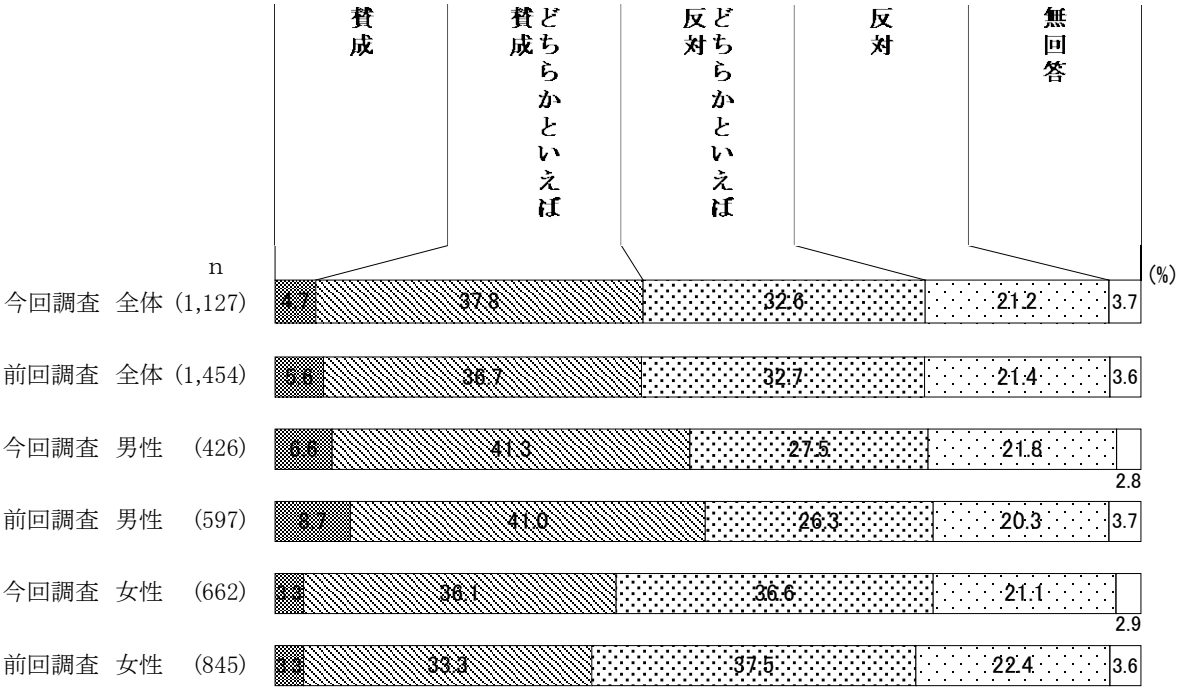
「男は仕事、女は家庭」という考え方について国の調査と比較すると、国の調査では全体、性別ともに「賛成」「どちらかといえば賛成」の割合が高く、藤沢市では「反対」「どちらかと言えば反対」の割合が高くなっている。「賛成」「どちらかといえば賛成」は全体では藤沢市が9.1ポイント低く、「反対」「どちらかと言えば反対」は8.7ポイント高い。

性別では、「反対」「どちらかと言えば反対」が藤沢市女性が8.9ポイント、男性は8.3ポイント高くなっている。



夫は外で働き、妻は家庭を守るべきという考え方については、藤沢市は、「どちらかといえば賛成」が３割台後半、「どちらかといえば反対」が３割台前半と大きな差はなく、中都市に近い傾向となっている。

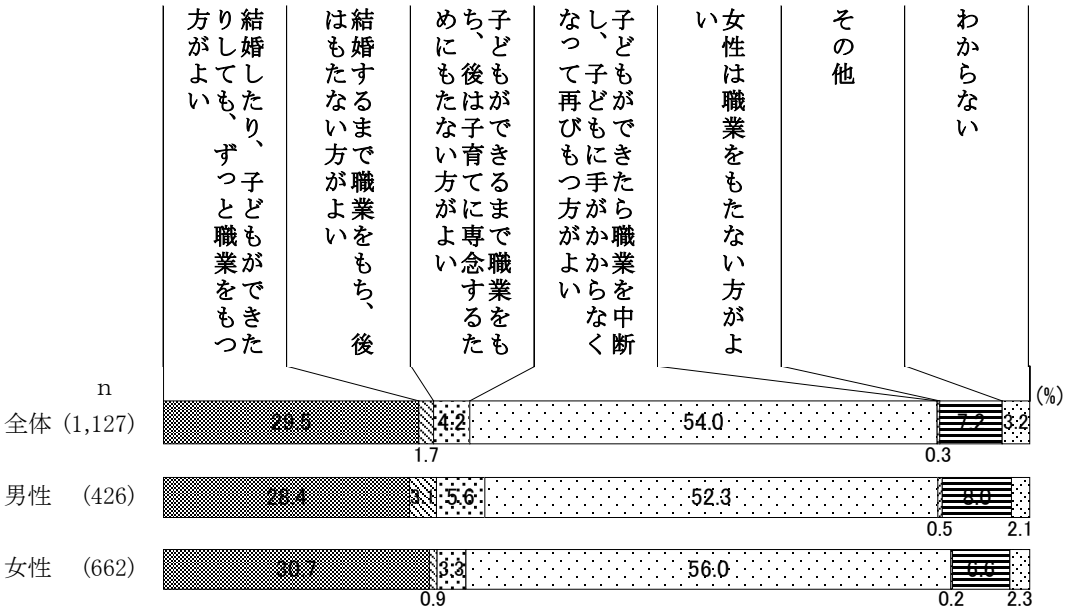
経年比較



前回調査と比較すると、全体、性別ともほとんど変化は見られない。

（２）「女性が職業をもつこと」について最も望ましい形

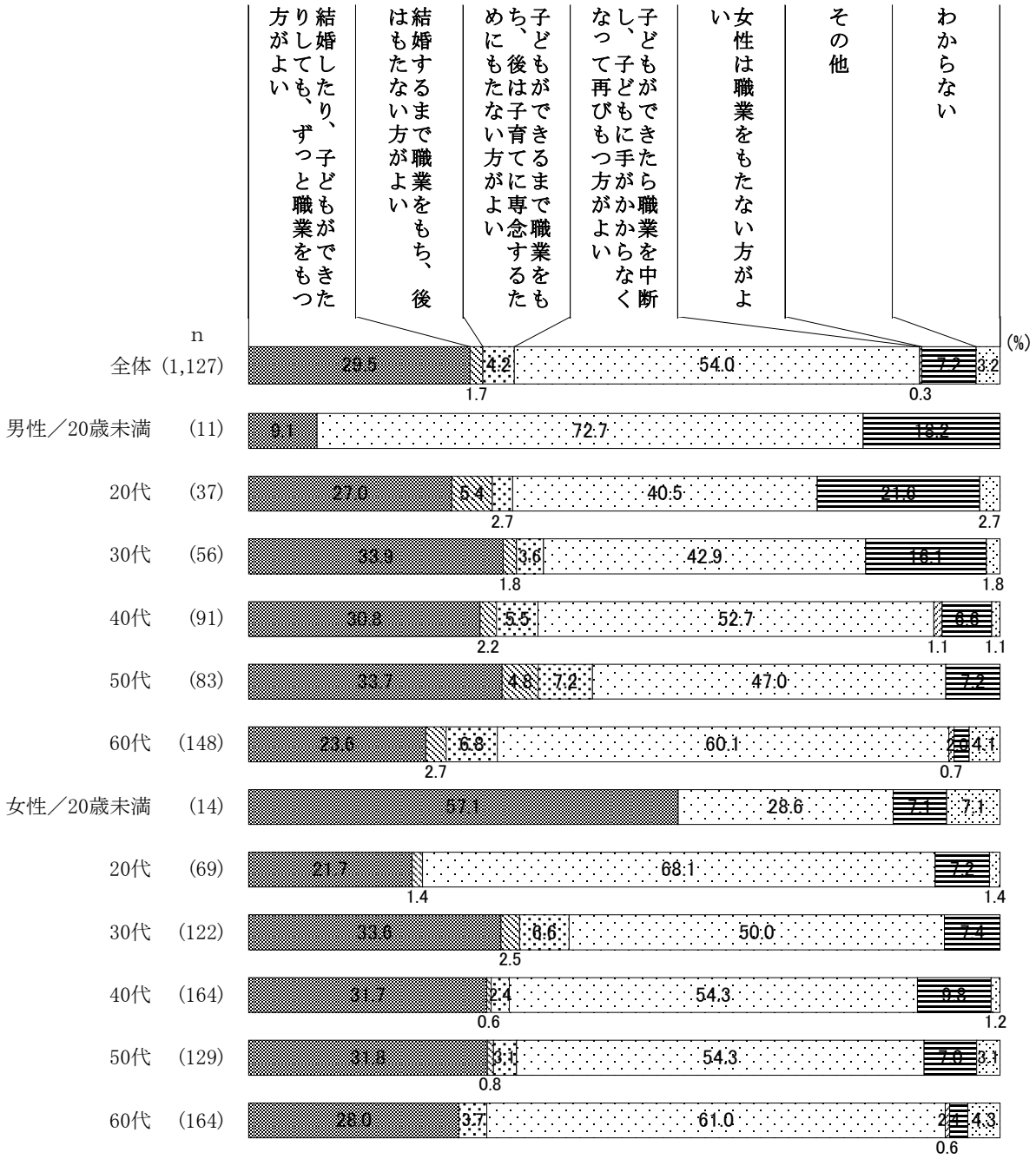
Ｑ５　「女性が職業をもつこと」について、どのような形が最も望ましいと思いますか。あなたの考えに近いものを１つだけお選びください。



「女性が職業をもつこと」について最も望ましい形は、全体では、「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」が54.0％で５割を超えて最も高く、次いで「結婚したり、子どもができたりしても、ずっと職業をもつ方がよい」29.5％となっている。「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」54.0％、「結婚したり、子どもができたりしても、ずっと職業をもつ方がよい」29.5％を合わせると83.5％が女性は結婚、出産後も職業を持つ方がよいと回答している。一方、「子どもができるまで職業をもち、後は子育てに専念するためにもたない方がよい」4.2％、「結婚するまで職業をもち、後はもたない方がよい」1.7％で結婚、出産を機に仕事をやめた方がよいという回答は、わずか5.9％となっている。

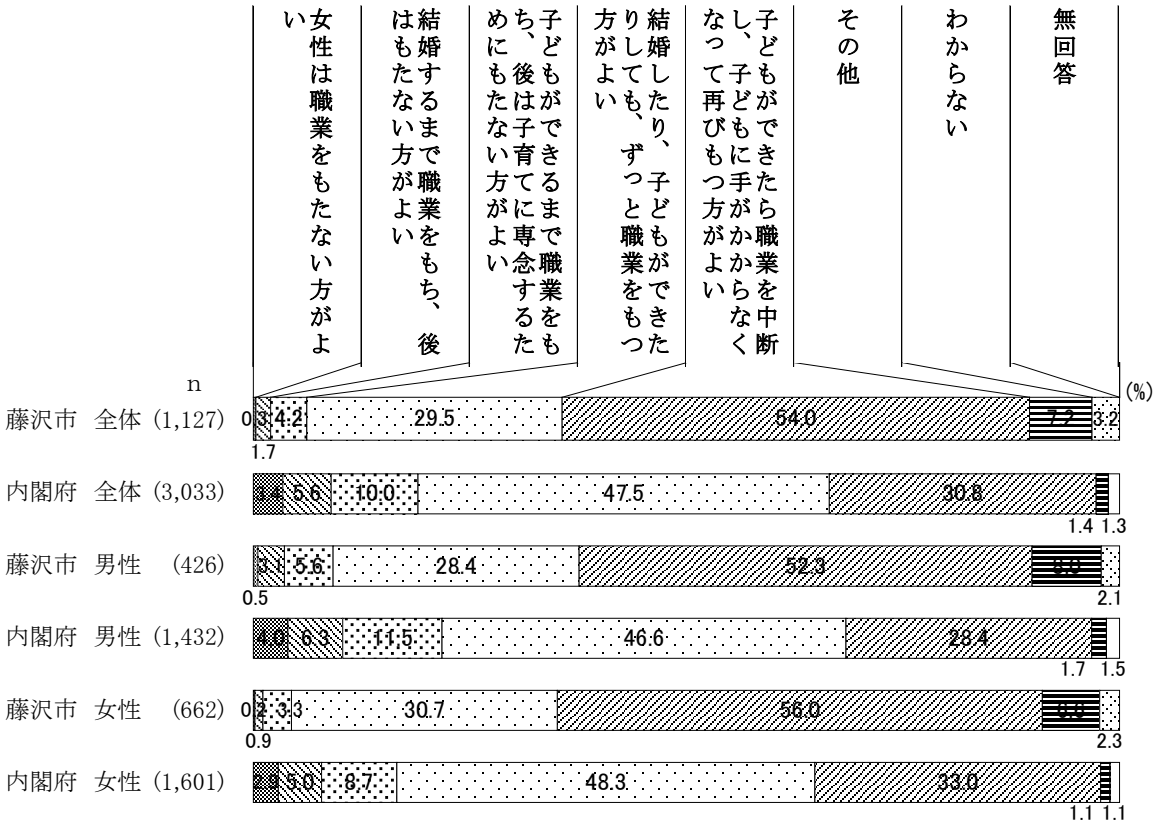
性別でも同様に、「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」は男性52.3％、女性56.0％で５割を超え、「結婚したり、子どもができたりしても、ずっと職業をもつ方がよい」は男性28.4％、女性30.7％となっており、女性と男性で大きな差はない。

性年代別

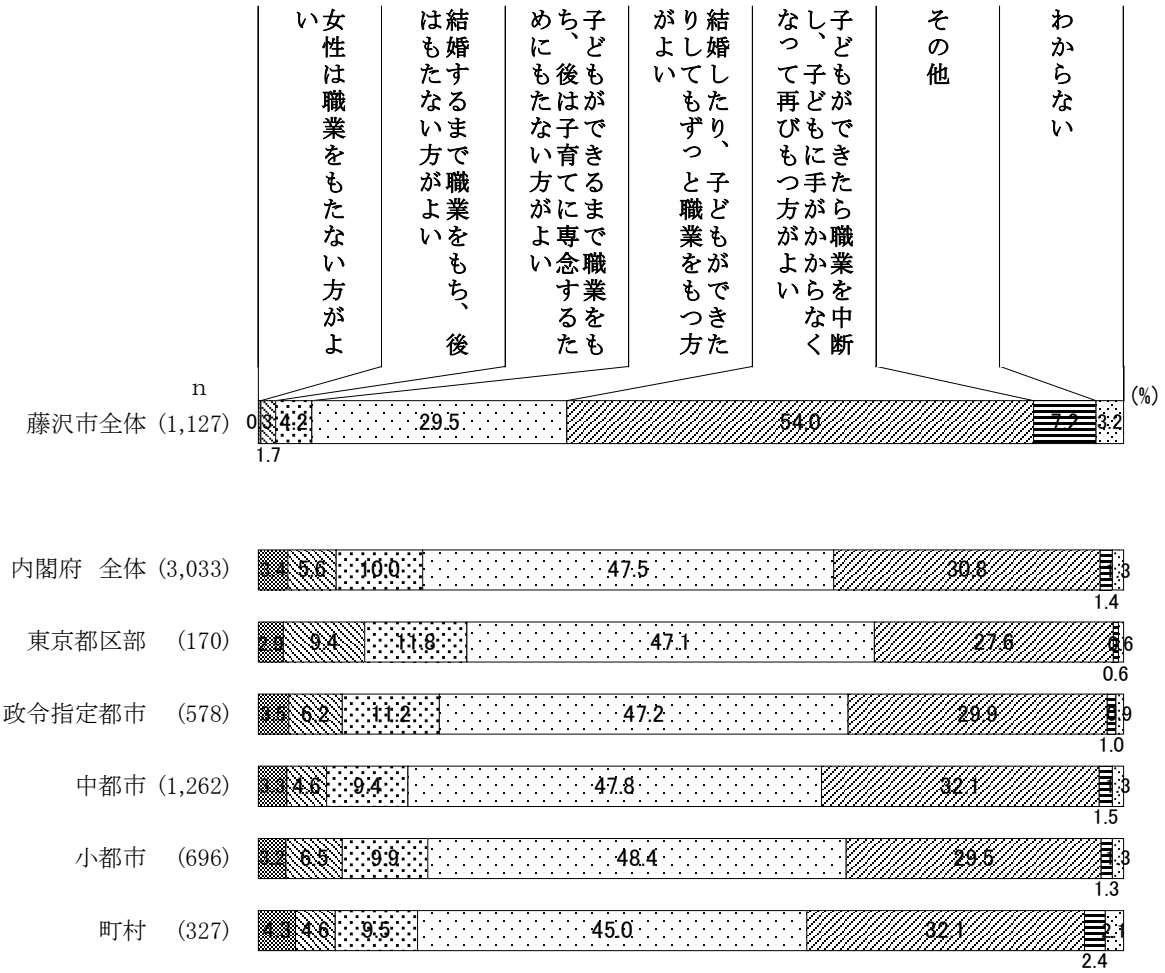


性年代別では、「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」が性別を問わず全ての年代で高い割合となっている。男性では60代が60.1％、女性20代が68.1％、60代61.0％で６割台となっている。「結婚したり、子どもができたりしても、ずっと職業をもつ方がよい」は男女とも30代～50代で３割台となっている。

国との比較

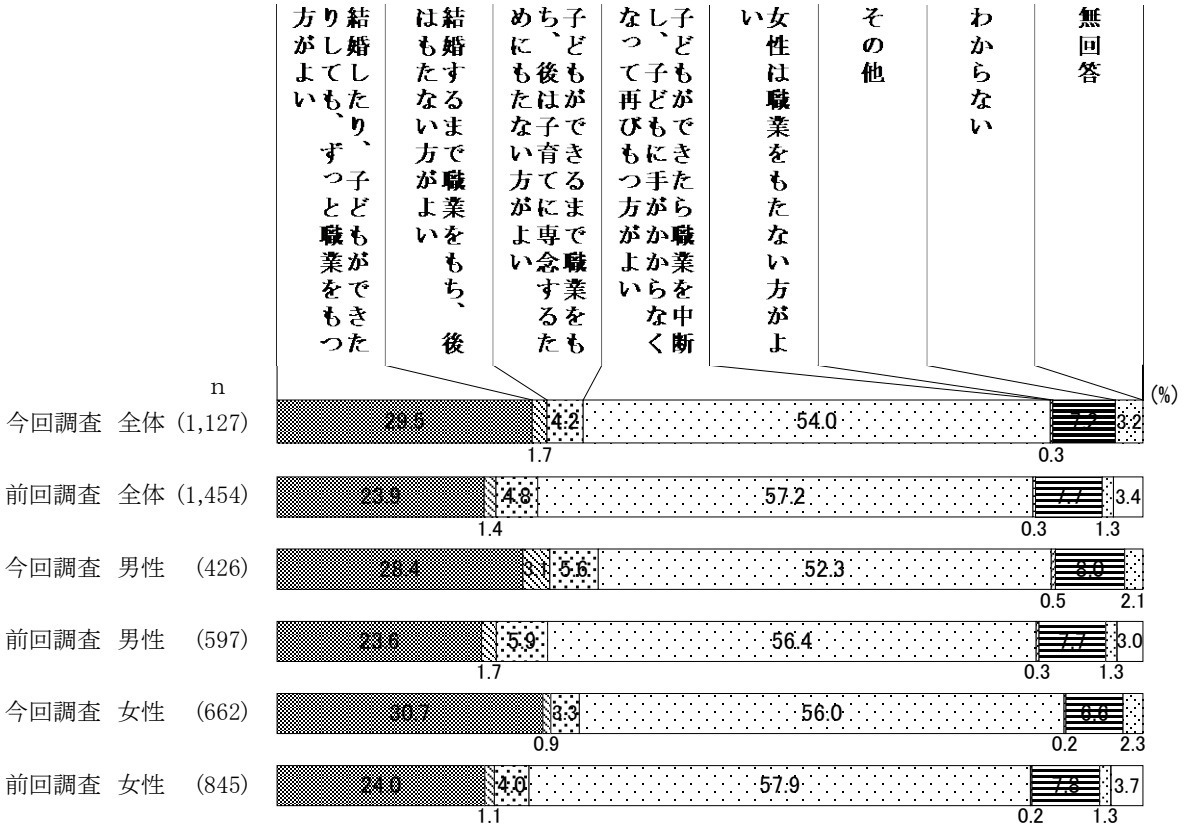


「女性が職業をもつこと」について最も望ましい形を国の調査と比較すると、国の調査では「結婚したり、子どもができたりしても、ずっと職業をもつ方がよい」が全体、性別ともに４割台後半と高い割合となっているが、藤沢市調査は「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」が男女ともに５割台と高く、国の調査と藤沢市調査で違いが出ている。



女性が職業をもつことについての考え方は、藤沢市では、「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」の「再就職型」が５割台前半、「結婚したり、子どもができたりしてもずっと職業をもつ方がよい」の「就業継続型」は約３割となっており、規模別の他都市と比較して独自の傾向となっている。

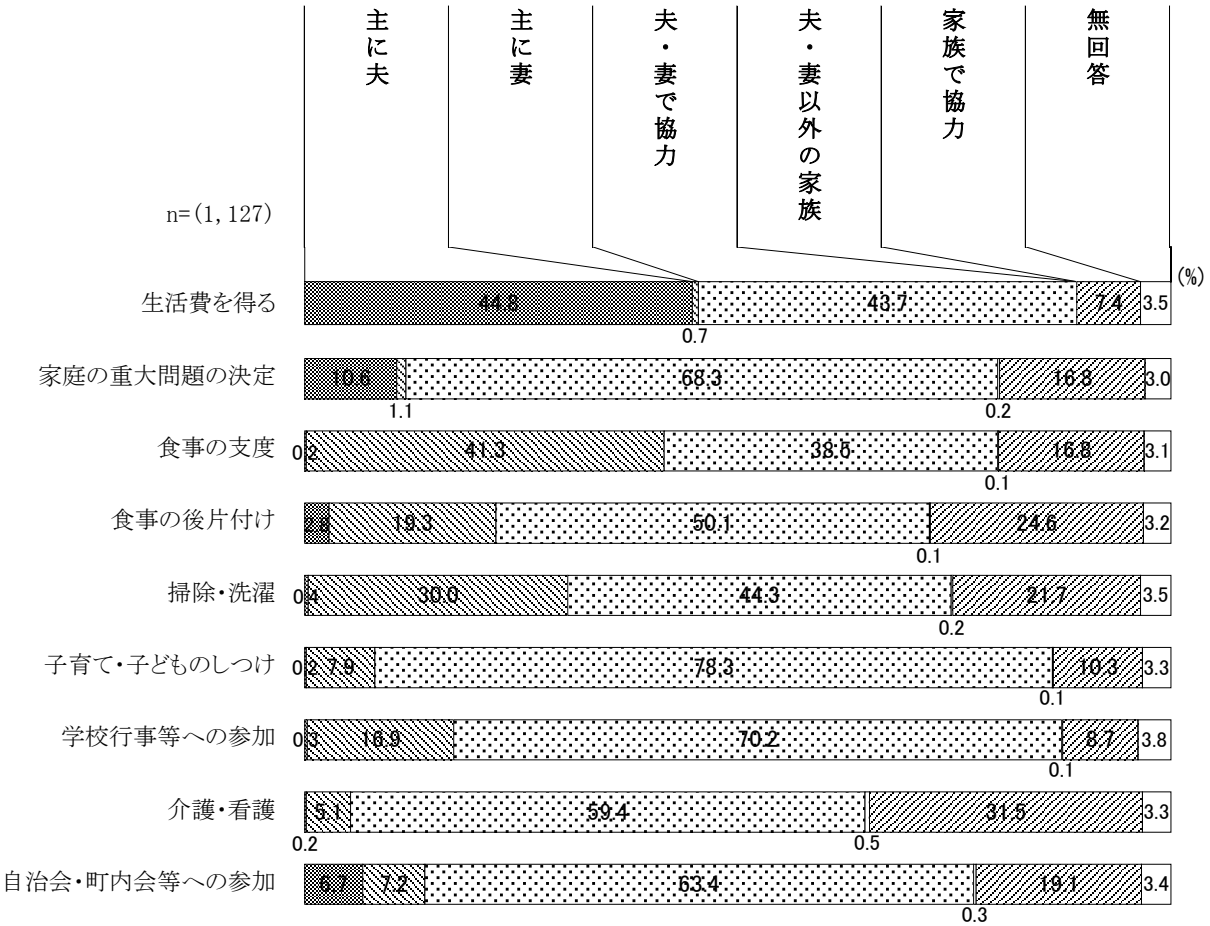
経年比較



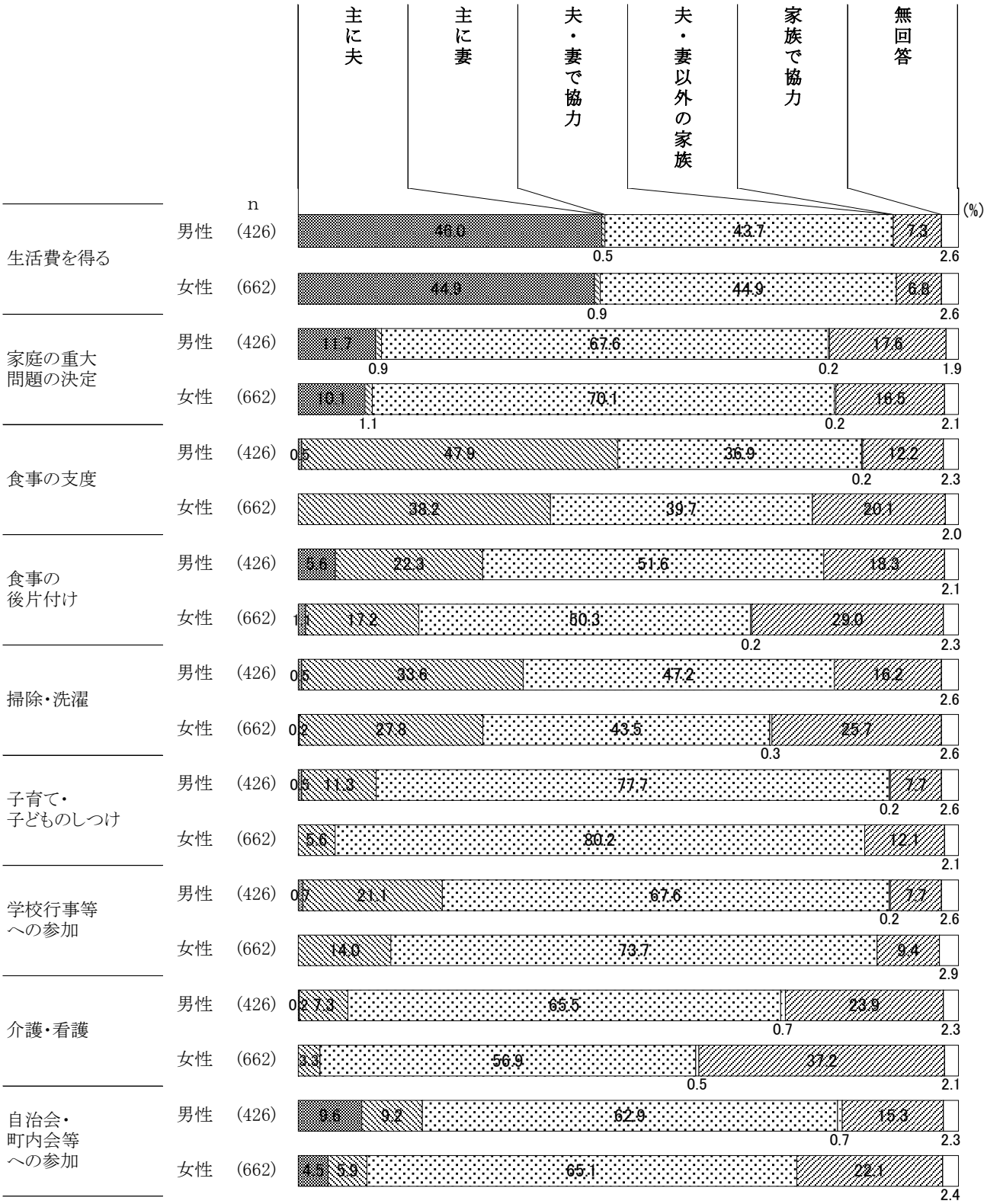
前回調査と比較すると、「結婚したり、子どもができたりしても、ずっと職業をもつ方がよい」が全体5.6ポイント、男性4.8ポイント、女性6.7ポイントそれぞれ増加している。「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」は全体3.2ポイント、男性4.1ポイント、女性1.9ポイント減少している。

（３）男女の役割分担に対する考え方

Ｑ６　あなたは、つぎにあげる家庭における役割は、夫と妻のどちらがおこなうのが望ましいと思いますか。（１）～（９）の各項目につき１つずつ選び、○をお付けください。



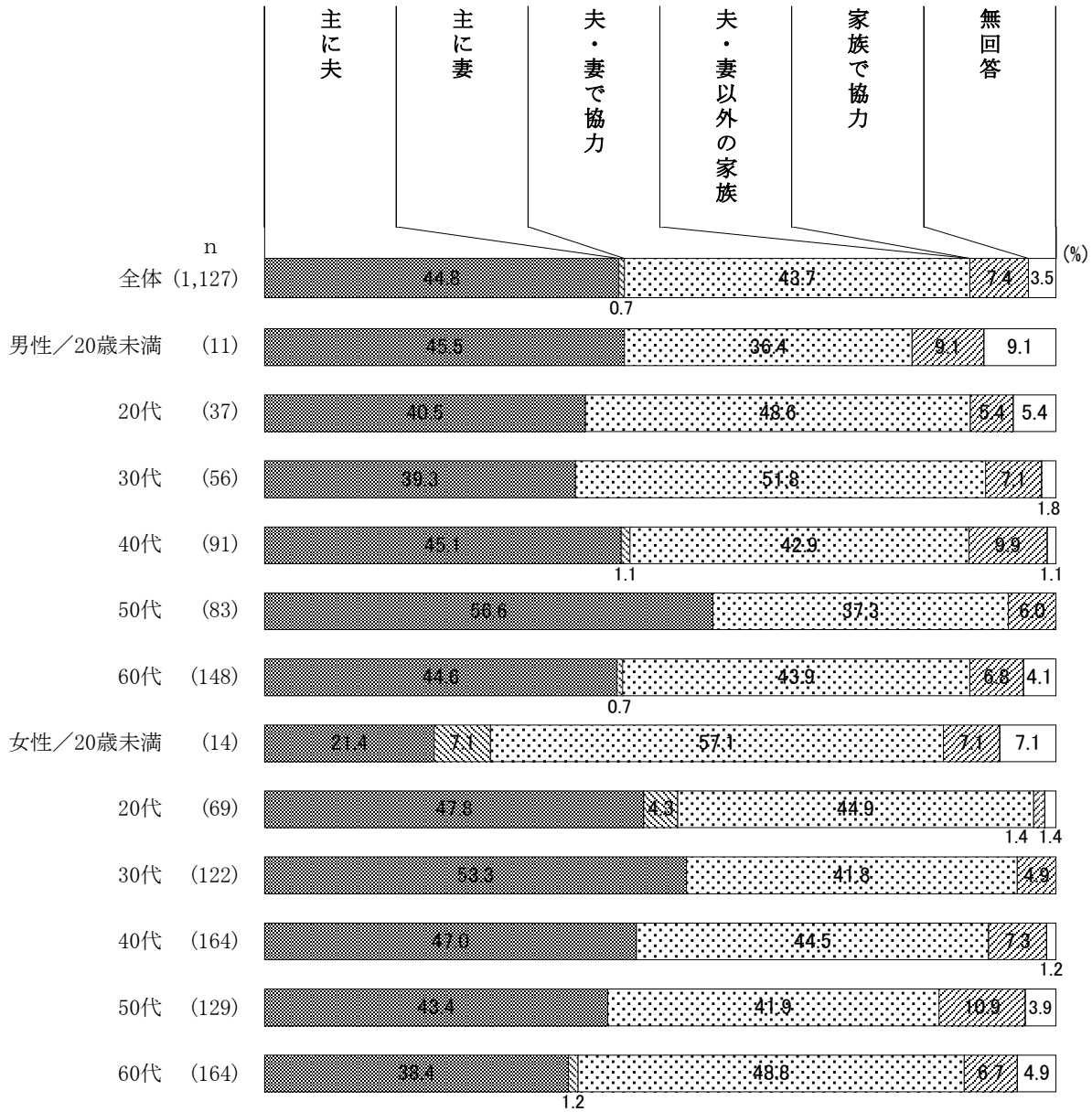
家庭における役割分担は、全体では「主に夫」は『生活費を得る』が44.8％と高いが、「夫・妻で協力」も43.7％と割合に差はない。「主に妻」は『食事の支度』41.3％、『掃除・洗濯』30.0％で主な家事は妻の役割とする回答が多い。「夫・妻で協力」は『子育て・子どものしつけ』78.3％、『学校行事等への参加』70.2％、『家庭の重大問題の決定』68.3％、『自治会・町内会等への参加』63.4％が高い割合となっている。「家族で協力」は『介護・看護』31.5％、『食後の後片付け』24.6％、『掃除・洗濯』21.7％となっている。



性別では、『生活費を得る』は「主に夫」「夫・妻で協力」で男女差はない。『食事の支度』は「主に妻」が男性47.9％、女性38.2％で男性が9.7ポイント高い。『掃除・洗濯』についても「主に妻」とする回答が男性に多い。「家族で協力」は『介護・看護』が女性37.2％、男性23.9％で13.3ポイント女性が高く、『食後の後片付け』は女性29.0％、男性18.3％で女性が10.7ポイント高い。また、『掃除・洗濯』についても「家族で協力」とする回答が女性に多い。

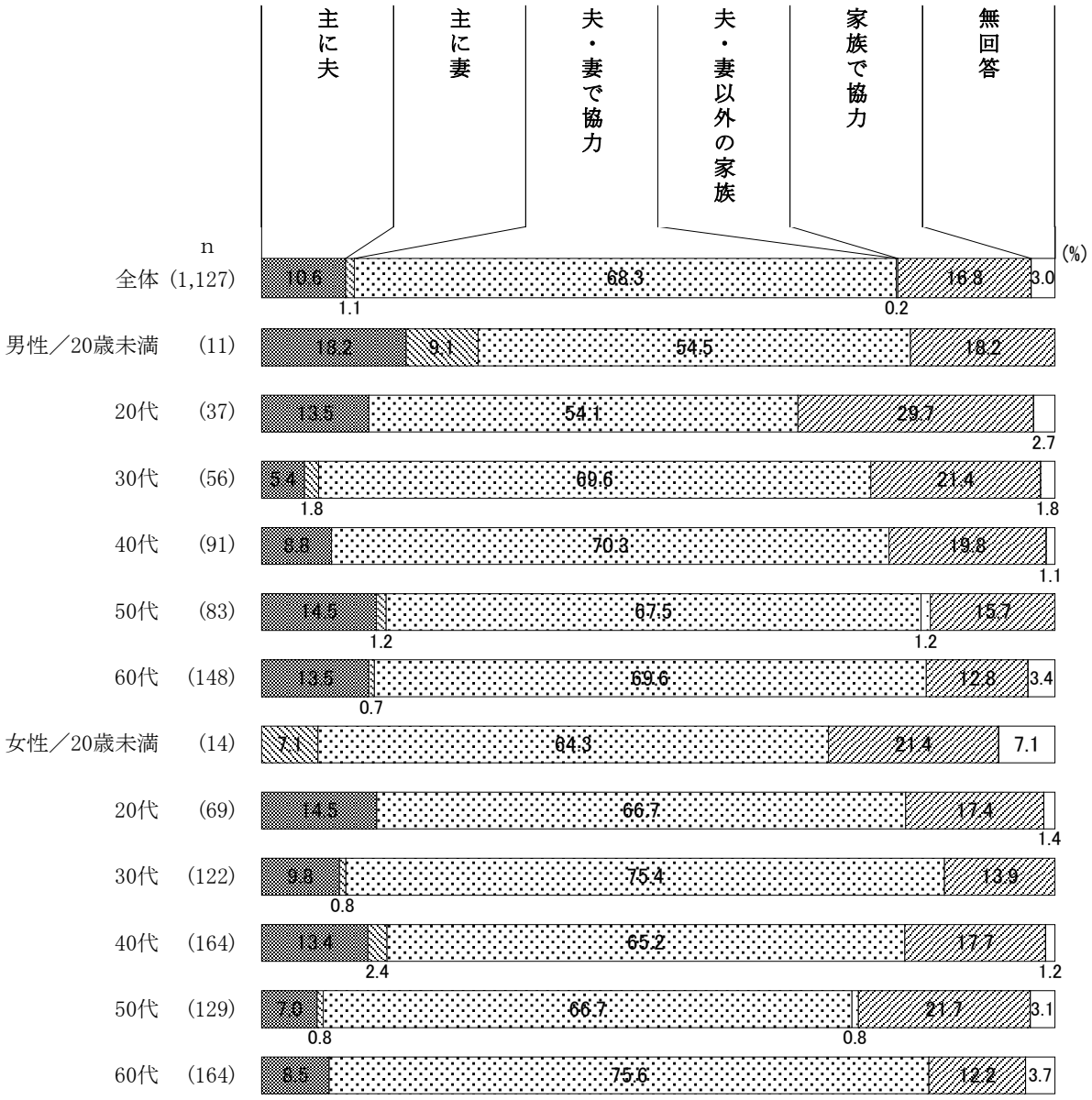
性年代別

生活費を得る



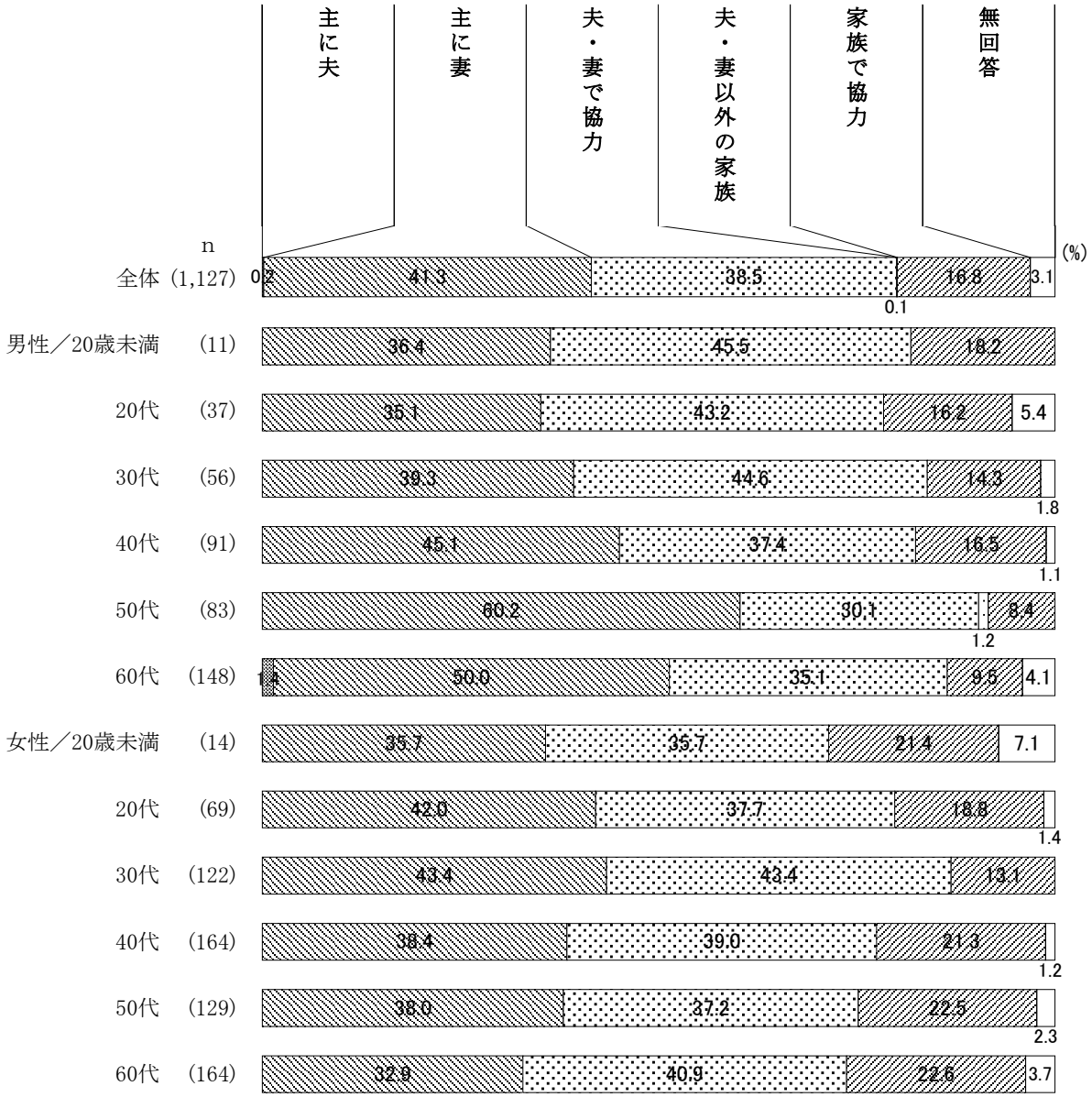
性年代別では、『生活費を得る』は「主に夫」は男性50代が56.6％で最も高く、次いで女性30代53.3％となっている。「夫・妻で協力」と比較すると「主に夫」は男性40代、60代、女性20代～50代で「主に夫」の回答が多い。男性20代、30代、男女60代は「夫・妻で協力」の割合が高い。

家庭の重大問題の決定



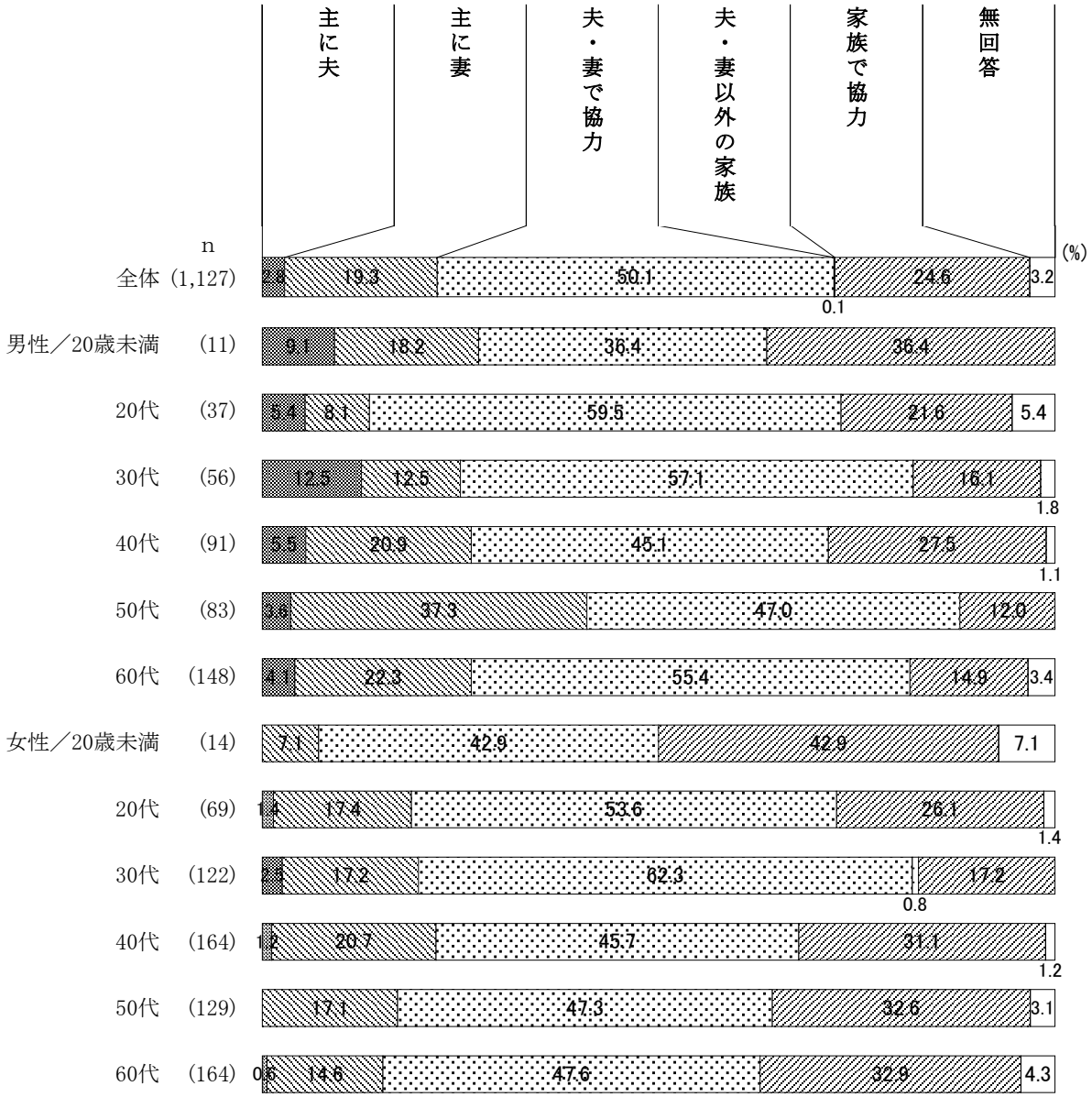
『家庭の重大問題の決定』は男性20代で「夫・妻で協力」54.1％であるが、それ以外の年代でも同様に「夫・妻で協力」が男女とも６割を超えて高く、女性60代、男性40代で７割台となっている。

食事の支度



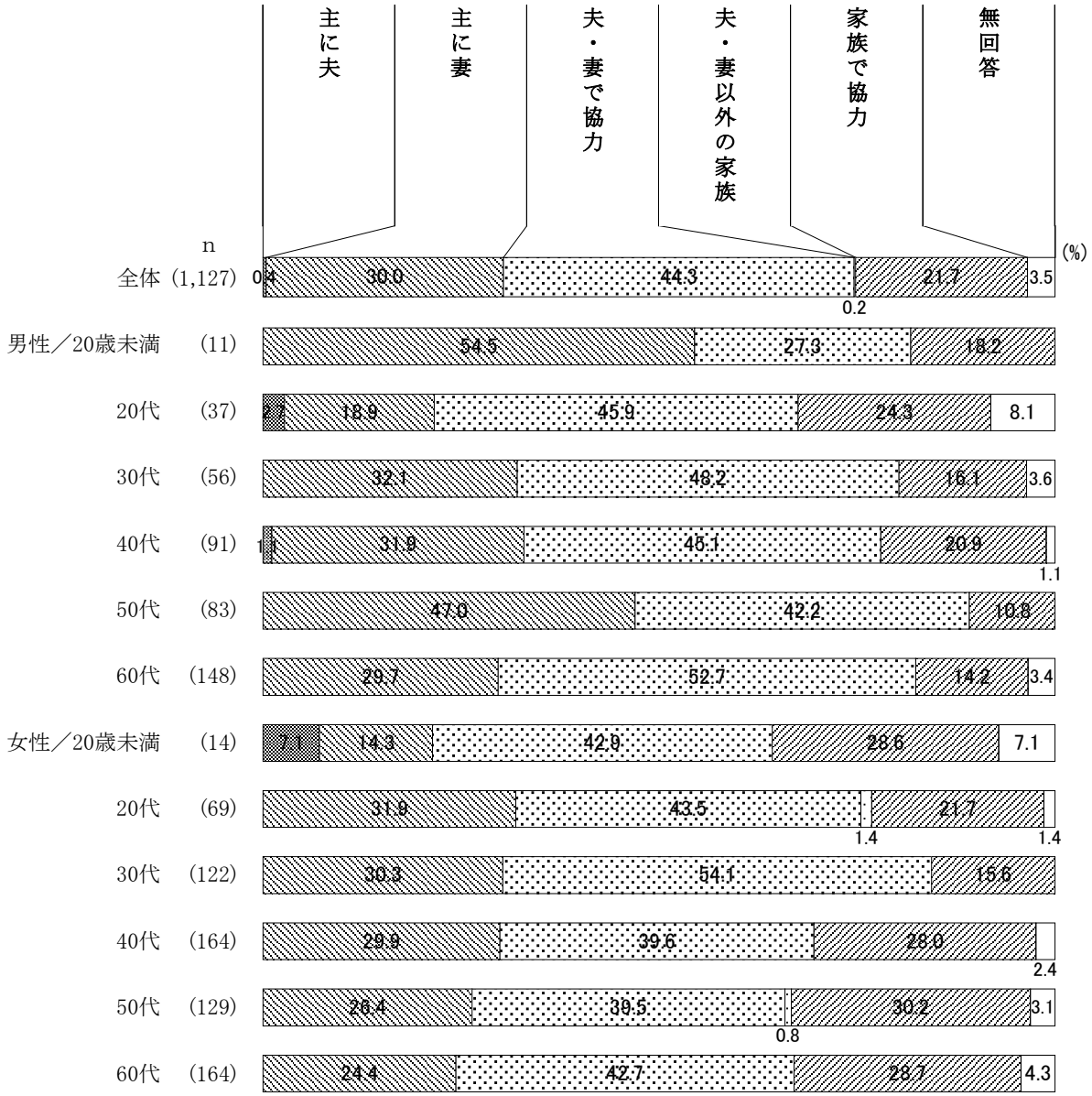
『食事の支度』は「主に妻」が男性では40代45.1％、50代60.2％、60代50.0％で高い。「夫・妻で協力」は、男性20代、30代、女性60代で高く、女性の30代～50代では、「主に妻」「夫・妻で協力」はほぼ同じ割合で差はない。

食事の後片付け



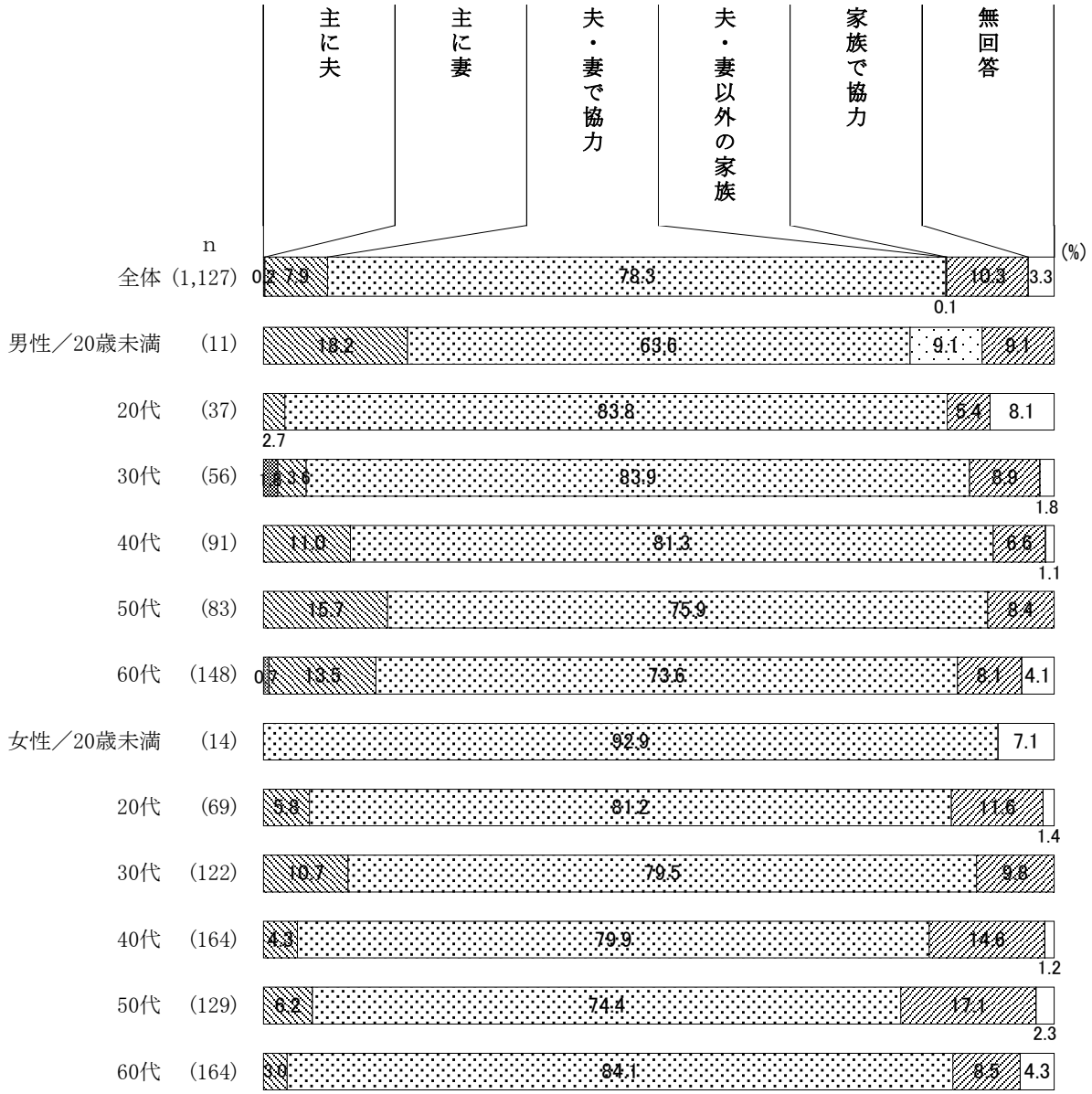
『食事の後片付け』は性別を問わず全ての年代で「夫・妻で協力」が高い割合となっており、男性20代、30代、60代、女性20代で５割を超えている。特に女性30代で62.3％、男性20代で59.5％と高くなっている。

掃除・洗濯



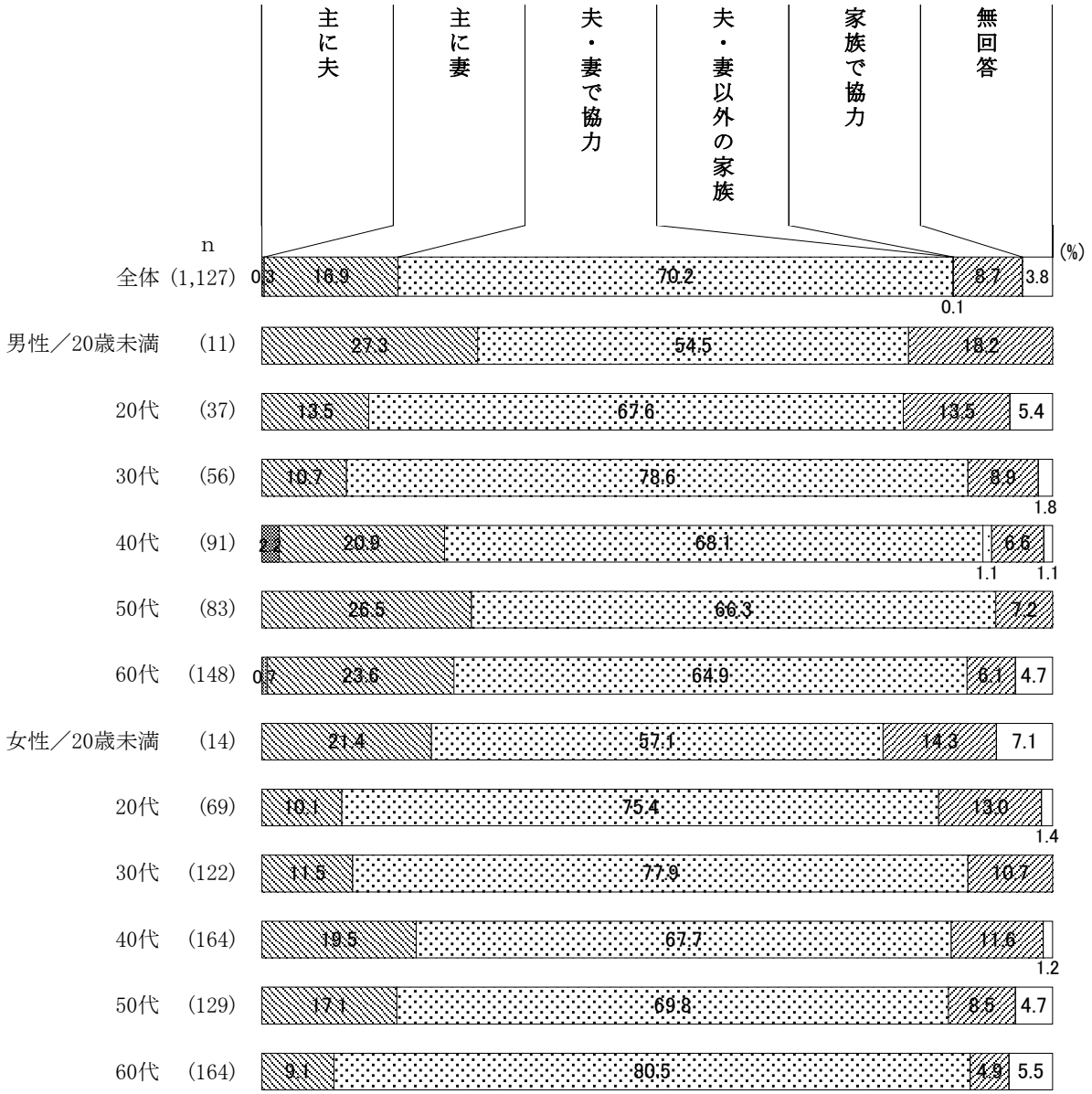
『掃除・洗濯』は男性50代では「主に妻」が47.0％で高いが、他の年代では男女とも「夫・妻で協力」が「主に妻」より高い割合となっている。女性30代が54.1％、男性60代52.7％で５割台となっている。

子育て・子どものしつけ



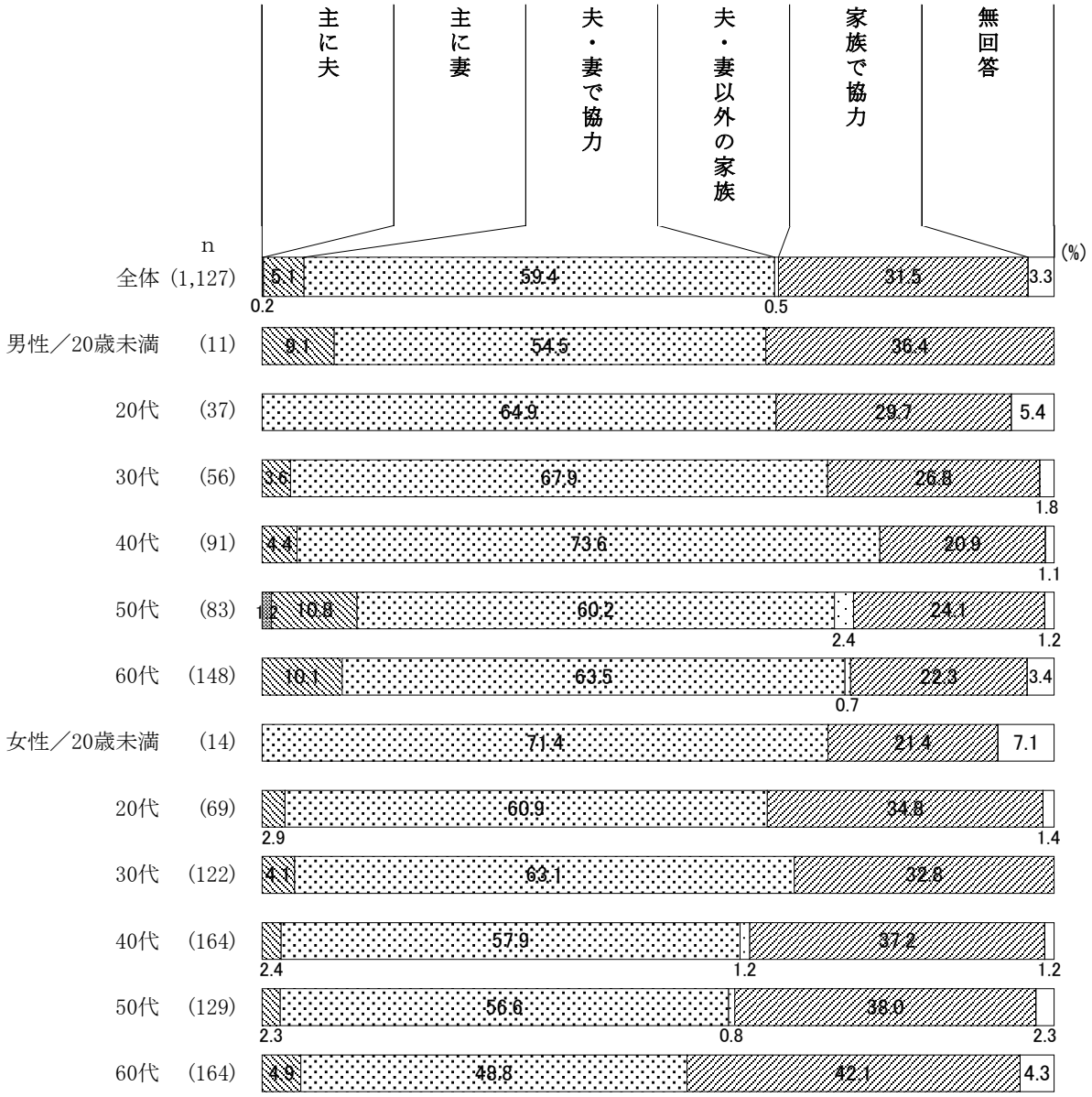
『子育て・子どものしつけ』は、性別を問わず全ての年代で「夫・妻で協力」が７割以上と高く、特に女性20代、60代、男性20代～40代で８割を超えて高い。

学校行事等への参加



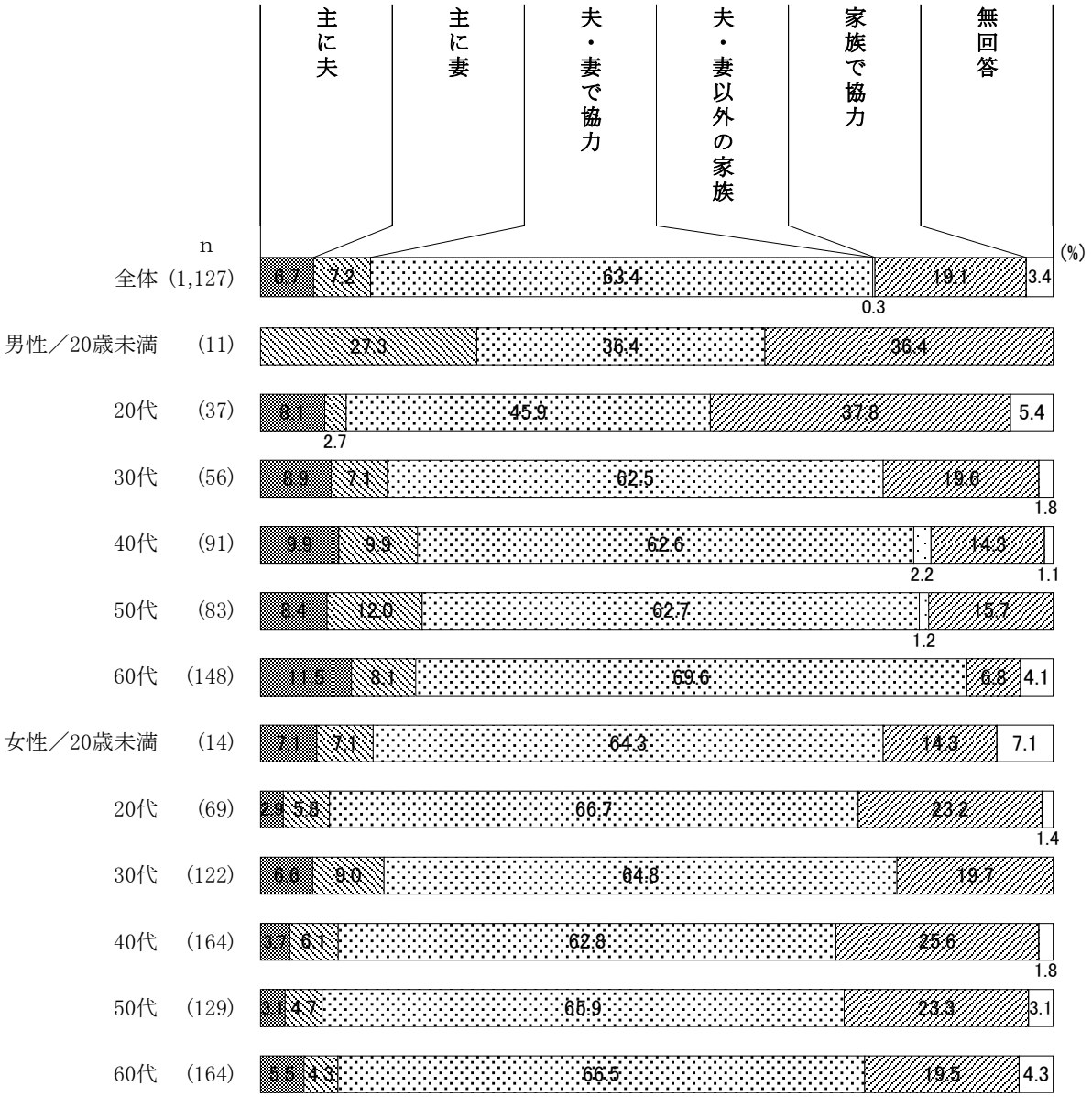
『学校行事等への参加』は、「夫・妻で協力」が全ての年代で高い割合となっているが、「主に妻」は男性40代～60代で２割台、女性40代で19.5%、約２割となっている。

介護・看護



『介護・看護』は、「夫・妻で協力」が性別を問わず全ての年代で高い割合となっている。「家族で協力」の回答は女性に多く、女性60代42.1％、女性20代～50代で３割を超えている。男性では20代で29.7％、30代26.8％で２割台後半から約３割となっている。

自治会・町内会等への参加



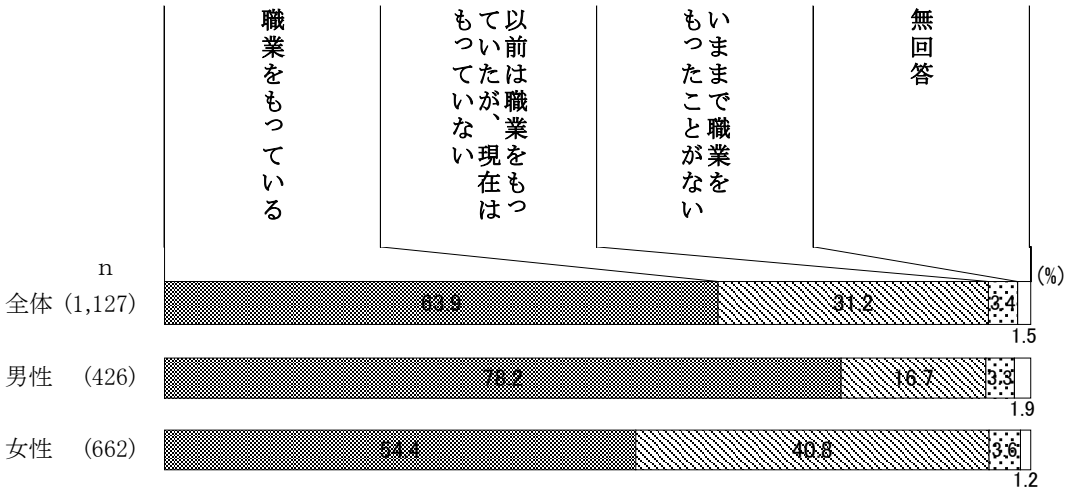
『自治会・町内会等への参加』は、「夫・妻で協力」が男性20代を除いた男女の年代で６割を超えて高い。

Ｃ　仕事と家庭の両立について

（１）就業状況

■職業の有無

Ｑ７　あなたは現在職業をもっていますか。１つだけお選びください。

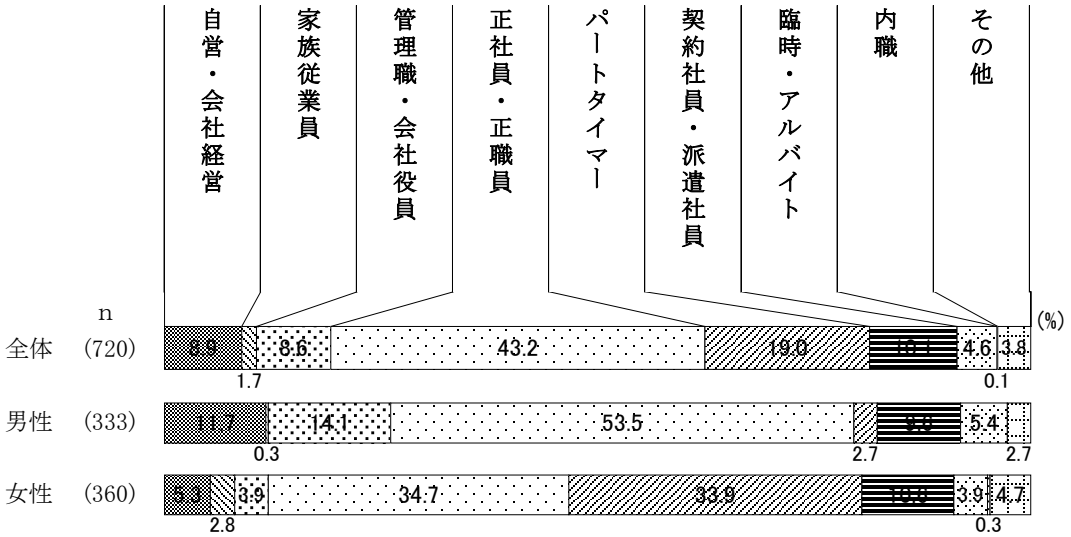


現在の就業状況については、全体では「職業をもっている」63.9%、「以前は職業をもっていたが、現在はもっていない」31.2%となっている。

性別では、「職業をもっている」は男性78.2%、女性54.4%で男性が23.8ポイント高い。「以前は職業をもっていたが、現在はもっていない」は男性16.7%、女性40.8%となっている。

■就業形態

Ｑ７－１　あなたの就業形態は、つぎのどれに該当しますか。１つだけお選びください。

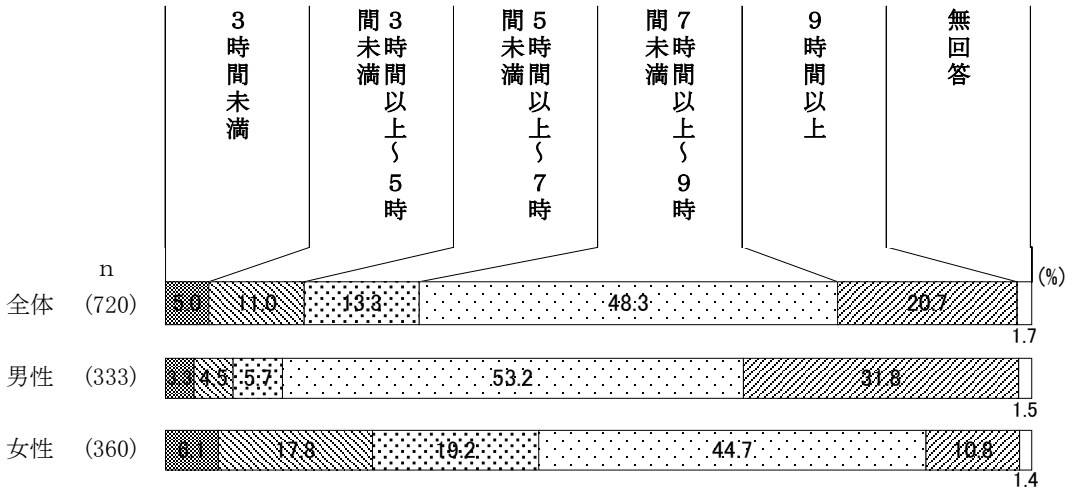


就業形態は、全体では「正社員・正職員」が43.2％で最も高く、次いで「パートタイマー」19.0％、「契約社員・派遣社員」10.1％となっている。

性別では、「正社員・正職員」は男性53.5％、女性34.7％で男性が18.8ポイント高く、「パートタイマー」は女性が33.9％、男性2.7％で女性が31.2ポイント高い。「契約社員・派遣社員」は女性10.6％、男性9.6％で差はない。「管理職・会社役員」は男性14.1％、女性3.9％で男性が10.2ポイント高くなっている。

■実労働時間

Ｑ７－２　あなたの実労働時間は、つぎのどれに該当しますか。一日平均として１つだけお選びください。

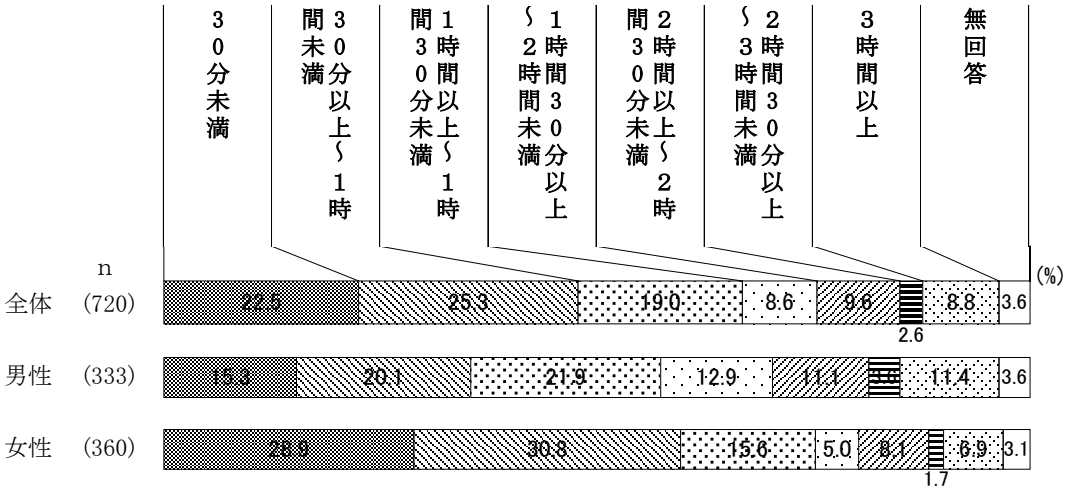


実労働時間については、全体では「７時間以上～９時間未満」が48.3％で最も高く、次いで「９時間以上」20.7％、「５時間以上～７時間未満」13.3％になっている。

性別では、ともに「７時間以上～９時間未満」が最も高く、男性53.2％、女性44.7％となっている。次いで男性は「９時間以上」が31.8％と高く、女性は「５時間以上～７時間未満」19.2％、「３時間以上～５時間未満」17.8％となっている。

■通勤時間

Ｑ７－３　あなたの通勤時間はどれくらいですか。

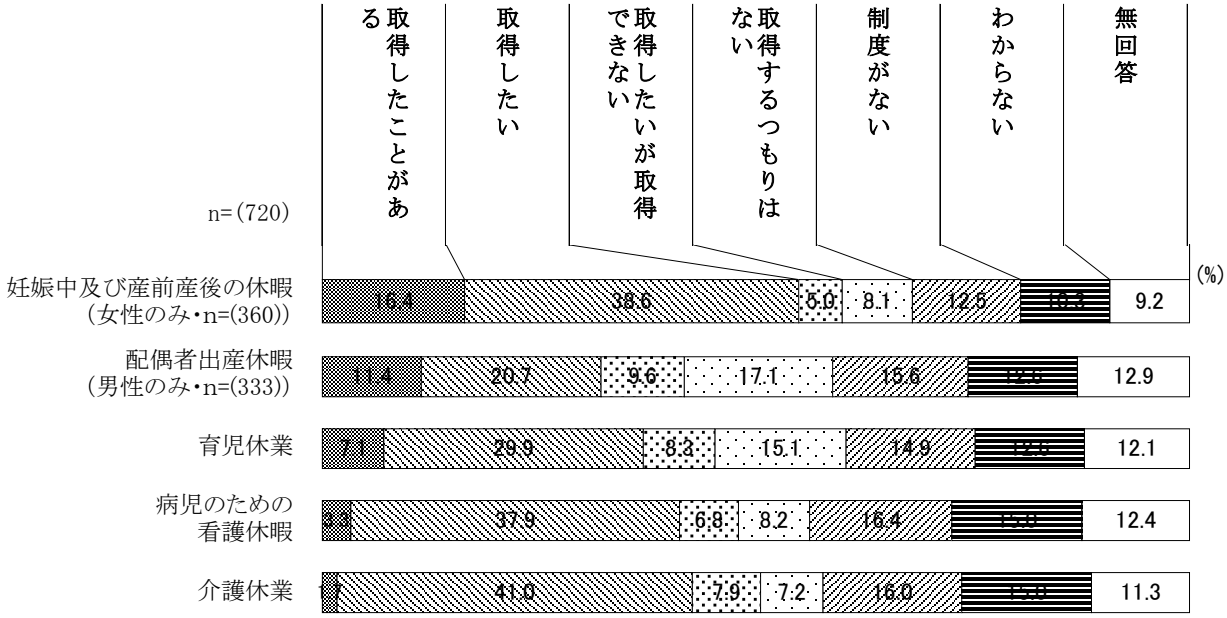


通勤時間は、全体では「30分以上～１時間未満」が25.3％、次いで「30分未満」22.5％、「１時間以上～１時間30分未満」19.0％となっている。

性別では、男性は「１時間以上～１時間30分未満」21.9％、女性は15.6％で男性が6.3ポイント高く、「30分以上～１時間未満」は男性20.1％、女性30.8％で女性が10.7ポイント高い。

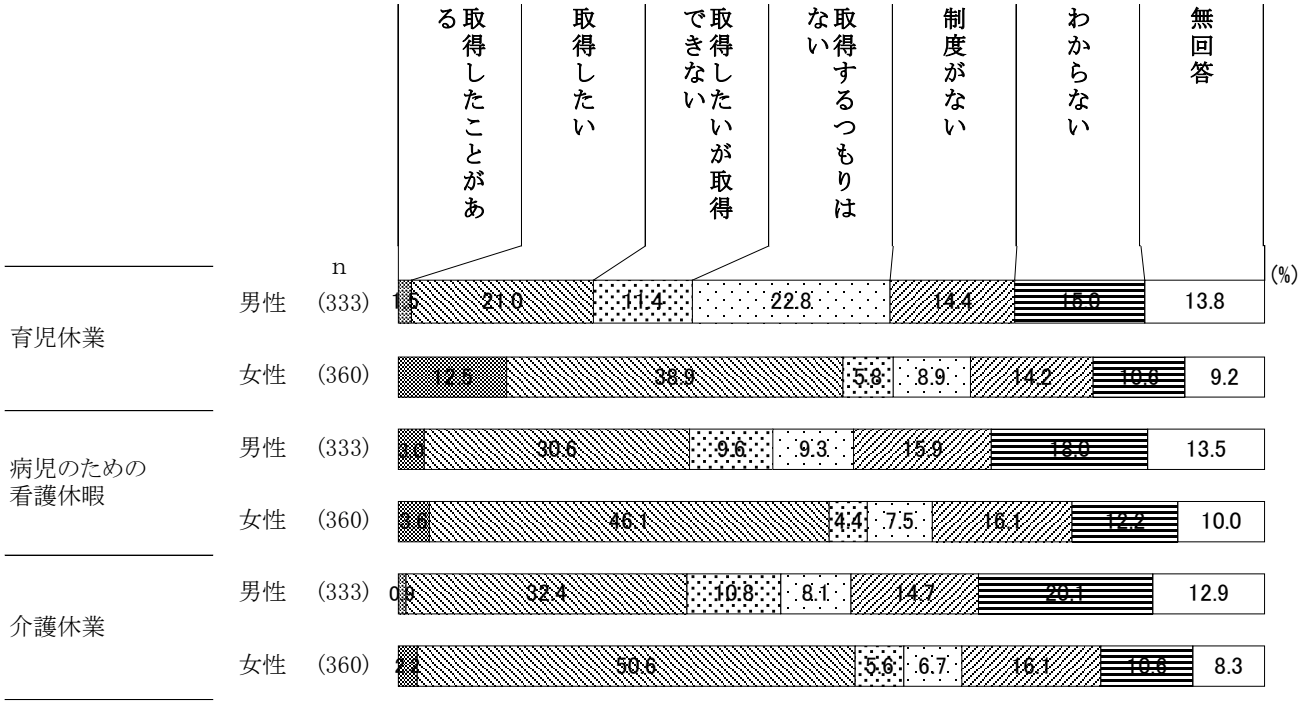
■妊娠中及び産前産後の休暇、看護休暇、介護休業取得について

Ｑ７－４　妊娠中及び産前産後の休暇、育児休業、病児のための看護休暇、介護休業を取得したことがありますか。または、取得したいと思いますか。（１）～（５）の各項目につき１つずつ選び、○をお付けください。



女性の『妊娠中及び産前産後の休暇』は、「取得したい」が38.6％で高く、次いで「取得したことがある」が16.4％となっている。男性の『配偶者出産休暇』は、「取得したことがある」が11.4％、「取得したい」が20.7％となっている。一方、「取得したいが取得できない」が9.6％、「取得するつもりはない」が17.1％、「制度がない」が15.6％となっている。

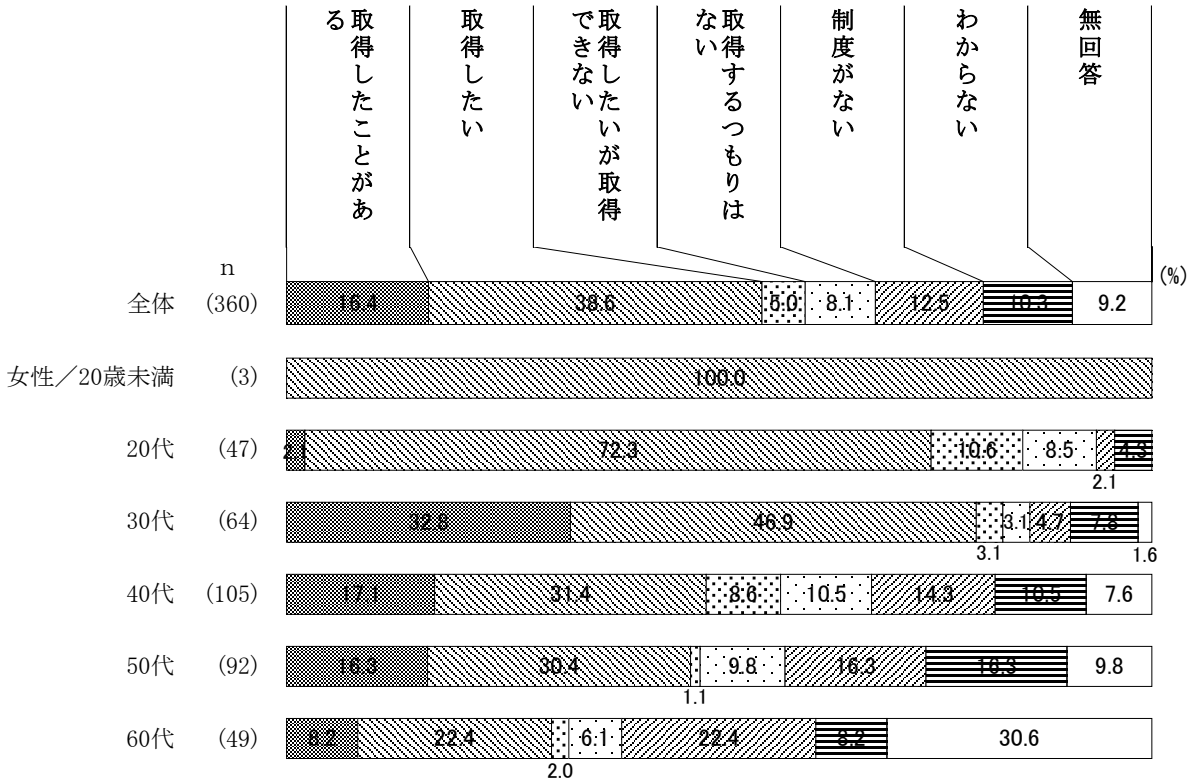
それ以外の休暇・休業では、「取得したい」は『介護休業』が41.0％、『病児のための看護休暇』が37.9％、『育児休業』が29.9％と高いが、「取得したことがある」は『育児休業』が7.1％、『病児のための看護休暇』が3.3％、『介護休業』が1.7％と少ない。また、「取得するつもりはない」は『育児休業』で15.1％と高くなっている。



性別では、「取得したことがある」は、『育児休業』女性12.5%、男性1.5%で、女性の方が取得率は高くなっている。また、「取得したい」は、『育児休業』女性38.9%、男性21.0%、『病児のための看護休暇』女性46.1%、男性30.6%、『介護休業』は女性50.6%、男性32.4%と、いずれも女性の方が高くなっている。一方、「取得するつもりはない」は、『育児休業』女性8.9%、男性22.8%と、男性の方が高くなっている。

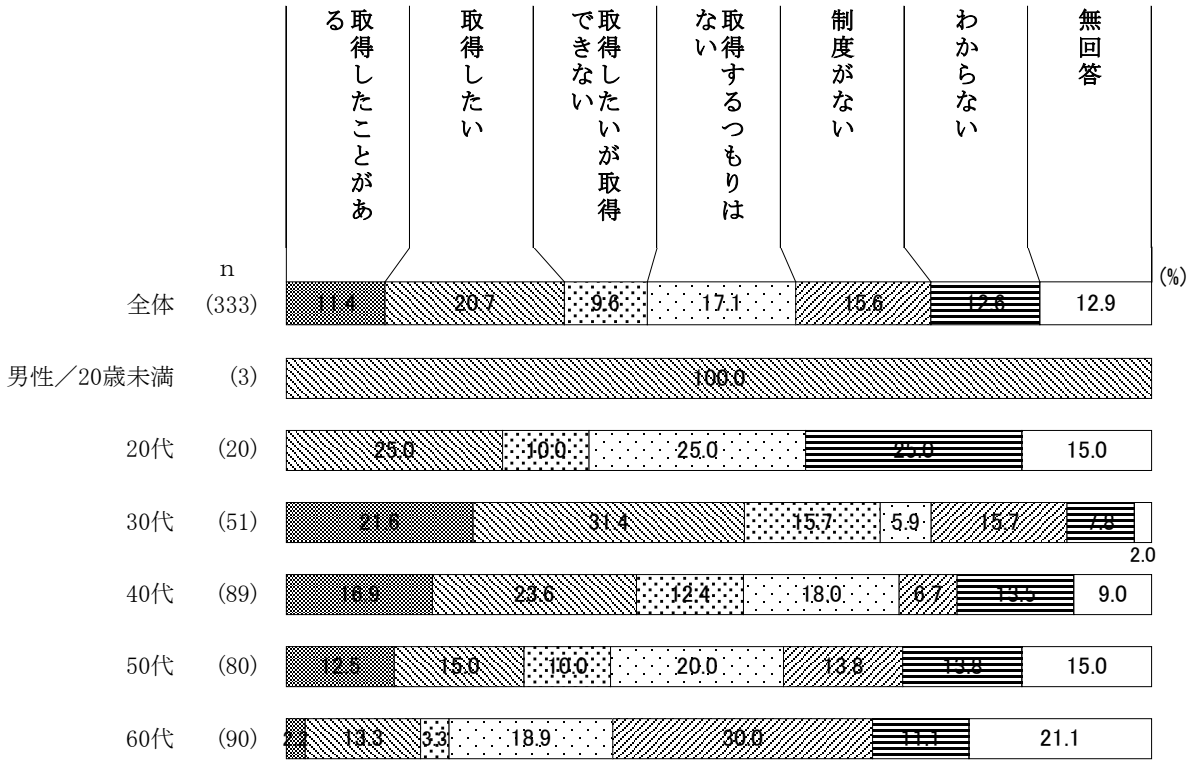
性年代別

妊娠中及び産前産後の休暇（女性のみ）



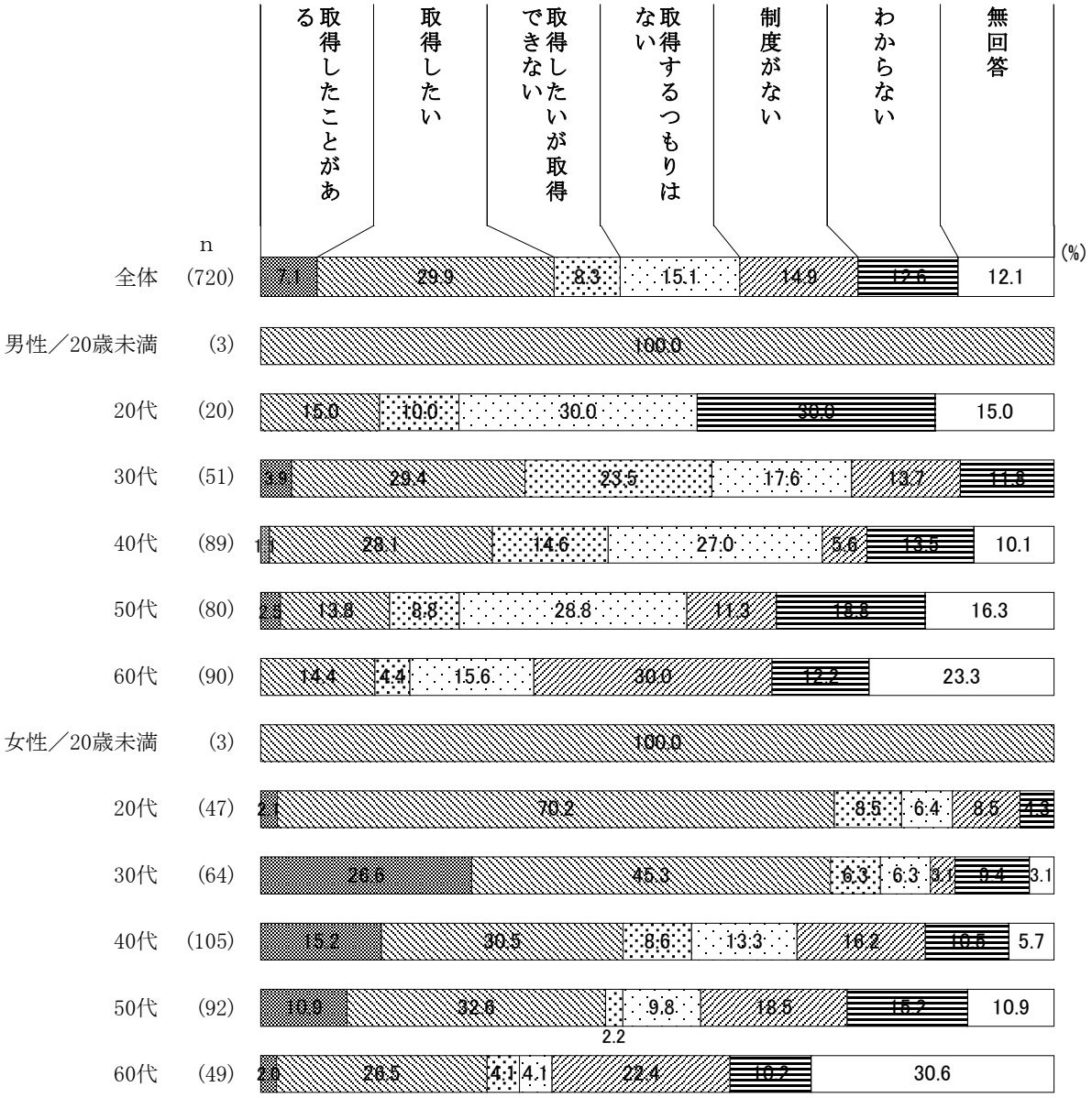
年代別では、「取得したい」は20代72.3％で最も高く、次いで30代46.9％となっている。「取得したことがある」は30代32.8％で最も高く、次いで40代17.1％、50代16.3％となっている。一方、「取得したいが取得できない」は20代で10.6％、40代で8.6％となっている。

配偶者出産休暇(男性のみ)



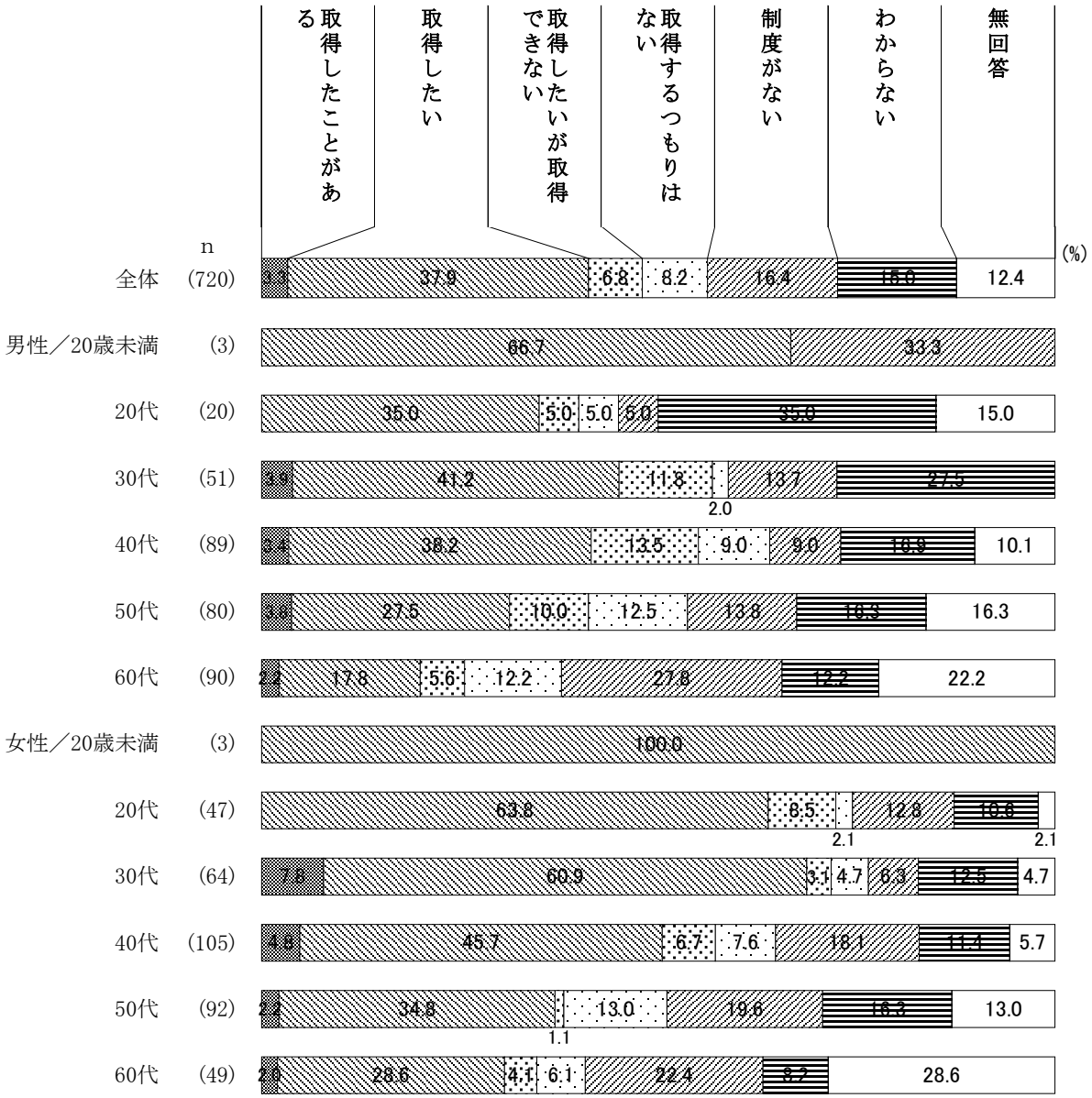
年代別では、「取得したことがある」は30代21.6％が最も高く、次いで40代16.9％、50代12.5％となっている。「取得したい」は30代31.4％、20代25.0％、40代23.6％となっている。「取得したいが取得できない」は、30代15.7％、40代12.4％となっている。一方、「取得するつもりはない」は、20代25.0％、40代18.0％、30代では5.9％と低い。また、「制度がない」は30代で15.7％となっている。

育児休業



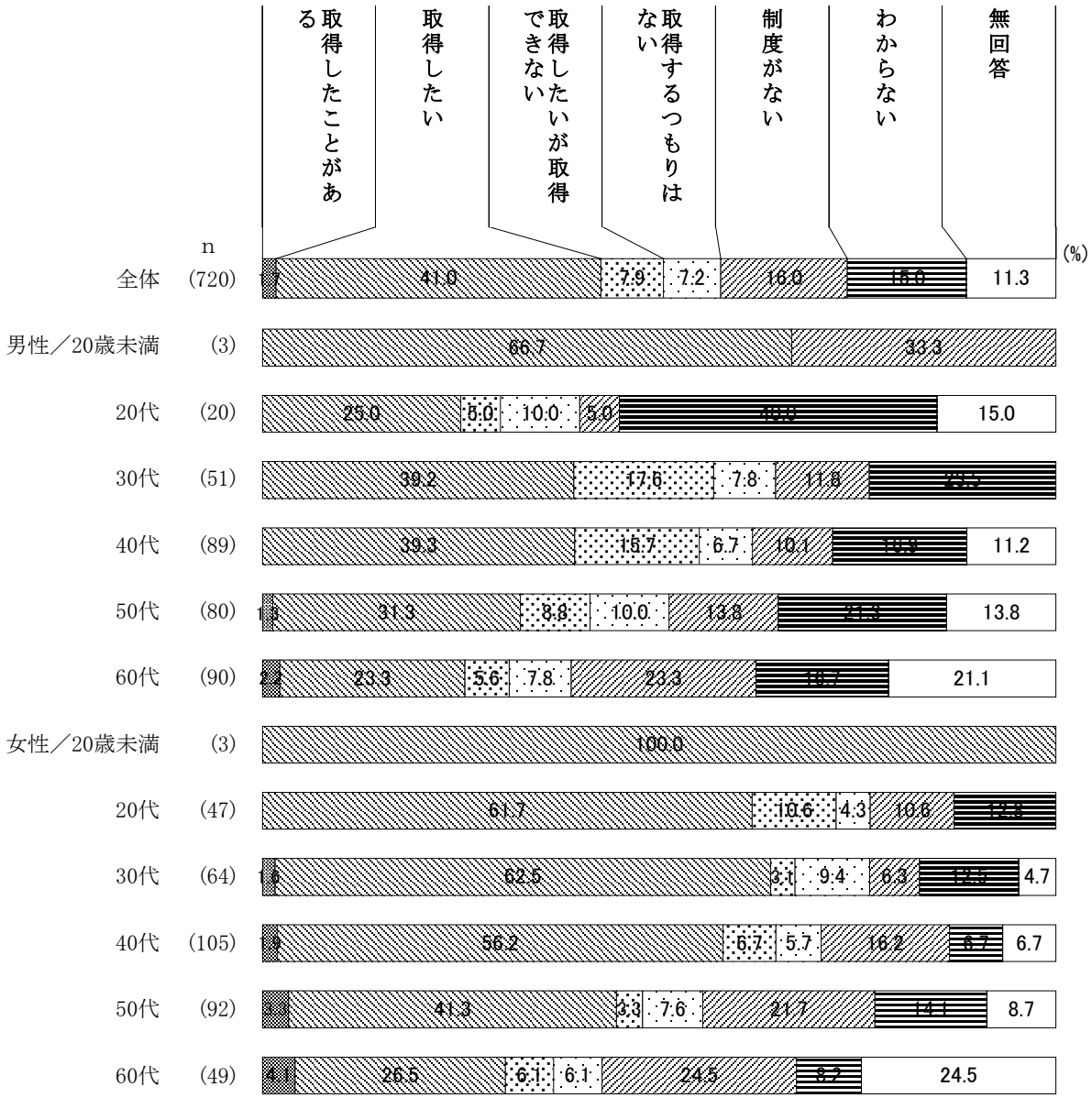
性年代別では、「取得したことがある」は女性30代26.6％、40代15.2％、50代10.9％で男性は30代でわずか3.9％である。「取得したい」は女性20代が70.2％で最も高く、次いで女性30代45.3％、40代30.5％、50代32.6％となっている。男性では、30代29.4％、40代28.1％、20代15.0％となっている。「取得したいが取得できない」は男性30代23.5％、40代14.6％、20代10.0％、女性は全ての年代で１割未満となっている。一方、「取得するつもりはない」は、男性20代で30.0％、40代27.0％、30代17.6％となっている。

病児のための看護休暇



性年代別では、男女とも全ての年代で「取得したい」が高い割合となっており、男性に比較して女性の割合が高く、女性20代では63.8％で最も高く、次いで30代60.9％、40代45.7％、50代34.8％となっている。男性では、30代41.2％が最も高く、次いで40代38.2％、20代35.0％となっている。

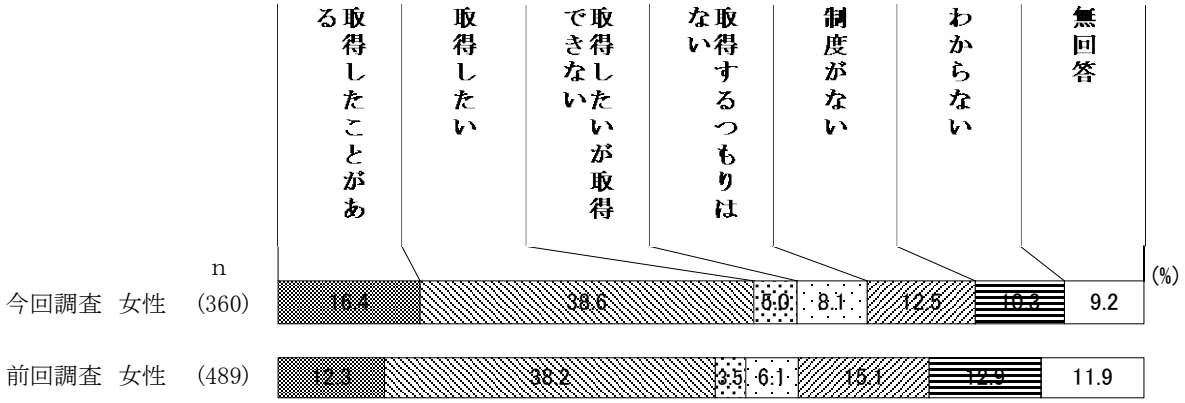
介護休業



性年代別では、「取得したい」が男性20代を除いた年代で男女とも高い割合となっており、女性20代、30代で６割台、40代で５割台半ば、50代で４割台前半となっている。男性では、30代、40代で約４割、50代で３割台前半となっている。

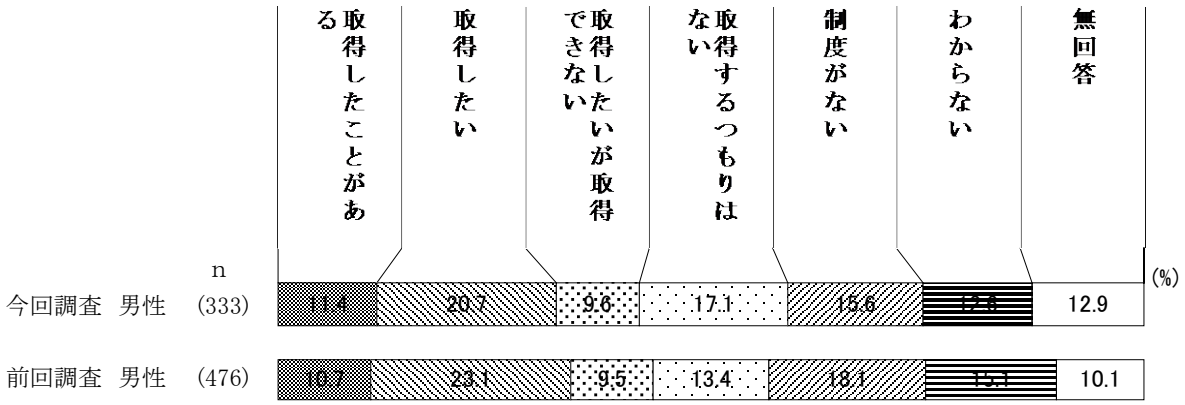
経年比較

妊娠中及び産前産後の休暇（女性の方のみ）



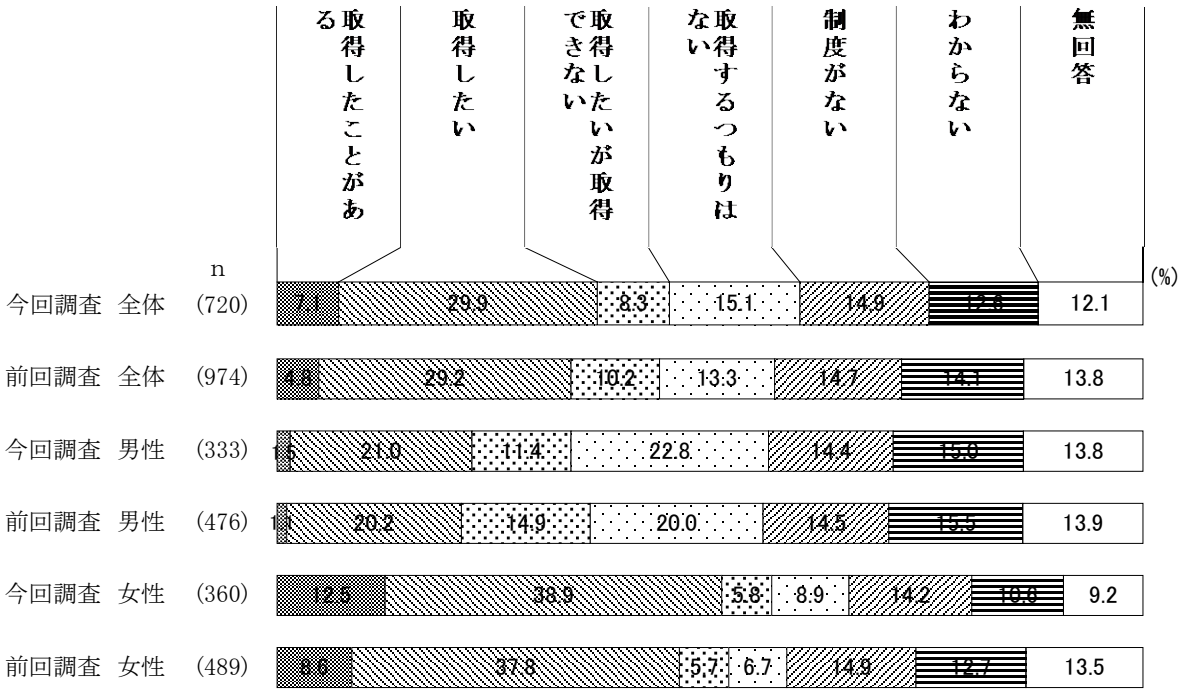
前回調査と比較すると、「取得したことがある」は4.1ポイント増加している。

配偶者出産休暇（男性のみ）



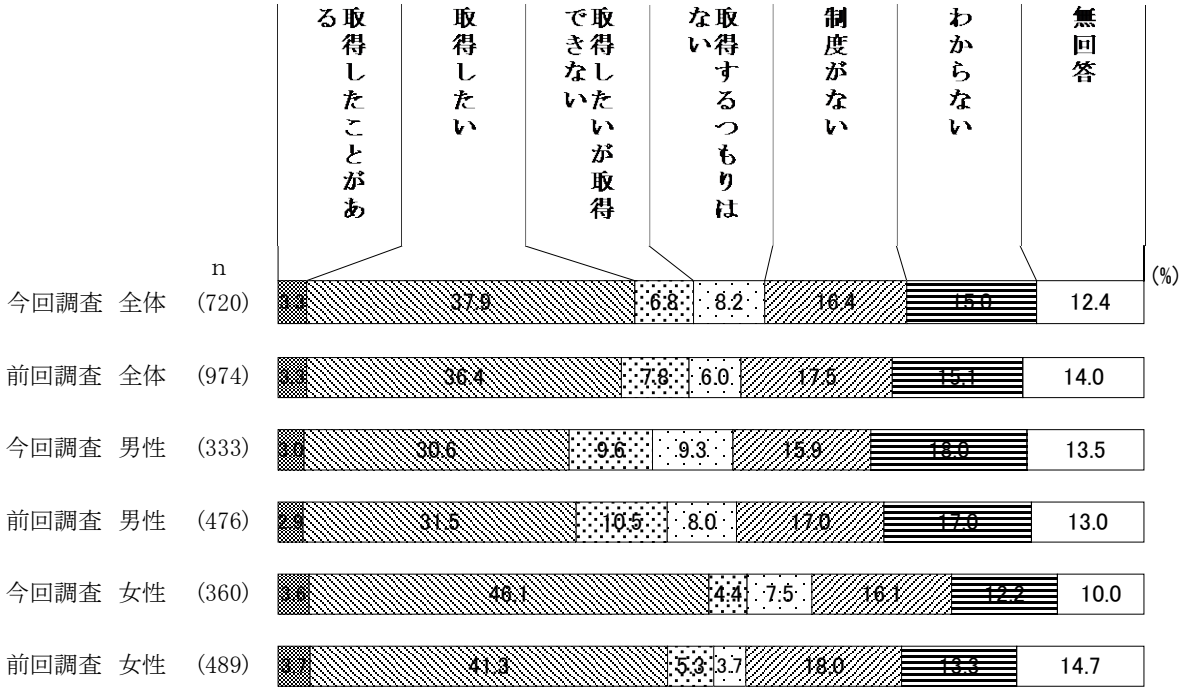
前回調査と比較すると、「取得したい」は2.4ポイント減少、「取得するつもりはない」は3.7ポイント増加している。また、「制度がない」は2.5ポイント減少している。

育児休業



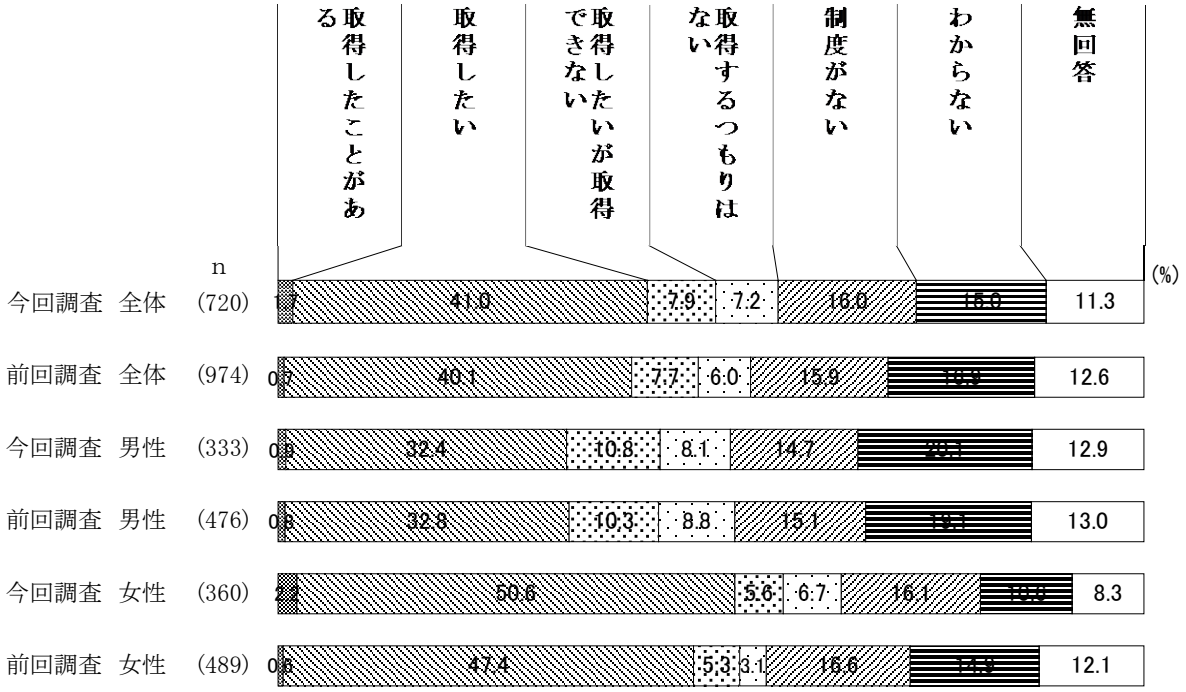
前回調査と比較すると、「取得したことがある」は全体で2.3ポイント、女性で3.9ポイント増加している。それ以外の項目、男性はほとんど変化がない。

病児のための看護休暇



前回調査と比較すると、「取得したい」の割合が女性で4.8ポイント増加している。それ以外の項目、男性はほとんど変化がない。

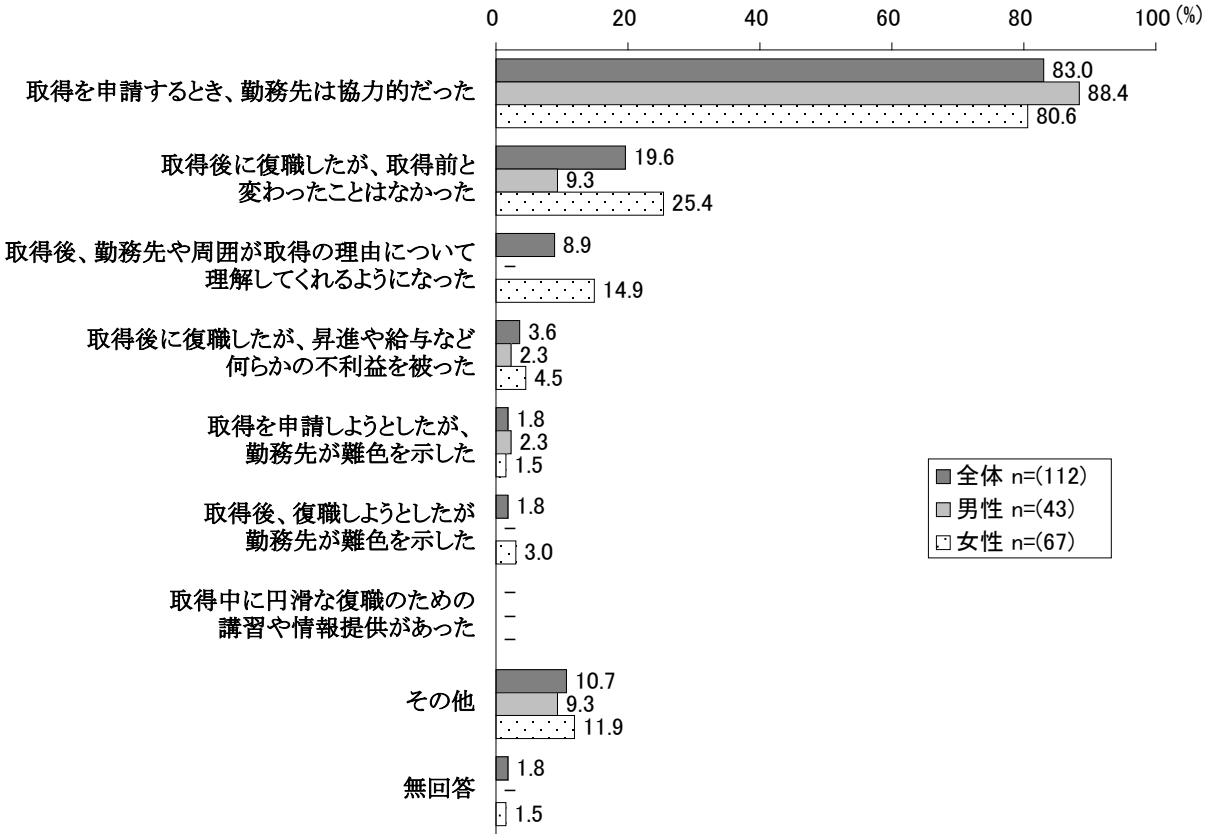
介護休業



前回調査と比較すると、「取得したい」は女性で3.2ポイント増加しているが、それ以外の項目、男性はほとんど変化がない。

■各種休暇・休業等を取得する前後の勤務先の対応について

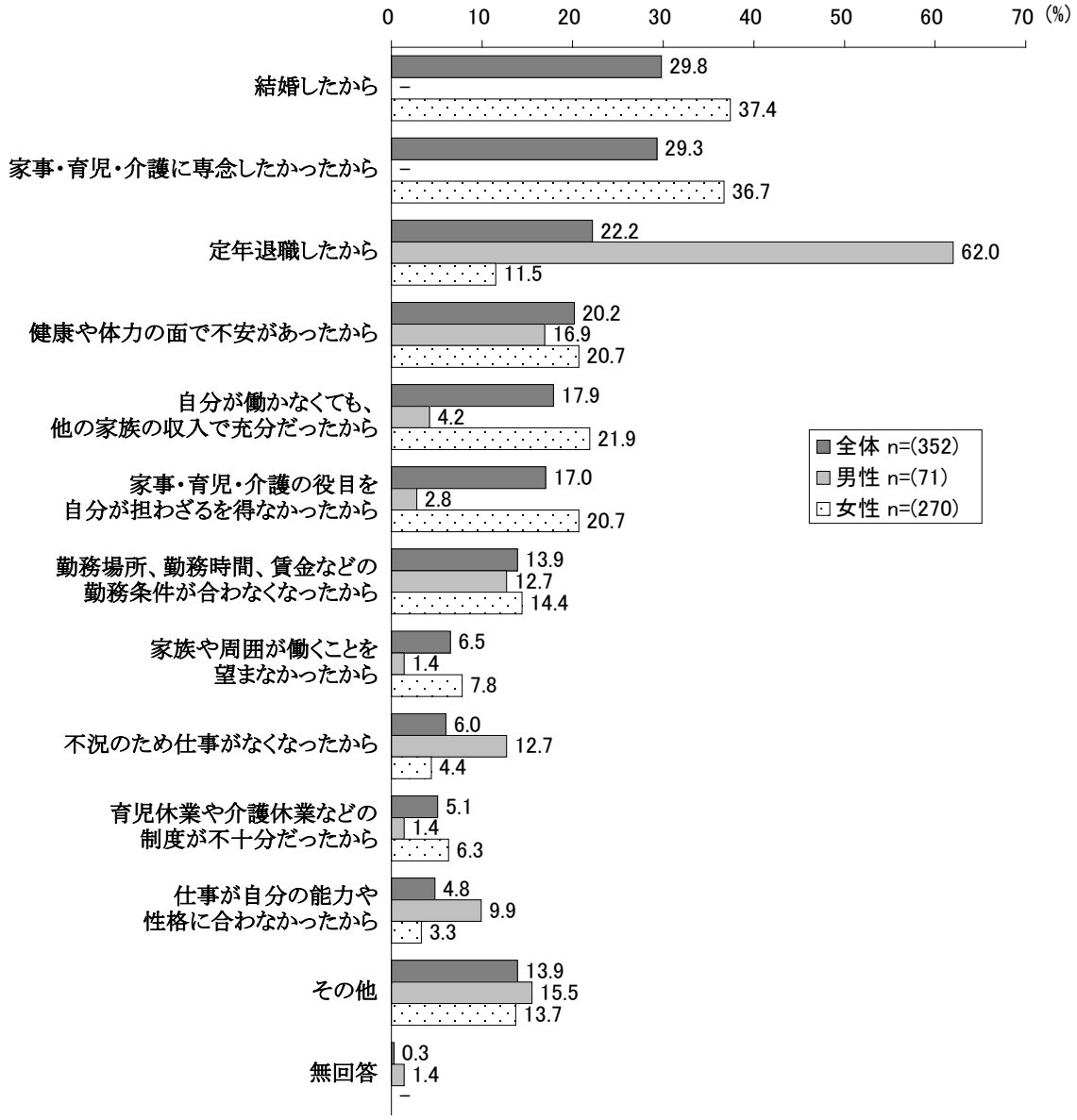
Ｑ７－４－１　Ｑ７－４で１つでも「取得したことがある」とお答えの方におたずねします。
取得する前後の勤務先の対応はどうでしたか。あてはまるものをすべてお選びください。



妊娠中及び産前産後の休暇、育児休業、病児のための看護休暇、介護休業を取得する前後の勤務先の対応について、全体、性別でみると「取得を申請するとき、勤務先は協力的だった」がそれぞれ８割を超えて最も高い。次いで「取得後に復帰したが、取得前と変わったことはなかった」が全体で19.6%、女性25.4%、男性9.3%となっている。

（２）以前の職業をやめた理由

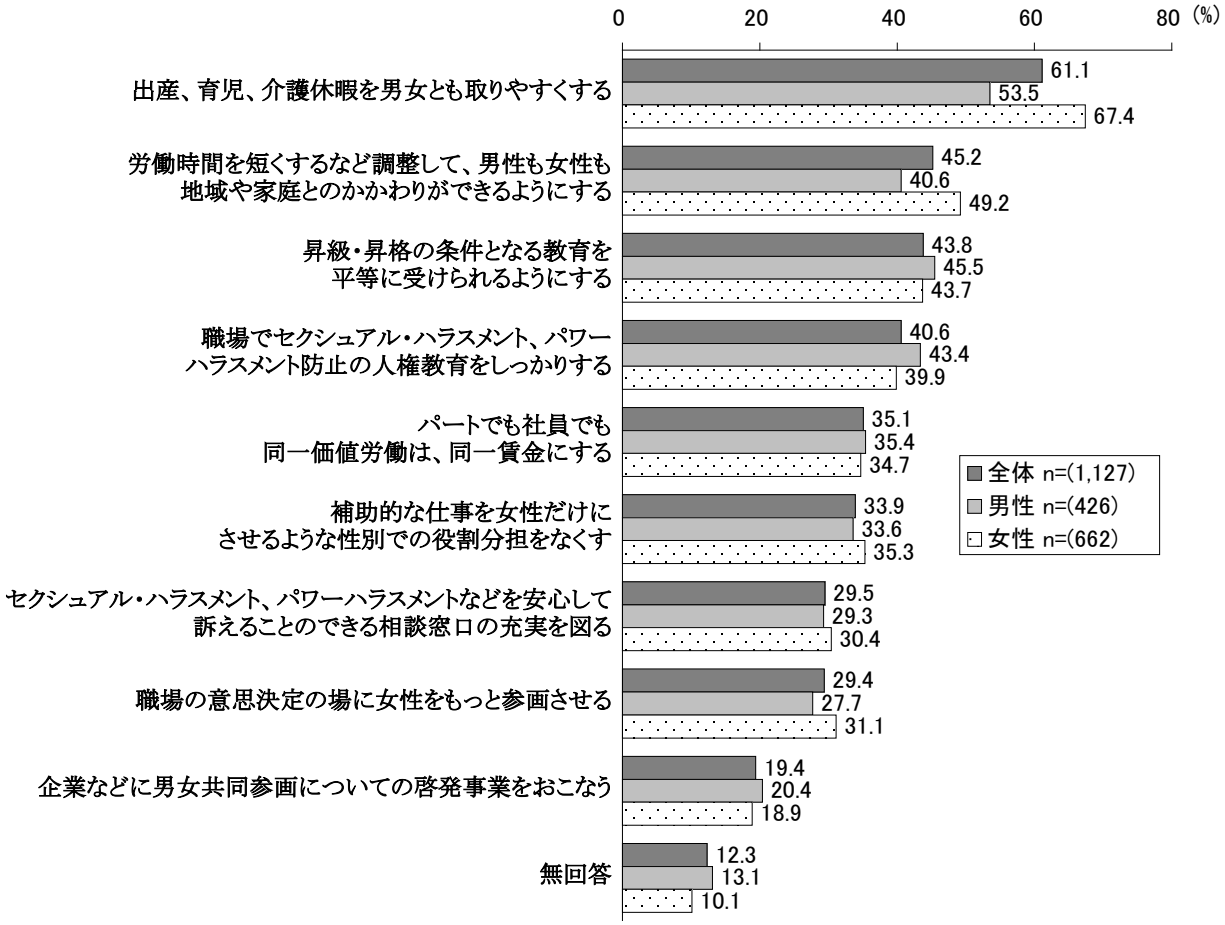
Ｑ８　Ｑ７で「２．以前職業をもっていたが、現在はもっていない」とお答えの方におたずねします。以前の職業をやめたのはなぜですか。３つまでお選びください。



以前の職業をやめた理由は、男性は「定年退職したから」62.0％が最も高く、女性は「結婚したから」37.4％、「家事・育児・介護に専念したかったから」36.7％となっている。

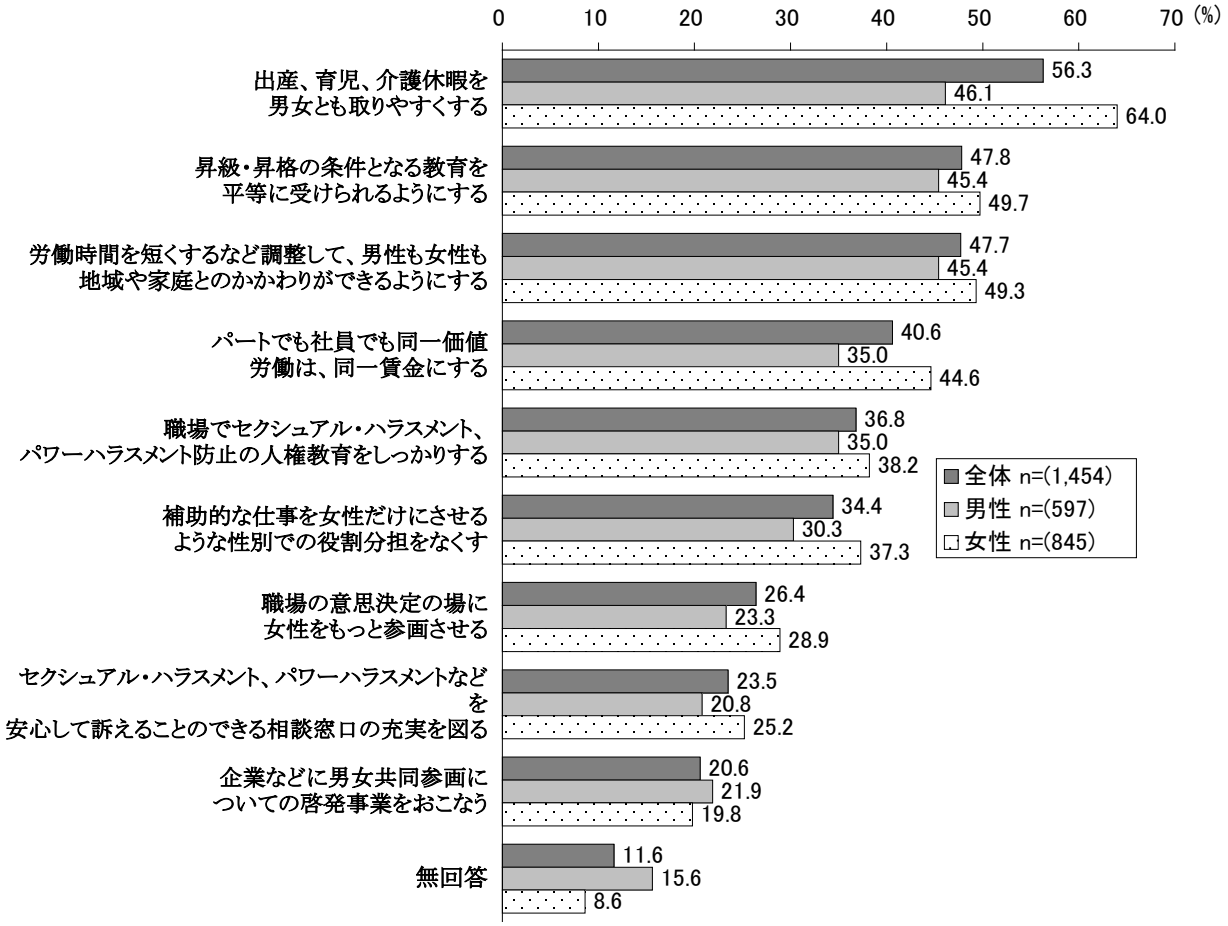
（３）自らの能力を発揮していきいきと働くために必要なこと

Ｑ９　自らの能力を発揮していきいきと働くためには、どのようなことが必要だと思いますか。重要だと思われるものを５つまで お選びください。



自らの能力を発揮していきいきと働くために必要なことは、「出産、育児、介護休暇を男女とも取りやすくする」が全体で61.1％、女性67.4％、男性53.5％でそれぞれ最も高く、女性の方が男性より13.9ポイント高くなっている。次いで「労働時間を短くするなど調整して、男性も女性も地域や家族とのかかわりができるようにする」が全体で45.2％、女性49.2％となっている。男性では、「昇給・昇格の条件となる教育を平等に受けられるようにする」が45.5％で２番目に高い割合となっている。

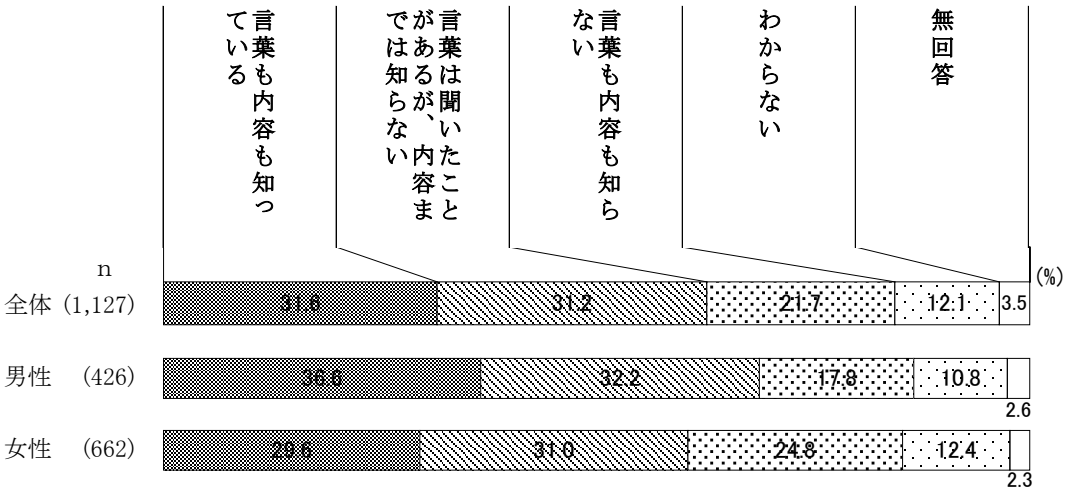
【参考】前回調査結果



前回調査結果は、「出産、育児、介護休暇を男女とも取りやすくする」が全体56.3%、女性64.0%、男性46.1%となっている。次いで「昇給・昇格の条件となる教育を平等に受けられるようにする」となっている。

（４）ワーク・ライフ・バランスの認知状況

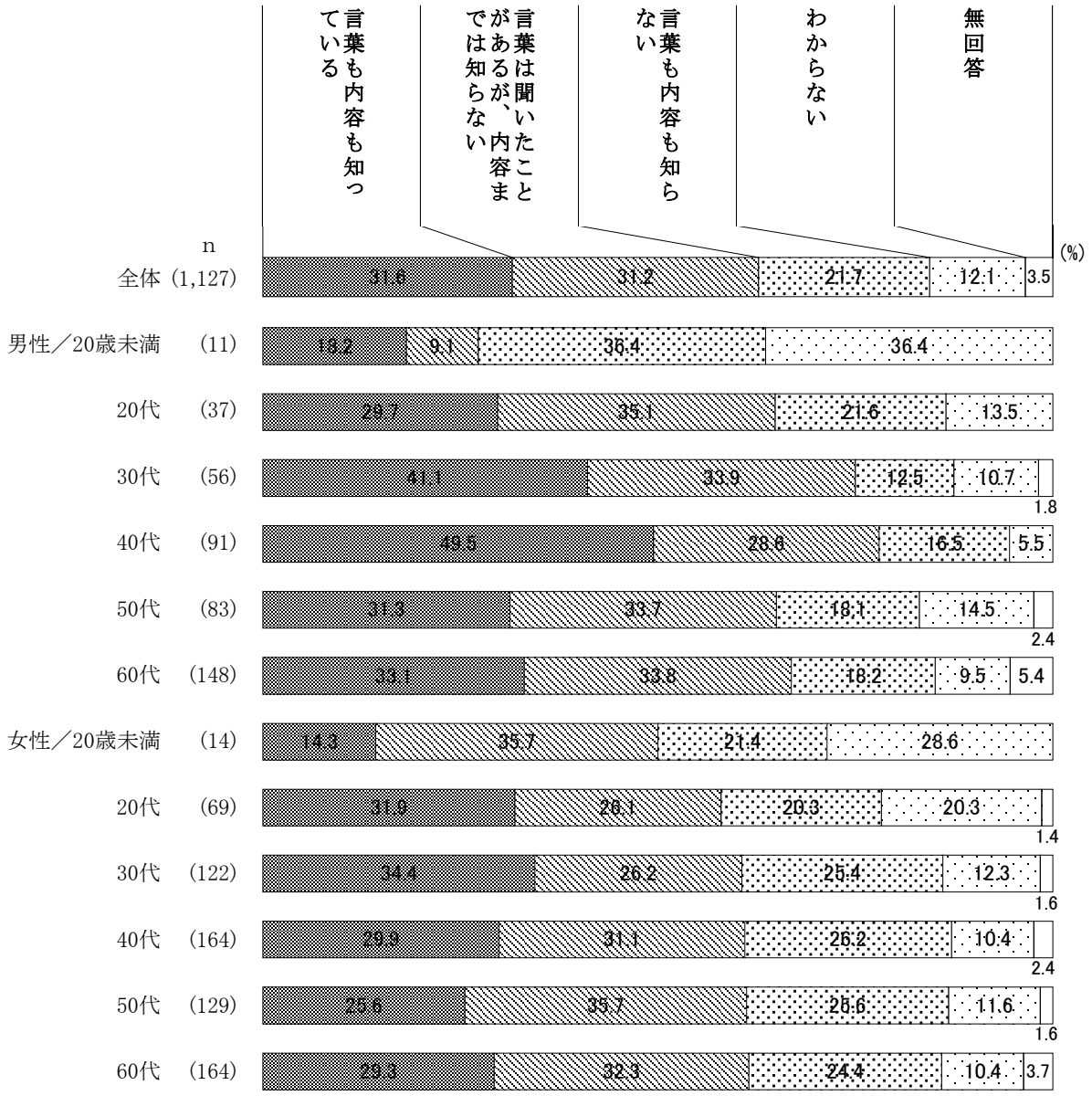
Ｑ１０　あなたは、ワーク・ライフ・バランスという言葉を知っていますか。１つだけお選びください。



ワーク・ライフ・バランスの認知状況は、全体では、「言葉も内容も知っている」「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」が62.8％となっている。

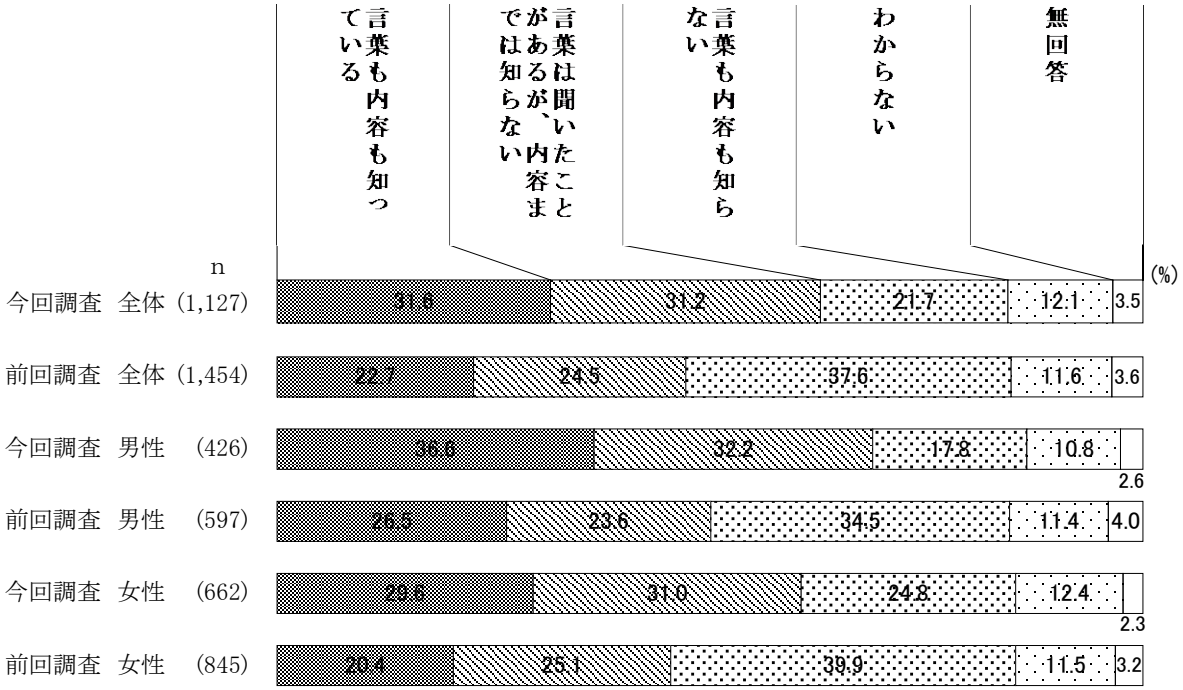
性別では、「言葉も内容も知っている」「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」は男性68.8％、女性60.6％で男性が8.2ポイント高い。「言葉も内容も知らない」は男性17.8％、女性24.8％となっている。

性年代別



性年代別では、「言葉も内容も知っている」「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」は男性40代で78.1％、次いで男性30代75.0％と高い。女性は30代以上で６割を超えている。

経年比較

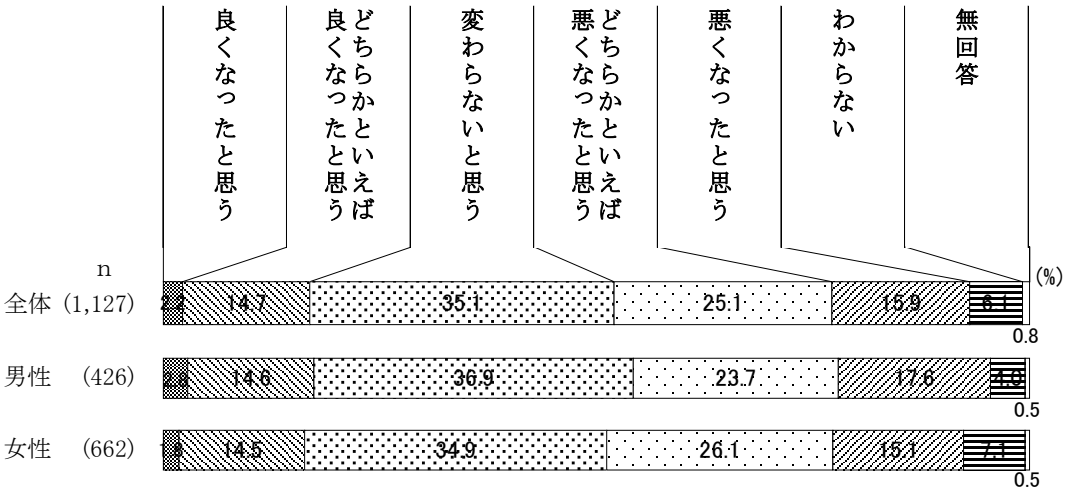


前回調査と比較すると、「言葉も内容も知っている」「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」は全体で15.6ポイント増加し、「言葉も内容も知らない」は15.9ポイント減少している。性別では、「言葉も内容も知っている」「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」は男性18.7ポイント、女性15.1ポイント増加している。「言葉も内容も知らない」は男性16.7ポイント、女性15.1ポイント減少している。

（５）ワーク・ライフ・バランスの５年前との比較

Ｑ１１　政府では「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が実現した社会」について、以下の３つの項目を掲げています。あなた自身の生活や身の回りの環境から判断して、それぞれの項目が５年前と比較してどのように変化していると思いますか。最も近いものをそれぞれ１つだけお選びください。

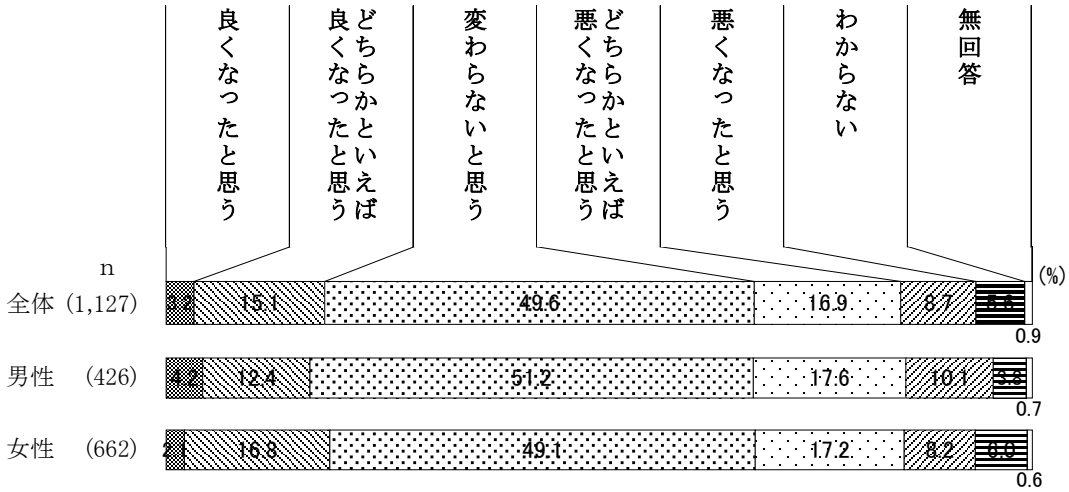
(1) 就労による経済的自立が可能な社会



ワーク・ライフ・バランスについて５年前と比較した変化を聞いたところ、『就労による経済的自立が可能な社会』としては、全体では、「良くなったと思う」「どちらかといえば良くなったと思う」が16.9％、「どちらかといえば悪くなったと思う」「悪くなったと思う」が41.0％で、「変わらないと思う」が35.1％となっている。

性別では、良くなった、悪くなったともに、男女に大きな差はなく、「変わらないと思う」が男性36.9％、女性34.9％となっている。

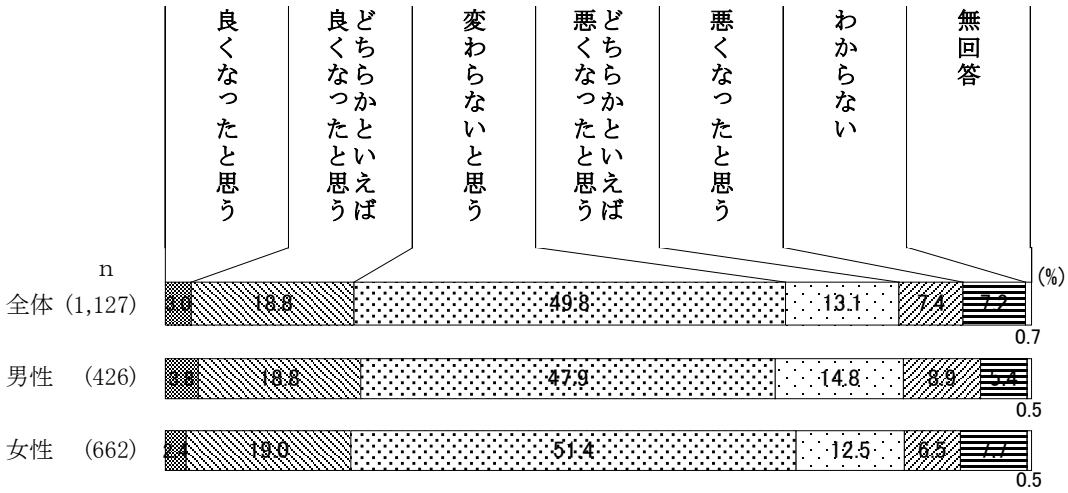
(2) 健康で豊かな生活のための時間が確保される社会



『健康で豊かな生活のための時間が確保される社会』としては、全体では、「良くなったと思う」「どちらかといえば良くなったと思う」が18.3%、「どちらかといえば悪くなったと思う」「悪くなったと思う」が25.6%で、「変わらないと思う」が49.6%となっている。

性別では、良くなった、悪くなったともに、男女に大きな差はなく、「変わらないと思う」が男性51.2%、女性49.1%となっている。

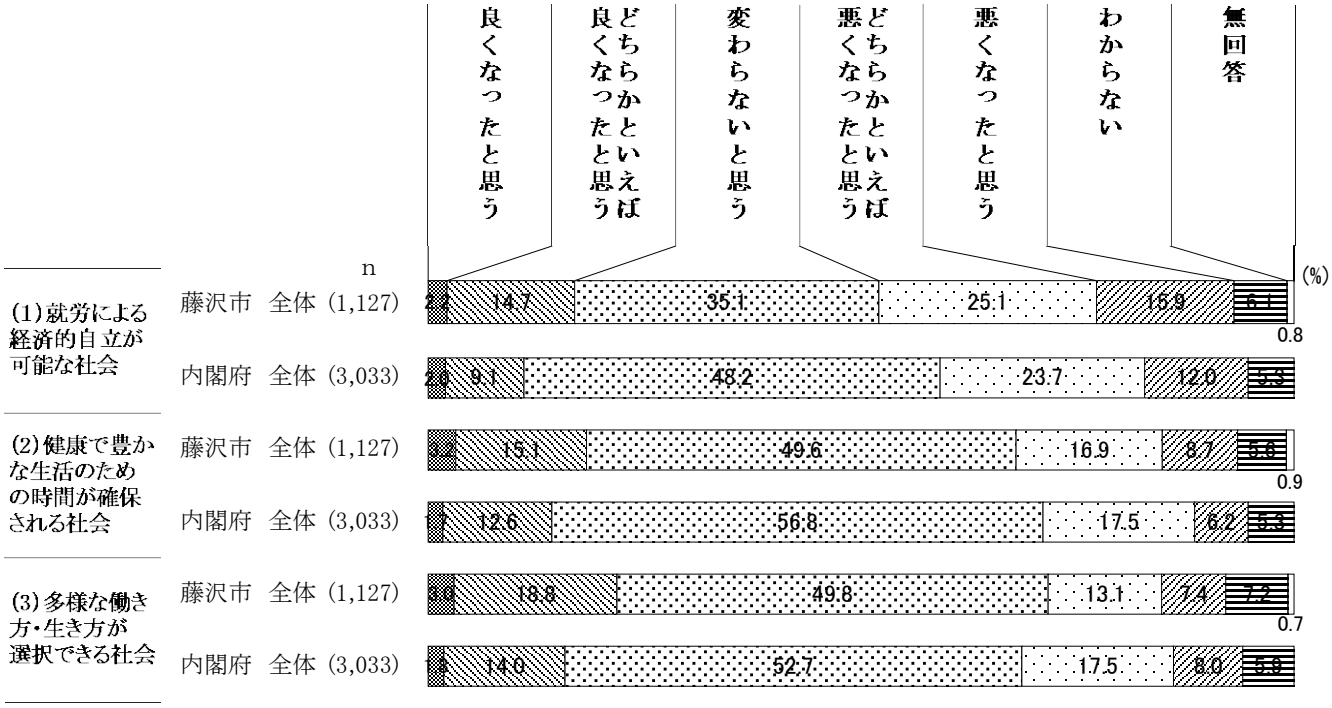
(3) 多様な働き方・生き方が選択できる社会



『多様な働き方・生き方が選択できる社会』としては、全体では、「良くなったと思う」「どちらかといえば良くなったと思う」が21.8%、「どちらかといえば悪くなったと思う」「悪くなったと思う」が20.5%で、「変わらないと思う」が49.8%となっている。

性別では、良くなった、悪くなったともに、男女に大きな差はなく、「変わらないと思う」が男性47.9%、女性51.4%となっている。

国との比較



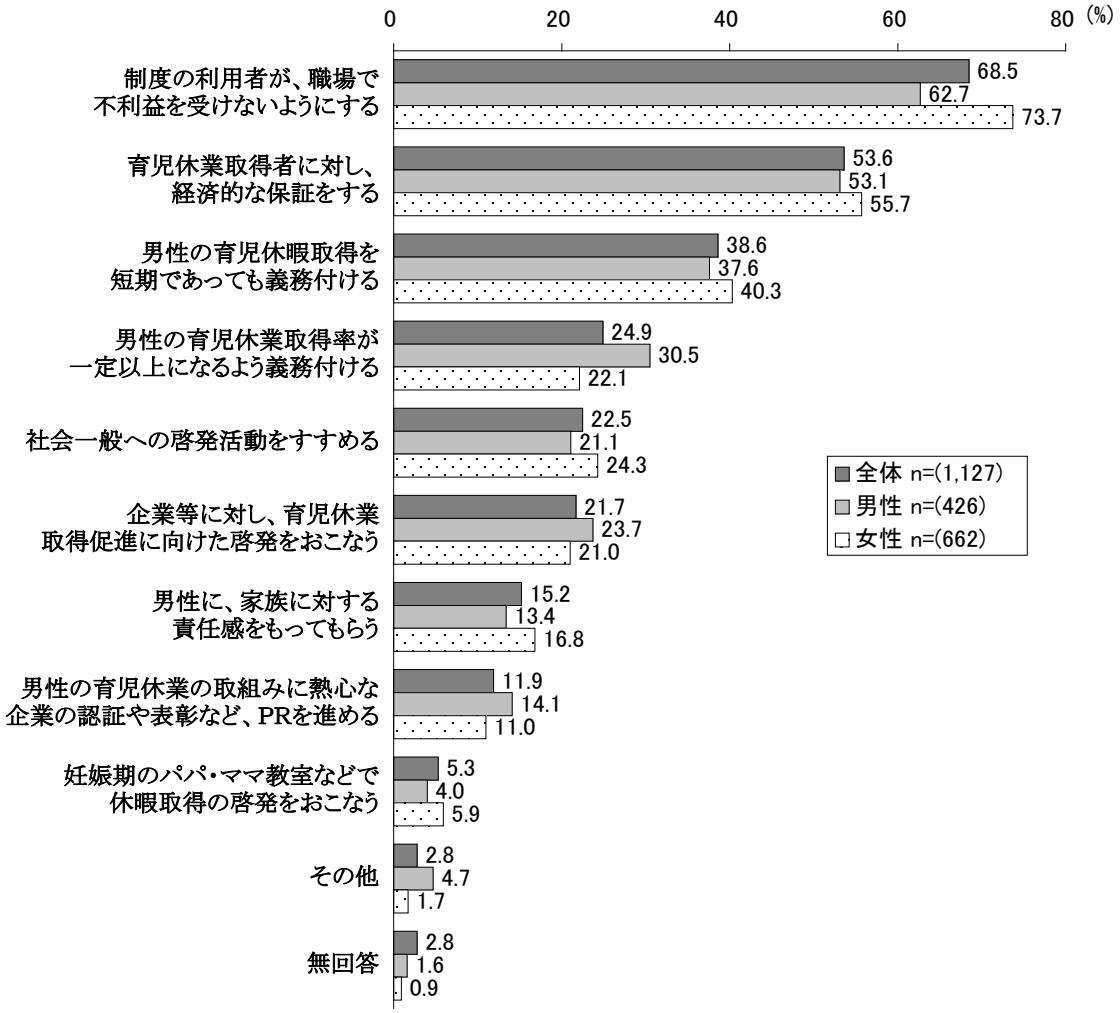
『就労による経済的自立が可能な社会』は国の調査（平成24年実施）、藤沢市とも「変わらないと思う」の割合が高く、国の調査48.2％、藤沢市35.1％で藤沢市が13.1ポイント低い。「良くなったと思う」「どちらかといえば良くなったと思う」は国11.1％に対し藤沢市は16.9％で5.8ポイント高くなっている。「どちらかといえば悪くなったと思う」「悪くなったと思う」は藤沢市が5.3ポイント高い。

『健康で豊かな生活のための時間が確保される社会』は国の調査、藤沢市とも「変わらないと思う」の割合が高く、国の調査56.8％、藤沢市49.6％で藤沢市が7.2ポイント低い。「良くなったと思う」「どちらかといえば良くなったと思う」は国14.3％に対し藤沢市は18.3％で4.0ポイント高くなっている。「どちらかといえば悪くなったと思う」「悪くなったと思う」は国、藤沢市ともほとんど差はない。

『多様な働き方・生き方が選択できる社会』も同様に「変わらないと思う」の割合が高く、国52.7％、藤沢市49.8％で藤沢市が2.9ポイント低い。「良くなったと思う」「どちらかといえば良くなったと思う」は国15.8％、藤沢市21.8％で藤沢市が6.0ポイント高く、「どちらかといえば悪くなったと思う」「悪くなったと思う」は国25.5％、藤沢市20.5％で藤沢市が5.0ポイント低くなっている。

（６）男性の育児休業利用率向上に必要なこと

Ｑ１２　「育児休業」の女性の取得率は、83.6%（2012年度）ですが、男性の取得率は1.89%に留まっています。男性の育児休業利用率を高めるためには、どのようにしたらよいと思われますか。３つまでお選びください。



男性の育児休業利用率を高めるためには、「制度の利用者が、職場で不利益を受けないようにする」が全体で68.5%、女性73.7%、男性62.7%でそれぞれ最も高く、女性の方が男性より11.0ポイント高くなっている。次いで「育児休業取得者に対し、経済的な保証をする」が全体で53.6%、女性55.7%、男性53.1%で、性別による差は少ない。「男性の育児休暇取得を短期であっても義務付ける」は女性が2.7ポイント高く、「男性の育児休業取得率が一定以上になるよう義務付ける」は男性30.5%、女性22.1%で男性が8.4ポイント高くなっている。

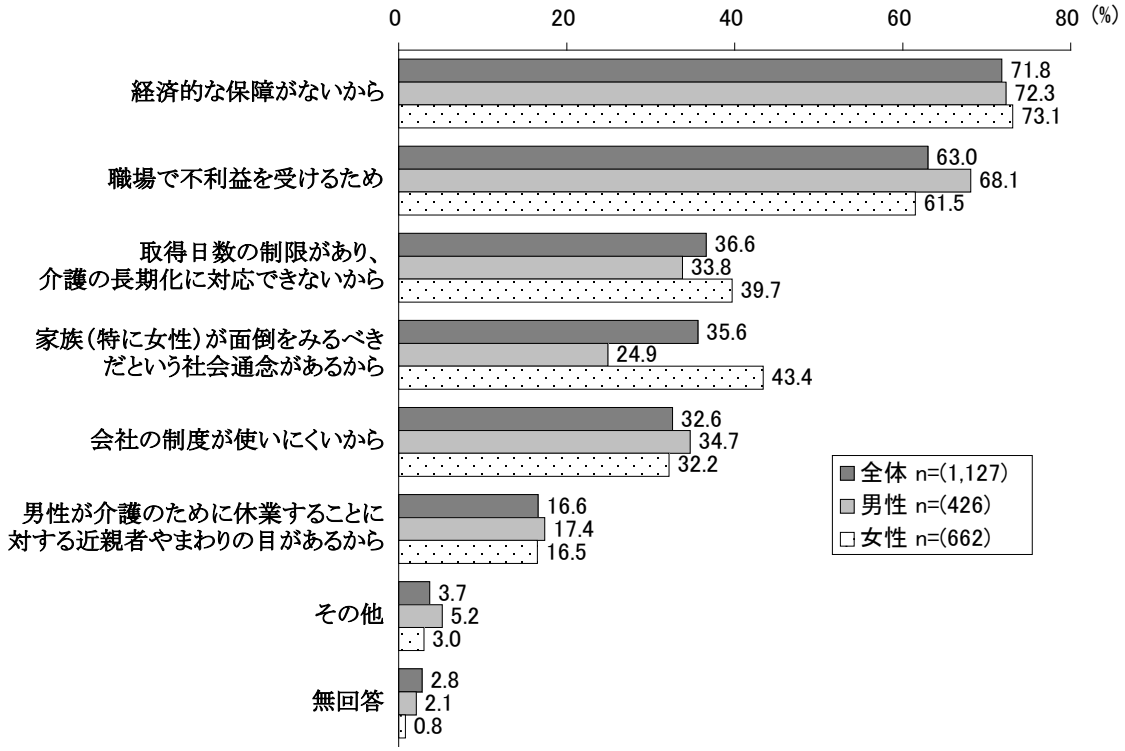
性年代別

	全体	育児休業取得者に対し、経済的な保証をする	妊娠期のパパ・ママ教室などで休暇取得の啓発をおこなう	男性に、家族に対する責任感をもってもらう	社会一般への啓発活動をすすめる	制度の利用者が、職場で不利益を受けないようにする	企業等に対し、育児休業取得促進に向けた啓発をおこなう	男性の育児休業の取組みに熱心な企業の認証や表彰など、ＰＲを進める	男性の育児休業取得率が一定以上になるよう義務付ける	男性の育児休暇取得を短期であっても義務付ける	その他	無回答
全体	1,127	53.6	5.3	15.2	22.5	68.5	21.7	11.9	24.9	38.6	2.8	2.8
男性／20歳未満	11	63.6	18.2	9.1	9.1	63.6	36.4	9.1	18.2	18.2	9.1	－
20代	37	75.7	2.7	10.8	16.2	73.0	18.9	18.9	24.3	29.7	5.4	－
30代	56	57.1	1.8	7.1	14.3	71.4	30.4	12.5	30.4	44.6	5.4	1.8
40代	91	50.5	4.4	9.9	25.3	62.6	22.0	15.4	33.0	31.9	6.6	－
50代	83	44.6	3.6	8.4	21.7	60.2	20.5	13.3	37.3	48.2	3.6	2.4
60代	148	51.4	4.1	21.6	23.0	58.1	24.3	13.5	27.7	35.8	3.4	2.7
女性／20歳未満	14	35.7	21.4	14.3	14.3	57.1	28.6	7.1	14.3	42.9	－	－
20代	69	59.4	7.2	13.0	21.7	75.4	20.3	13.0	24.6	47.8	－	－
30代	122	68.0	2.5	10.7	23.0	72.1	22.1	13.1	15.6	46.7	2.5	－
40代	164	51.2	2.4	15.2	25.6	75.0	17.1	11.0	27.4	36.0	3.7	0.6
50代	129	55.0	9.3	17.1	24.0	78.3	16.3	11.6	22.5	36.4	0.8	1.6
60代	164	51.8	7.3	24.4	26.2	70.7	27.4	8.5	20.7	39.6	0.6	1.8

性年代別では、「制度の利用者が、職場で不利益を受けないようにする」は女性20代～60代、男性20代、30代で７割を超えている。「育児休業取得者に対し、経済的な保証をする」は男性20代が75.7％で最も高く、次いで女性30代の68.0％となっている。「男性の育児休暇取得を短期であっても義務付ける」は男性50代48.2％、30代44.6％、女性20代47.8％、30代46.7％となっている。

（７）男女ともに介護休業取得が進まない理由

Ｑ１３　男女ともに介護休業の取得が進まないのはなぜだと思いますか。３つまでお選びください。



男女ともに介護休業の取得が進まない理由は、「経済的な保障がないから」が全体71.8％、女性73.1％、男性72.3％でそれぞれ７割を超えて最も高い。次いで「職場で不利益を受けるため」が全体63.0％、男性68.1％、女性61.5％で男性の方が女性より6.6ポイント高い。「家族（特に女性）が面倒をみるべきだという社会通念があるから」は女性43.4％、男性24.9％で女性の方が男性より18.5ポイント高くなっている。

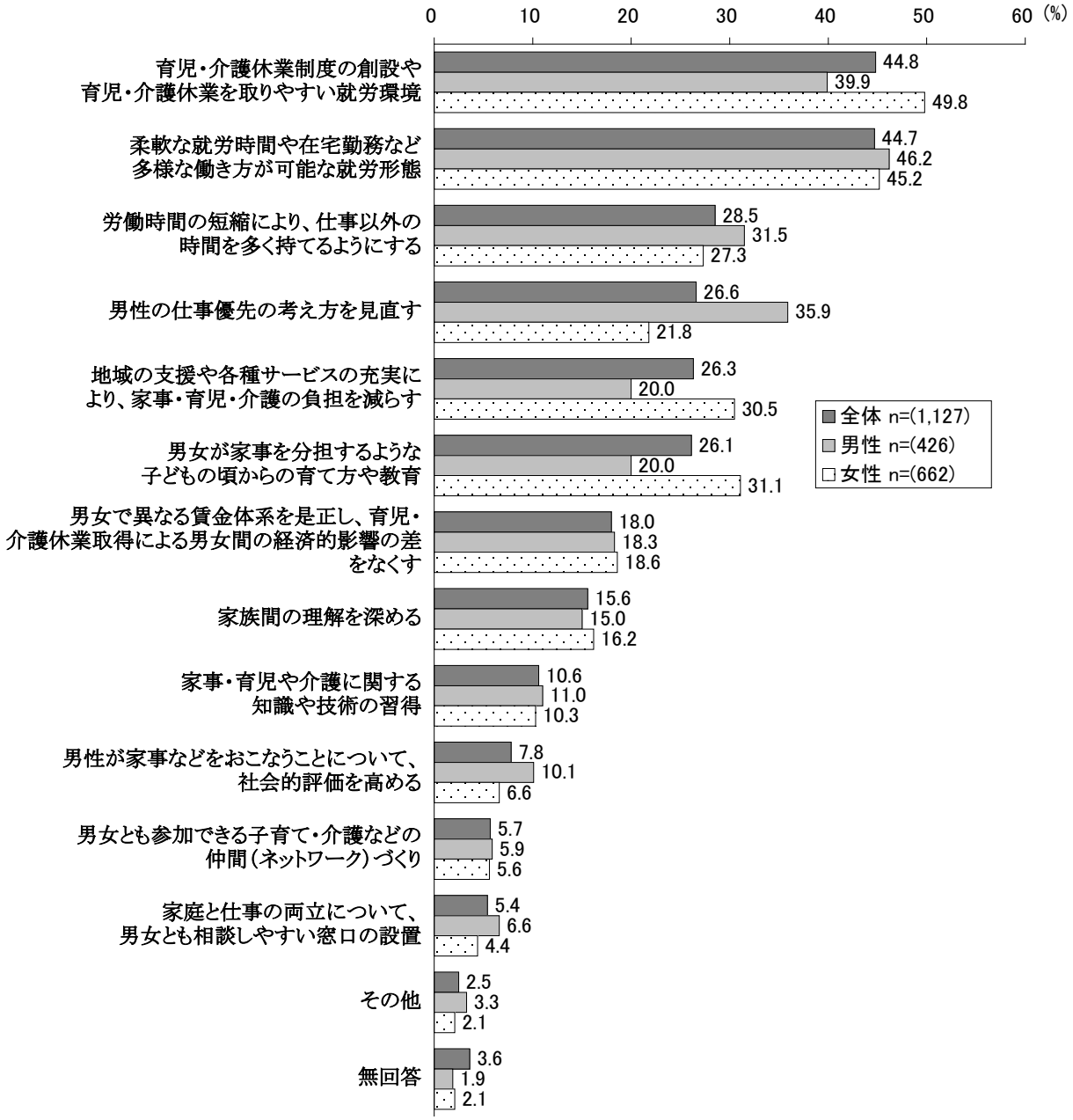
性年代別

	全体	経済的な保障がないから	取得日数の制限があり、介護の長期化に対応できないから	職場で不利益を受けるため	会社の制度が使いにくいから	家族（特に女性）が面倒をみるべきだという社会通念があるから	男性が介護のために休業することに対する近親者やまわりの目があるから	その他	無回答
全体	1,127	71.8	36.6	63.0	32.6	35.6	16.6	3.7	2.8
男性／20歳未満	11	72.7	27.3	36.4	9.1	54.5	36.4	9.1	－
20代	37	75.7	16.2	78.4	40.5	27.0	24.3	2.7	－
30代	56	73.2	39.3	71.4	44.6	21.4	7.1	3.6	－
40代	91	72.5	33.0	68.1	31.9	19.8	13.2	9.9	－
50代	83	74.7	39.8	71.1	26.5	14.5	19.3	8.4	2.4
60代	148	69.6	33.8	64.9	37.8	32.4	19.6	1.4	4.7
女性／20歳未満	14	50.0	14.3	64.3	7.1	57.1	21.4	－	－
20代	69	60.9	40.6	60.9	37.7	36.2	27.5	1.4	－
30代	122	78.7	42.6	68.0	31.1	32.8	18.0	3.3	0.8
40代	164	67.7	34.1	60.4	31.1	48.8	17.1	6.1	0.6
50代	129	79.1	41.1	55.8	29.5	51.2	14.0	1.6	－
60代	164	76.8	43.9	62.2	36.0	41.5	11.6	1.8	1.8

性年代別では、「経済的な保障がないから」は男性60代を除く男性、女性30代と50代以上で７割を超えて高い割合となっている。「職場で不利益を受けるため」は男性20代、30代、50代で７割台、女性は20代～40代、60代で６割台と高い。

（８）ワーク・ライフ・バランス実現のために必要だと思うこと

Ｑ１４　ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要だと思うことを３つまでお選びください。



ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要だと思うことは、「育児・介護休業制度の創設や育児・介護休業を取りやすい就労環境」が全体で44.8％、女性49.8％、男性39.9％で、全体、女性で最も高く、男性では「柔軟な就労時間や在宅勤務など多様な働き方が可能な就労形態」が46.2％で最も高くなっている。性別による差が見られるのは、「男性の仕事優先の考え方を見直す」が男性35.9％、女性21.8％で男性の方が14.1ポイント高く、「男女が家事を分担するような子どもの頃からの育て方や教育」が女性31.1％、男性20.0％で女性の方が11.1ポイント高い。また、「地域の支援や各種サービスの充実により、家事・育児・介護の負担を減らす」も女性30.5％に対し、男性20.0％で女性の方が10.5ポイント高い。

性年代別

	全体	家事・育児や介護に関する知識や技術の習得	家族間の理解を深める	男性の仕事優先の考え方を見直す	男女が家事を分担するような子どもの頃からの育て方や教育	労働時間の短縮により、仕事以外の時間を多く持てるようにする	育児・介護休業制度の創設や育児・介護休業を取りやすい就労環境	男女で異なる賃金体系を是正し、育児・介護休業取得による男女間の経済的影響の差をなくす	柔軟な就労時間や在宅勤務など多様な働き方が可能な就労形態	男性が家事などをおこなうことについて、社会的評価を高める	地域の支援や各種サービスの充実により、家事・育児・介護の負担を減らす	男女とも参加できる子育て・介護などの仲間（ネットワーク）づくり	家庭と仕事の両立について、男女とも相談しやすい窓口の設置	その他	無回答
全体	1,127	10.6	15.6	26.6	26.1	28.5	44.8	18.0	44.7	7.8	26.3	5.7	5.4	2.5	3.6
男性／20歳未満	11	9.1	18.2	18.2	36.4	18.2	36.4	9.1	36.4	36.4	9.1	18.2	9.1	－	－
20代	37	13.5	10.8	40.5	21.6	29.7	35.1	10.8	40.5	16.2	8.1	10.8	5.4	10.8	－
30代	56	10.7	12.5	35.7	12.5	33.9	55.4	10.7	53.6	12.5	10.7	8.9	3.6	1.8	－
40代	91	11.0	13.2	39.6	17.6	35.2	37.4	13.2	52.7	9.9	20.9	3.3	6.6	6.6	1.1
50代	83	6.0	9.6	41.0	15.7	38.6	36.1	14.5	55.4	7.2	22.9	4.8	4.8	3.6	2.4
60代	148	13.5	20.9	31.1	25.0	25.7	39.2	29.1	36.5	7.4	25.0	4.7	8.8	－	3.4
女性／20歳未満	14	35.7	28.6	7.1	35.7	21.4	28.6	14.3	21.4	14.3	7.1	21.4	7.1	－	－
20代	69	5.8	8.7	29.0	26.1	40.6	60.9	13.0	47.8	11.6	18.8	7.2	1.4	1.4	－
30代	122	10.7	14.8	20.5	25.4	45.1	52.5	19.7	47.5	7.4	24.6	4.1	0.8	0.8	－
40代	164	5.5	17.7	20.7	27.4	25.0	46.3	18.9	49.4	8.5	28.0	3.7	2.4	4.3	3.0
50代	129	14.7	17.1	19.4	28.7	16.3	53.5	20.2	48.1	2.3	38.8	7.0	7.0	3.1	1.6
60代	164	11.0	17.1	23.8	42.7	20.1	45.7	18.9	37.8	4.9	37.8	5.5	7.9	0.6	4.3

性年代別では、「育児・介護休業制度の創設や育児・介護休業を取りやすい就労環境」は女性20代が60.9％で最も高く、男女の30代、女性50代で５割台となっている。「柔軟な就労時間や在宅勤務など多様な働き方が可能な就労形態」は、男性30代～50代で５割を超えて高く、女性20代～50代で４割台後半となっている。「男性の仕事優先の考え方を見直す」は男性の回答割合が高く、男性20代、50代で４割台、30代、40代、60代で３割台となっているが女性は20代～40代、60代で２割台となっている。「男女が家事を分担するような子どもの頃からの育て方や教育」は、女性の回答の割合が高く、女性60代42.7％で最も高く、女性20代～50代で２割台、男性では20代と60代で２割台となっている。「地域の支援や各種サービスの充実により、家事・育児・介護の負担を減らす」も女性の回答割合が高く、女性50代、60代で３割台後半と高い。